

## IV. 事例研究

### 1. 本章の構成

IV章では、研究協力機関が実施した事例研究の紹介の前に、研究機関の紹介と単元作成をする上で検討する必要があるカリキュラム・マネジメント実践について、2校の取組を紹介する。

事例研究についての概要是次節で説明するが、本章では教科別の指導と教科等を合わせた指導に分けて掲載した。

### 2. 事例研究の概要

#### (1) 事例研究の目的

事例研究では、これまでの知的障害教育の方法と実践上の資産の上に、各教科の目標・内容を踏まえて、単元づくりと学習評価を行うことを通して、現在の知的障害特別支援学校の置かれている状況の中で、実践を行う際の工夫点と課題点を明らかにすることを目的とする。

#### (2) 事例研究の方法

##### ① 研究協力機関について

研究協力機関は、学校研究において、学習指導要領と関連づけた教育課程の編成と授業づくりをテーマとし、学習評価を課題としている知的障害教育特別支援学校を対象とした。対象となる学校の選定に当たっては、近隣の教育委員会や知的障害教育分野の研究者に情報収集をした上で打診し、学習指導要領と関連付けた教育課程の編成と授業づくりに加え、学習評価までの実践提供が可能な学校に依頼を行っている。

##### ② 研究協力機関への依頼内容

- ア 一人一人の児童生徒への付けたい力を意識した上で、学習指導要領の目標・内容と関連づけた単元目標の設定の実施
- イ 令和2年に出された、文部科学省 特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料に示された観点別学習状況の評価の実施
- ウ 研究所職員との実践内容の打合せと参観
- エ 実践を行った上で、学習指導要領に示されている目標・内容を踏まえた、単元づくりと学習評価を行う際の工夫点や課題点の考察
- オ 上記実践に関わる資料提供

### ③ 研究期間

事例研究は令和3年度、令和4年度に行っている。

※令和4年度の事例に関しては、学習評価の実際に加え、評価に際してどのような姿を元に評価したのかが記載されていて、標記内容に違いがある。事例年度については、事例毎に示している。

※「評価基準」の用語については、以前国が示した定義とは異なる意味で使用されている実態がある。本研究における事例研究で紹介する各学校の研究においてもそのような例がみられるが、本報告書においては、それぞれの学校において取り組んだ状況に手を加えずに示すこととし、その学校が使用したとおりに「評価基準」の用語を用いている。

※執筆担当者は、実践部分は研究協力機関、実践に関する考察部分は研究分担者と特別研究員である。研究協力機関が執筆した部分に関する用語等は、学校で使用している文言をそのまま収録している。

### 3. 研究協力機関の特色

#### (1) 熊本大学教育学部附属特別支援学校

##### ① 学校概要

創立57年の本校は、国立大学法人熊本大学の附属校であり、通学する児童生徒の障害程度区分は最重度から軽度と様々である。児童生徒数は60名、学級数9の小規模校である。

附属学校として、「先導的研究／教育実習／共同研究の推進」を掲げ、教育研究活動に取り組んでおり、平成29年度から令和元年度までの3年間、文部科学省の委託を受け「新学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント～熊大式マネジメントシステムの構築～」について研究を行った。

令和2年度から、「情報活用能力を発揮して未来社会を切り拓く知的障がいのある児童生徒の育成」をテーマに研究を進め、今年度3年目である。

##### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

本校の学校教育目標は「自立と社会参加をめざして主体的に取り組む子どもを育てる」である。これを受け、本校の基本方針は、「子どもの学びを基盤としたチームアプローチにより、一人一人の教育的ニーズに応じた一貫した教育支援を実施する」ことを掲げている。特徴的な取組としては、「支援者ミーティング」がある。PATHミーティングの手法を取り入れたもので、在学中に3年に1度開催している。本人を中心として「学校卒業後の夢や希望から、3年後、目標達成に向けた支援」を関係者が共有する。

この共有した「一人一人のありたい姿、夢や希望」を出発点に、卒業後の働く生活を見据え、卒業生の進路先とも協働して在学中に身に付けておくべき資質・能力を明らかにしながら、小・中・高一貫した教育課程の編成を実施している。

##### ② 学習評価とその活用の取組

##### ア 取組の概要

児童生徒の資質・能力を育成していくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とともに、「カリキュラム・マネジメント」の充実が重要である。「授業改善」を、1単位時間の授業のみならず、「単元や題材などの内容や時間のまとまり」を意識しながら行うことを通して、その単元が年間計画にどのように位置付けられているのか俯瞰していくことで、カリキュラム・マネジメントが機能し、児童生徒の深い学びへつながると考える。

そこで、本校では、L (Long)・M (Middle)・S (Short) の3つの段階を設定し、各段階でのシートを効率的・効果的に活用しながら、各教科の特質等を捉えた単元や授業を構想し、学習評価と授業改善、次年度への教育課程改善につなげている。

## L・M・S計画・評価の流れ図



図IV-3-1 熊本大学教育学部附属特別支援学校 L・M・S 計画・評価の流れ図

### イ 評価の方法

「Mシート（本校独自の単元構想シート）」には「教科との関連表」で示す教科内容を表記し、それに応じた教科目標を併記することで、職員間で単元の共通理解を図っている。また、特にチームティーチングで行う授業は「Sシート（本校独自の授業構想シート）」を使って授業展開や本時の内容及びねらいを複数人で共有する。

### ウ 評価のシステム

授業後に、児童生徒下校後の15分間の「S研」でSシートをもとに授業の反省を担当職員が主導して行う。「S研」の計画は各学部の教務部が月ごとに計画を出す。「S研」では、児童生徒の様子や授業展開等、授業で目立った要素について端的に意見を出し合い、改善と志向を共有する。全授業の反省は時間的に厳しいため、現状ではより多くの職員がかかわった授業を中心に実施している。

### エ 困難に感じていることや課題

単元後は児童生徒下校後や学部ミーティングの15分間の「M研」でMシートを基に単元の反省を学部全職員で行う。単元の評価は[期日/時数/内容/教材/学習グループ]が適正であったかどうかの「指導の評価」と単元の反省・次回への志向が中心であり、時間内に児童生徒の「学習状況の評価」まで辿り着いていないのが現状であり、今後の課題である。

## （2）千葉県立つくし特別支援学校

### ① 学校概要

本校は鎌ヶ谷市・松戸市東部、柏市南部の一部の3市を学区とする、知的障害を対象とした特別支援学校である。総児童生徒数が240名と県内でも比較的大規模な学校で、これまで校内の過密状況を緩和することを目的に、新設校への学区分離や高等部新校舎の増築などを実施してきた経緯がある。学習指導要領の改定に合わせ、平成30年度から日課表の一部を変更し、帯状の時間枠を見直して、時間で区切った各教科の時間枠を設けた。それに伴って新たな視点での「授業づくり」と「学習内容の整理」を全校の研究主題として、授業研究に取り組んでいる。

#### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

学校教育目標は、「児童生徒一人一人が持つ力を引き出し、主体的な学習活動を支え、自立に向けて「生きる力」を育む。」として、以下の三つを掲げている。

- 【確かな学びの確立】学習意欲を高め、主体的に学び、思考し、表現する力を育む。
- 【心の教育の推進】自他を大切にし、思いやりや感動する心などの豊かな人間性を育む。
- 【健康・体力づくりの推進】たくましく生きるために健康や体力を増進させる。

教育課程については、年度末に学年で教科ごとに次年度のおおまかな計画を立案し、課題や反省を記して引き継ぐ。新年度に新しい学年の担当が見直しをし、正式な年間指導計画を作成することとしている。今年度より、各教科の「年間の目標」を3観点を踏まえて明記するようにし、単元ごとの目標も年間の目標を受けて立て、活動名だけではなく学習内容をできるだけ書くこととしている。

また、単元ごとに児童生徒の学習状況の評価と、授業の振り返りをする「単元の振り返りシート」を今年度新たに作成している。加えて、「実態把握シート」も充実させていき、授業づくりのPDCAサイクルを働かせていくこととしている。各教科の年間指導計画を学年ごとに1枚にまとめ、教科の系統性や教科間のつながり、学んだことの活用の場面があるなど検証している。

### ② 学習評価とその活用の取組

#### ア 取組の概要

昨年度より、評価の3観点に沿った目標設定の学習指導案を作成。参観者には「授業参観シート」を配付し、児童生徒の学びの様子を評価してもらい、手立てや授業について協議している。

#### イ 評価の方法

授業参観やビデオ視聴により、「授業参観シート」の個別目標に対する学びの様子を評価する。

#### ウ 評価のシステム

目標に沿った評価規準と、どのような様子を見取るか評価基準を設定している。

#### エ 困難に感じていることや課題

- ・実態のある学習グループの評価規準と評価基準を的確に設定すること。
- ・参観者と、評価基準が共有できるように設定すること。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の目標設定と、その見取り方。

### (3) 千葉県立千葉特別支援学校

#### ① 学校概要

千葉県立千葉特別支援学校は、平成3年に開校した知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で、小学部、中学部、高等部を設置している。

令和3年度の児童生徒数は、小学部66名、中学部52名、高等部117名、合計235名、教職員数は116名である。

#### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

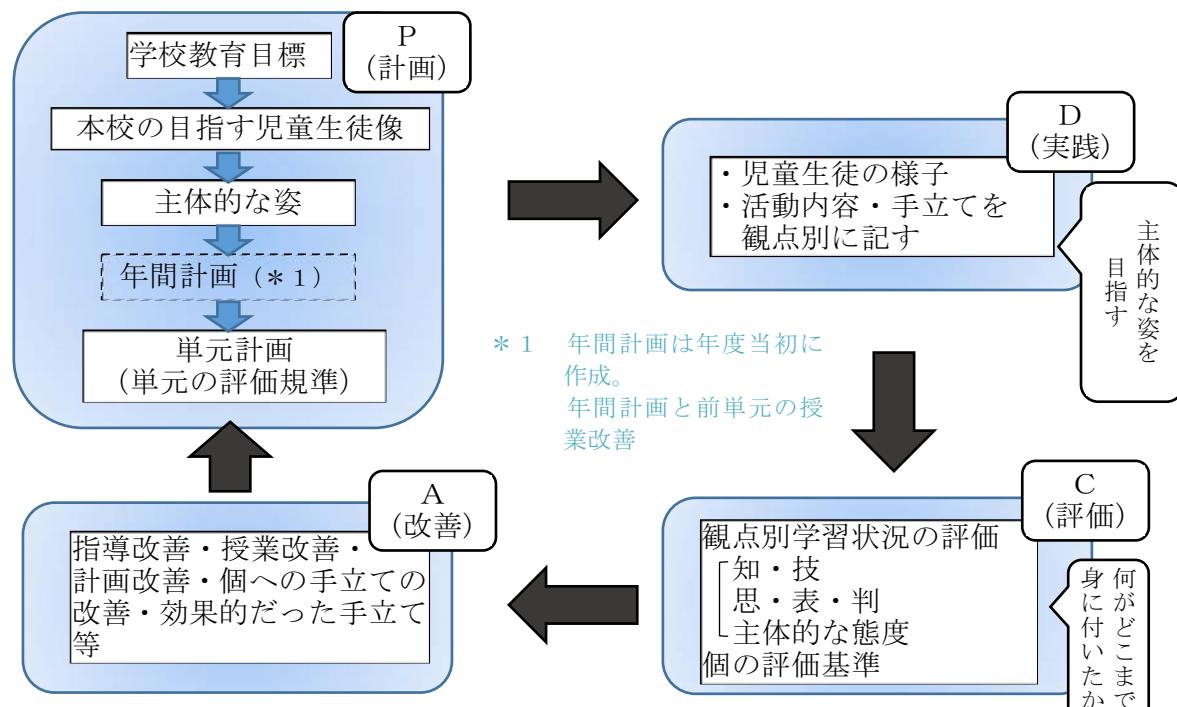
学校教育目標を「たくましく主体的に活動する、心豊かな児童生徒の育成」とし、「自ら学び、自ら考え課題を解決できる児童生徒」、「健康・安全で活力ある生活を送るための健やかな体をもつ児童生徒」、「自己とともに他者を尊敬し、豊かな心をもつ児童生徒」の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。

各学部には普通学級と重複学級があり、普通学級では知的障害教育の教育課程を編成し、重複学級では自立活動を主とする教育課程を編成している。各学部それぞれ、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習）が帯状に設定されている。

#### ② 学習評価とその活用の取組

##### ア 取組の概要

本校では、「PDCAサイクルに基づいた合わせた指導の授業づくりの構成図」（図IV-3-2）に示した流れで授業づくりに取り組んでいる。



図IV-3-2 PDCAサイクルに基づいた合わせた指導の授業づくりの構成図

各教科等を合わせた指導の年間計画を立てる際に、生活単元学習は、前年度末に学部・学年や学習グループごとに生活単元学習で取り組んだ各教科等の内容をまとめた表(図IV-2-3)を参考にし、新年度当初に立てている。作業学習は、前年度末に作業班ごとに作業学習で取り組んだ各教科等の内容を参考にして、次年度の年間計画案を立て(図IV-3-4)、新年度当初に改めて、前年度に立てられた年間計画を参考にして立てている。

各教科の内容(小学部) 1年													
生 活	ア 基本的生活習慣		イ 安全	ウ 日課・予定	エ遊び	オ 人の関わり	カ 座面	キ 手伝い・仕事	ク 金銭の扱い	ケ まじめ	コ 社会のはづみ と公共施設	サ 生命・自然	シ ものの仕組みと 規則
	1段階	2段階											
国語	(知識・技能)					(思・利・表) A 関くこと・話すこと ※特定の段階のみ扱う内容は○に段階を表示			(思・利・表) B 書くこと			(思・利・表) C 読むこと	
	ア 言葉の特徴/使い方/書道の書き方/発音/文字/語彙/文の構成/言説//3段階のみ/イ 意味/読み聞かせを聞く/イ 応答/指示理解(1-2)/ウ (3段階はイ) 伝えたいことを書きえる/(3段階のみ) 読解/エ 接触・吟誦(2,3)/オ 話し方/カ 伝え合う(オ,カは3のみ)											ア 整頓を考える/(3段階のみ) 書く順序(3段階はワ)	ア 意味/イ ストーリー理解/ウ 印や表示、語句等の理解/エ 構成・音読
算数	(1段階はA) 数量の基礎		A(1段階) B 数と計算		B(1段階) C 図形		C(1段階) D 測定		D データの活用				
	4												
音楽	A 表現 ア 音楽遊び・歌唱		A 表現 イ 韻律		A 表現 つ音楽づくり		A 表現 工芸作表現		B 音楽				
図工	A 表現	B 音楽											
体育	A 体作り運動		B 運動・器具を使っての運動	C 走・跳の運動	D 水の中での運動	E ボールを使った運動やゲーム	F 表現運動	G 保健					

図IV-3-3 生活単元学習で取り組んだ各教科等の内容をまとめた表

高等部 作業学習 年間計画について												
【作業学習】												
作業活動を学習の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの。												
作業学習の成果を直接将来的進路に直結させることよりも、働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要。												
高等部:職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容や、主として専門学科において解説される各教科の目標及び内容を中心とした学習へつながるもの。												
【職業】 目標												
職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようになる。												
思・判・表 将来の職業生活を見据え、必要な事項を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。												
学び よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。												
内容												
ア 勤労の意義	1段階			2段階								
	(知)	勤労の意義を理解すること	①	勤労の意義について理解を深めること。								
	(思)	意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者の協力について考え、表現すること。	②	目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者の協力について考え、表現すること。	③	④						
	(学)	作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。	⑤	作業や実習等を通して貢献する喜びを得体得し、計画性をもって主体的に取り組むこと。	⑥							
		ア) 職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること。	⑦	職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること。	⑧							
職業生活		イ) 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。	⑨	職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深める	⑩							
高等部(縫工)班 年間計画表												
単元期間・単元名												
学んでほしい教科等												
「担当の仕事を覚えて丁寧に製品を作ろう」												
8/8~7/29												
1段階 A 農業生活イ職業 (ア) (下) (T p111)												
(思・利・表) A 農業生活イ職業 (ア) (下) (T p109)												
<目的的取組む態度> (ア) 作業や実習等に達成感を得て計画性をもって主体的に取り組むこと。												
1段階 A 農業生活ア勤労の意義 (ウ) (T p109)												
(その他の教科) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。												
「協力して品質の良い、製品作りに取り組もう」												
8/3~10/1												
「知識・技能」非 材料や育成する作物等の特性や使い方及び生産や生育活動等に開拓する技術について理解すること。												
1段階 A 農業生活ア勤労の意義 (ア) (T p111)												
(思・利・表) 表現												
(その他の教科) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。												
【社会】 1段階ニ農業と生活 (ア) (上) (p63)												

図IV-3-4 作業学習の次年度の年間計画案

また、PDCAサイクルに基づいた各教科等を合わせた指導の単元・授業づくりにおいては、「単元計画表」(図IV-3-5)、「PDCAサイクルシート(Pシート)」(図IV-3-6)、「流れ図」(図IV-3-7)を用いて学習評価を重視した授業改善を行っている。

令和3年度 高等部作業学習 単元計画表																																																		
学部	作業班(担当者)	期間(時数)	単元名																																															
単元の概要	①生徒の様子(前単元までの様子) ②単元について ③主体的に活動できるための手立てについて																																																	
	<p style="text-align: center;">作業学習の意義や留意点について、毎回光チックし、意識して取り組むようにする。</p>																																																	
評価基準	<p>&lt;作業学習とは&gt;は作業学習の成果を直接将来の道筋に直結させることにより、商・意欲を養いながら、将来の職生活や社会貢献に向けて基礎となる資質・能力を育むもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動に取り組む意義や価値に熱れ、喜びや完成感を感じ取れるようにしている</li> <li>作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的である</li> <li>単元期間を一人一人に応じた作業量や作業時間で適切に設定している</li> <li>製品や仕事に対する態度を意識して取り組むようにしている</li> <li>教師も生徒も作業開始時間を守っている</li> <li>身だしなみ、振舞、面接等が身に付けるようにしている(教師が手本となっている)</li> </ul>																																																	
	<p>【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>*評価基準は、目標に対して、本单元で何ができるかをよりよい形で達成点を表す「~している」 ※本单元は別々に記載する必要があるが、本校では単元の目標と評価基準を単元の目標として合わせて記す。評価は「~している」。</p>																																																	
教科等	<p style="text-align: center;">学習指導要領の目標・内容一覧表より、 教科・段階・内容の記号の順に記載。 「県作成のエクセルデータ」を使用</p>																																																	
	<p>自立活動内容は個に応じる</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>曜日</th> <th>活動内容</th> <th>評価計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td>知 感 主</td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td>同じ活動が続く場合は、まとめて記し、一枚に収まるようにする。</td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>/</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">どの活動で評価基準の3観点の内の何を評価するか□に付ける。特に重きを置く観点は○。</p>			月日	曜日	活動内容	評価計画	/			知 感 主	/				/				/				/		同じ活動が続く場合は、まとめて記し、一枚に収まるようにする。		/				/				/				/				/				/		
月日	曜日	活動内容	評価計画																																															
/			知 感 主																																															
/																																																		
/																																																		
/																																																		
/		同じ活動が続く場合は、まとめて記し、一枚に収まるようにする。																																																
/																																																		
/																																																		
/																																																		
/																																																		
/																																																		
/																																																		

図IV-3-5 単元計画表

学校目標「たくましく主体的に活動する、心豊かな児童生徒の育成」																			
P	<p>○やりたい気持ちをもって自分で行動する。○見通しをもって最後まで取り組む。○友だちや教師と共に活動する。○経験と身に付いたことをもとに、自分から行動する姿。○社会や集団でのルールやマナーなどを知り、正しく判断して、自分から行動する姿。</p> <p>&lt;単元の目標(評価標準)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>知識及び技能</th> <th>思考力、判断力、表現力等</th> <th>学びに向かう力、人間性等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">単元計画表より抜粋</td> </tr> </tbody> </table> <p>自立活動個に応じる</p>		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	単元計画表より抜粋													
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等																
単元計画表より抜粋																			
<p>単元名_____ (作業) 記入者_____</p> <p>事例生徒名 高等部 年 班</p> <p>単元期間 / ~ /</p> <p>&lt;事例生徒の様子&gt;</p> <p>評価基準の根拠となる生徒の様子を記載 実習の評価や教科別・領域別の指導についても記入して良い</p> <p>&lt;主体的に学ぶための活動内容・手立て&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>知識及び技能</th> <th>思考力、判断力、表現力等</th> <th>学びに向かう力、人間性等</th> </tr> </thead> </table>		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等															
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等																	
A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">最終的な様子</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>何が、どこまで、どのような支援があつてできたか 通知表の記載につながるように記載</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>今後の目標を取り組む方</p> <p>・「今後目指す姿」の語尾は、「～ほしい」、そのために必要な指導支援、改善点を記載する。 ・「継続・変更・追加」は、個が学んだ評価基準の各教科の内容を今後どのように学んでいくかを記載 例:「継続」して取り組む、教科の内容や段階を「変更」する、他の教科の内容を「追加」する</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>継続・変更・追加</p> </td> </tr> </tbody> </table>		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	最終的な様子			<p>何が、どこまで、どのような支援があつてできたか 通知表の記載につながるように記載</p>			<p>今後の目標を取り組む方</p> <p>・「今後目指す姿」の語尾は、「～ほしい」、そのために必要な指導支援、改善点を記載する。 ・「継続・変更・追加」は、個が学んだ評価基準の各教科の内容を今後どのように学んでいくかを記載 例:「継続」して取り組む、教科の内容や段階を「変更」する、他の教科の内容を「追加」する</p>			<p>継続・変更・追加</p>				
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																
最終的な様子																			
<p>何が、どこまで、どのような支援があつてできたか 通知表の記載につながるように記載</p>																			
<p>今後の目標を取り組む方</p> <p>・「今後目指す姿」の語尾は、「～ほしい」、そのために必要な指導支援、改善点を記載する。 ・「継続・変更・追加」は、個が学んだ評価基準の各教科の内容を今後どのように学んでいくかを記載 例:「継続」して取り組む、教科の内容や段階を「変更」する、他の教科の内容を「追加」する</p>																			
<p>継続・変更・追加</p>																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">個の評価基準</td> <td rowspan="2"> <input type="radio"/> ○  <input checked="" type="radio"/> □ つねに  <input type="radio"/> △  <input type="radio"/> ▲         </td> <td rowspan="2"> <p>○評価規準をもとに評価基準を記載 ○十分満足できると判断される姿 (単元終了時に目指す姿) ○おむね満足できると判断される姿 (単元中盤の姿) △単元開始時の姿 ○△は記号のみでも良い</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>単元の評価規準と同様の場合は「規準と同様」と記載 自立活動は個に応じた内容を記載</p> </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">教科</td> <td rowspan="2"> <input type="radio"/> ○  <input type="radio"/> □ 何を学ぶか  <input type="radio"/> △  <input type="radio"/> ▲         </td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>自立活動</p> </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">評価</td> <td rowspan="2"> <input type="radio"/> ○  <input type="radio"/> □  <input type="radio"/> △  <input type="radio"/> ▲         </td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>C</p> </td> </tr> </tbody> </table>		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	個の評価基準	<input type="radio"/> ○ <input checked="" type="radio"/> □ つねに <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲	<p>○評価規準をもとに評価基準を記載 ○十分満足できると判断される姿 (単元終了時に目指す姿) ○おむね満足できると判断される姿 (単元中盤の姿) △単元開始時の姿 ○△は記号のみでも良い</p>	<p>単元の評価規準と同様の場合は「規準と同様」と記載 自立活動は個に応じた内容を記載</p>		教科	<input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> □ 何を学ぶか <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲		<p>自立活動</p>		評価	<input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> □ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲		<p>C</p>	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																	
個の評価基準	<input type="radio"/> ○ <input checked="" type="radio"/> □ つねに <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲	<p>○評価規準をもとに評価基準を記載 ○十分満足できると判断される姿 (単元終了時に目指す姿) ○おむね満足できると判断される姿 (単元中盤の姿) △単元開始時の姿 ○△は記号のみでも良い</p>																	
			<p>単元の評価規準と同様の場合は「規準と同様」と記載 自立活動は個に応じた内容を記載</p>																
教科	<input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> □ 何を学ぶか <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲																		
			<p>自立活動</p>																
評価	<input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> □ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ▲																		
			<p>C</p>																

図IV-3-6 PDCAサイクルシート(Pシート)



図IV-3-7 流れ図

#### イ 学習評価の方法

PDCA サイクルに基づいた各教科等を合わせた指導の授業づくりにおいて、Pシートを活用し個の児童生徒の学習評価を行い、学習評価を基にした授業改善に取り組んでいる。

#### ウ 学習評価のシステム

学習評価は、図IV-4-1に示した「PDCA サイクルに基づいた合わせた指導の授業づくりの構成図」を踏まえて行っている。単元開始時に単元計画表(図IV-2-5)にて、単元の評価規準とPシート(図IV-2-6)を活用して個の評価基準を設定する。その評価基準に沿って、毎時間、児童生徒の様子を週指導案や作業班によっては個別のファイルに記録し、単元終了後Pシートに3段階評価を行う。個の評価を集約し、単元の評価規準についても振り返りを行い、年間計画と合わせて次単元につなげている。

#### エ 困難に感じていることや課題

基本的なところでは、観点別学習状況の評価に関する理解を教員間で毎年図っていく必要があること、現時点で書式が複数に及んでいることなどが挙げられる。また、学習成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況と改善を教育課程の評価と改善につなげていくための実践及び検証が課題である。今後は、Pシートと個別の指導計画を関連付けて学習評価が実施できるような書式の見直しをしていきたいと考える。

#### 令和4年度 単元計画表について

令和3年度の実践から、PDCAサイクルに基づいた授業づくり、学習評価を重視した授業改善の考え方を継続し、合わせた指導以外の全授業での単元計画表の活用を目指して、「単元計画表」(図IV-3-5)、「PDCAサイクルシート(Pシート)」(図IV-3-6)、「流れ図」(図IV-3-7)の項目を精選し、「令和4年度単元計画表」(図IV-3-8)として一つのシートにまとめた。単元開始時には単元計画表にて、単元計画や学習指導要領を基に単元の評価規準と個の評価基準を設定する。単元終了後には個の3段階評価と、単元の評価規準、活動内容、支援や教材について等、単元全体を通じて振り返りを行い、次単元や次年度へつなげている。

令和4年度 生活単元学習 単元計画表

## 【単元全体について】

学部・学年 (担当者)	期間(時数)	単元名	
単元の概要	<p>①メンバー構成（男女比や重複児童生徒数など）          ②単元にかかるる集団の特徴          ③本単元にかかるる集団の課題点や付けていた力          ④単元の概要</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">           箱書きで要点が分かるように。            ①は年度当初のみでよい。            前單元からのつなぎを考慮する。         </div>		
生單の特徴 や留意点 check（一部省略）	<p>(1)実際の生活から発展し、児童生徒の知的進歩の状態や生活年齢等及び興味・関心を踏まえ、個人差の大きい面倒に適合するもの。          (2)必要な三つの柱（知・技・思・判・表・主）の育成を図るものであり、生活上の豊かな態度や習慣が形成され、身に付けた内容が現在や将来の生活に生き生きとされるようなもの。          (3)重複目標への意識や期待をもち、見通しをもって意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動を含んだもの。          (4)一人一人が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、様々な役割を担い、楽曲曲目で単純な活動で組織され、自然な生活としてまとまっているもの。          (5)各教科単元に亘り見方・考え方を生かしいたり働きかけたりできる内容を含んでいるもの。（いろいろな単元を通して、多様多様な意識のある活動が経験できているようにしている）</p>		
単元目標 (評価規準)	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	<p>・評価規準は、目標に対して、本単元で何がどこまでできるとよいかの到達点を表す「～している」          ※本来は別々に記載する必要があるが、本校では単元の目標と評価規準を単元の目標として合わせて記す。          語尾は「～している」</p>		
各教科等			

EAM - 2013-14

### 【個の評価】

生徒	評価の観点	各教科等	段階	内容	評価基準	評価	特記事項 (個人内評定等)
A	知識・技能				ブルダウンで選択		
	思考・判断・表現			1、2、3の段階を記入			
B	知識・技能	どの教科に書きを置いて評価するか、ブルダウンで主な教科を選択する。			単元終了時に目指す姿を記載する。 話尾は「～している」		
	思考・判断・表現				ブルダウンで△、○、◎を選択 △：単元開始時の姿 ○：おおむね満足できる姿 (単元中の姿) ◎：十分満足できる姿 (単元終了時に目指す姿)		
C	知識・技能						
	思考・判断・表現						
	主徳的に学習に取り組む態度				感性や思いやりなど、児童生徒一人一人		

※自主活動の目標は個別に定める

【単元全体を通しての振り返り】 ～よかつた点 ●改善点～ その他の

【単元全体を通しての振り返り】 〇よかつた点 〇改善点・その他	
単元目標（評価標準）について ※目標の設定が妥当だったかについて等記入する。	単元全体・活動内容について
場の設定、教材・教具・補助具、教師の支援等について ※大切にしたい支援の手立てや共通理解が必要な手立て等についても記入する。	I C T 機器の活用について ※I C T 機器を活用した効果と児童生徒の変容等について記入する。
主体的・対話的で深い学びの姿について ※主体的・対話的で深い学びの姿について具体的に様子を記入する。	単元目標を踏まえた評価 ※児童生徒の個々の評価をまとめて記入する。
各教科等に関する評価及び改善 ※各教科等に関する評価及び改善点の他に次单元で新たに取り入れたい他の教科についても記入する。	次単元もしくは次年度への引き継ぎ ※振り返った内容を総括して、どのように次単元もしくは次年度へ活かすかを記入する。

図IV-3-8 令和4年度単元計画表

#### (4) 埼玉県立越谷西特別支援学校

##### ① 学校概要

昭和 63 年度、県東部地域の越谷市に設立された知的障害を対象とした特別支援学校である。令和 3 年度に、県立松伏高校内に松伏分校（高等部）を設立した。児童生徒数は、本校は小学部 89 名、中学部 46 名、高等部 142 名の計 277 名で、松伏分校は 16 名。

##### 【学校の特徴的な取組】

- ・地域との連携に力を入れ、交流及び共同学習や支援籍等を積極的に行っている。
- ・近隣の高校や大学と教材の製作などの連携を図っている。
- ・自立活動部を設置し、専任の担当者 3 名による抽出による自立活動を行っている。
- ・ICT 教育を推進し、企業等と連携を図りプログラミング教材なども取り入れている。
- ・毎年全国発表を行っている。（R 元：ICT 教育、R 2：自立活動（音楽療法）、R 3：保健体育）
- ・令和 3 年度より、コミュニティスクール制度を導入している。

##### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

学校教育目標は、「心身に障害のある児童生徒一人一人の発達課題に即した指導を進め、持てる力を最大限に発現させるとともに、障害にくじけず自分の生活を切り開く力を身につけさせる。」及び「小・中・高等部の発達段階を考慮して一貫性のある指導を行い、心身の調和的発達を促し、社会生活のできる人間の育成をめざす。」である。教育課程については、年間指導計画を以下の順序で立て、基本的に単元ごとに評価し改善を図れる部分については次の単元に反映させている。

##### ＜児童生徒の実態把握＞

全体的な実態の把握を行う。昨年度までの「個別の指導計画」等や前年度の担任等からの情報も参考にする。

##### ＜年間計画の単元設定＞

その年度に計画されている行事の事前事後学習や季節的な行事等を基本に計画を立てる。

##### ＜各単元の目標や内容の設定及び授業内容・目標の設定＞

年度当初に全て決めるのではなく、単元や授業が近くなった時点での実態や課題を精査して目標、内容等を設定する。

##### ② 学習評価とその活用の取組

###### ア 取組の概要

現状、学習評価に関して取り組んでいることはない。この研究を通して特に各教科等を合わせた指導の評価について取り組んでいく。

#### イ 評価の方法

現状は各担任・授業担当者が活動の取り組み方や様子、身に付いた事柄などを基に、単元ごとに評価している。

#### ウ 評価のシステム

年2回「個別の指導計画」(埼玉県ではプランB)に単元ごとの評価を児童生徒ごとに記入し、保護者に配付している。

#### エ 困難に感じていることや課題

- ・授業づくりの時間は限られており、評価は少人数で短時間に行わざるを得ない。
- ・生活単元学習は「各教科等を合わせた指導」のため、各教科等の目標に沿って評価する必要があるが、単元そのものの評価と少しギャップがあるようを感じてしまう。
- ・児童生徒が授業にあまり意欲的に取り組めなかつた場合、児童生徒の評価として考えるのか、実態把握や授業のつくり方が良くなかったと考えるのかの判断が難しい。

## (5) 東京都立高島特別支援学校

### ① 学校概要

本校は、昭和 48 年度東京都における障害児希望者全員就学の方針に基づき新設された小学部・中学部の知的障害特別支援学校である。児童生徒数は小学部 218 名・中学部 109 名、学級数は全校で 66 学級（令和 4 年 5 月 1 日付）であり、増加傾向が続いている。通学区域は板橋区全域と練馬区の一部で、ほとんどの児童生徒がスクールバスを利用して通学している。中学部卒業後は、ほぼ全員が通学区域の東京都立板橋特別支援学校又は東京都立練馬特別支援学校へ進学している。

#### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

学校教育目標は、「特別支援学校として、校内に在籍する児童生徒の教育目標を次のように掲げるとともに、地域のセンター校として、障害のある児童への支援を推進する。」を挙げるとともに「健康で明るい子・意欲をもってがんばる子・みんなと仲良くできる子」の 3 つを目標としている。

教育課程では、児童生徒の育成を目指す資質・能力を明確にし、単元の配列を含む年間指導計画を通じて各教科の内容をバランスよく整合性のあるものになることを目指している。今年度からは、教科部会において学習指導要領に準拠した単元配列表の作成を目指し学年の系統性や教科等の関連性を分析・整理しカリキュラム・マネジメントの確立を推進している。

授業単位では、外部専門家を活用した授業改善を進め、適切な児童生徒の実態把握に基づく目標、題材や指導内容、方法、教材・教具の作成を行った授業実践行っている。授業者は外部専門家の助言を受け、具体的な授業改善に取り組んでいる。

本校は単元を単位とした PDCA サイクルの確立を目指し、学校研究活動を通して、国語・算数、国語・数学、生活単元学習において、目標に基づいた評価規準や評価基準の設定、評価方法を包括した単元の学習計画作成に取り組んでいる。単元を単位として、3 つの柱に基づく目標に設定、実践記録の作成、3 観点を踏まえた学習評価に関する協議、改善策の提案を経て、次の単元の学習計画作成に反映できることを目指している。

### ② 学習評価とその活用の取組

#### ア 取組の概要

平成 30 年度から学習指導要領を基盤として学校研究を行っている。令和 2 年度から学習評価に取り組み、今年度は「学びにつながるカリキュラム・マネジメント」をテーマとしている。目標に基づく評価規準と評価基準の設定、学習活動を構成した単元の学習計画を作成し、研究協議会で、3 観点による学習状況の評価を中心に協議を行い、授業や単元の改善点を明らかにしている。単元ごとの 3 観点による学習評価の積み重ねと授業改善の蓄積により、単元の充実を目指している。

#### イ 学習評価の方法

単元の目標に基づき、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点ごとに学習の達成状況を示した評価表を作成し、研究会の協議を踏まえ、当初設定した評価基準に沿って評価している。

#### ウ 学習評価のシステム

年間研究計画に沿って、単元計画の作成から一定期間の授業実践の中で学習評価を行い、校内での研究会を通して継続的に学習評価について確認している。

#### エ 困難に感じていることや課題

これまで、1単位時間の授業に対する児童生徒の変容の把握や授業改善に努めてきたため、学習評価は前・後期を期間とした個別指導計画で行ってきた。1単位時間の記録の取り方から単元を単位とした児童生徒の成長の把握、目標や評価規準・基準の設定となったため、目標の妥当性や評価の継続性等課題となることは多い。単元の学習計画の様式・項目の工夫等試行錯誤しながら進めている。また単元の学習計画評価から個別の指導計画、指導要録につながるシステムの確立も必要となっている。

## (6) 福島県立相馬支援学校

### ① 学校概要

本校は、福島県浜通りに位置し、小学部、中学部、高等部の児童生徒 109 名、職員数 74 名の学校である。「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」(平成 29 年 4 月 28 日告示)、「特別支援学校学習指導要領」(平成 31 年 2 月 4 日告示)を受けて、令和元年度、新学習指導要領に対応するために、本校の育成を目指す資質・能力を明確にし、それをもとに学校教育目標や教育課程、各種様式等の見直しと改善を図ってきた。また令和 2 年から「資質・能力を育む単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの充実」を研究テーマにして 3 年次計画で取り組んできており、今年度は 3 年目である。

### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

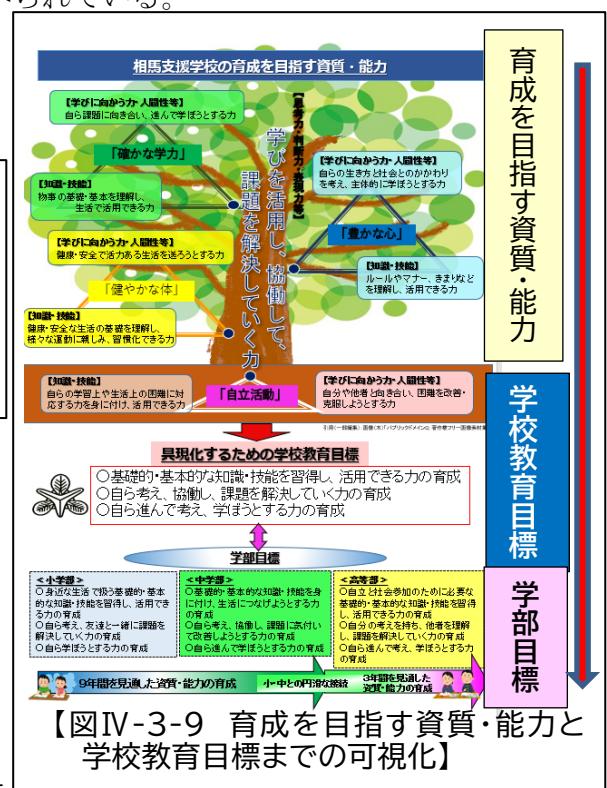
本校教育目標は、平成 30 年度・令和元年度「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」での話し合いを受けて、学校教育目標の見直しを図った。その際、学習指導要領では、学校教育目標の設定の際に、学校で育成を目指す資質・能力を明確にし、その具現化を図るための学校教育目標であることが述べられている。

そこで、本校の育成を目指す資質・能力を明確にし、そこから学校教育目標を設定することとした(図IV-3-9)。以下が学校教育目標である。

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力の育成
- 自ら考え、協働し、課題を解決していく力の育成
- 自ら進んで考え、学ぼうとする力の育成

この図IV-3-9 に示すイメージ図を校舎内で複数箇所に掲示し、生徒や保護者、外部参観者も見ることができ、本校がどのような力の育成を目指して教育活動を行っているか分かるようにしている。

教育課程については、学校教育目標を達成するために、令和 2 年度から取り組んでいる単元研究を軸とし、単元構想や観点別の学習状況の評価に向き合いながら、カリキュラム上の過不足、必要なツールについて見直し、開発、改善を図ってきた。特に、以下の 6 点について開発、改善を図ってきた。  
①教科等の枠組みで育まれる資質・能力以外にも学校で教えるべき「教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化と教育課程への明記」、  
②学習指導要領を学びきるためのシステムの不在が児童生徒の学びに影響を与えていたことから、「12 年間を見通した学びのカリキュラムの開発」、



【図IV-3-9 育成を目指す資質・能力と学校教育目標までの可視化】

③教育活動の質の向上のための「単元配列表」の作成、④学習指導要領の内容をベースにした各教科等の「年間指導計画」の整理、⑤各教科等を合わせた指導における「効果的な指導内容の一覧」の作成、⑥全ての取組の根拠となる「単元案」の開発・活用等である。このように、日々の学習指導要領に基づいた着実な実践から、より児童生徒の学びが深まるよう教育課程と連動しながら、この取組を進めた。

## ② 学習評価とその活用の取組

### ア 取組の概要

本校の単元案は、個別の指導計画との連動もあることから、研究授業対象者だけでなく、普段から単元案（図IV-2-9）の学習評価に取り組んでいる。その際、資質・能力をバランス良く育むために示されている3つの観点で目標設定し、その観点で学習評価を行っている。また、「知的障害教育における授業づくりと学習評価」という観点から、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」「自立活動」「キャリア発達の支援」等についても、単元構想の段階で密接に関連し、育む意図が授業者にある場合は、目標等を明記し、学習評価に向き合うようにしている（図IV-3-10）。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>(1枚目)</b></p> <p><b>【目標設定(1枚目)】</b> 学校教育目標/学部目標/段階の目標/内容のまとめごとの評価規準</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>(2枚目)</b></p> <p><b>【单元構想(2枚目)】</b> 評価計画/主・対・深/習得・活用・探究/他教科等との関連/教科等横断的な視点に立った資質・能力/見方・考え方等</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>(3枚目以降)</b></p> <p><b>【個別の学習評価(3枚目以降)】</b> 各教科等の観点別学習状況の評価/枠を越えた力の評価/キャリア発達支援の視点/自立活動との関連/合理的配慮等</p> </div>
---	---	--

**図IV-3-10 学習指導要領上、授業者が単元・授業において求められている視点が取り入れられている『単元案』**

#### イ 評価の方法

文部科学省が示す「学習評価参考資料」を基に、評価規準を設定して取り組んできた。評価の方法としては、児童生徒の言動やワークシート等を活用して学びの見取りを行ったり、複数の教員による学習評価を参考にしたりした。また、作業学習等の各教科等を合わせた指導においては、その指導している教科担当が主となって学習評価を行う場合もある。また、悉皆研修などの研究授業者は、単元研究会を開催し、本時の学びの記録（児童生徒の言動が記された記録）を基に、本時で育む資質・能力と照らし合わせて、複数の人数で観点別学習状況の評価に取り組み、授業提供者がその後の単元での指導等に生かせるようにしてきた。また、単元研究会では、教員同士がペアを組んで、どんな言動が評価できるのか、できないのか等を話合うことで、観点別学習状況の評価の仕方について考え方を深めることができ、教員全体で学習評価をする力が高まり、結果として授業改善につなげることができるようにした。



図IV-3-11 単元研究会において、学びの記録から学習評価や授業改善を話し合っている  
ウ 評価のシステム

単元研究会もしくは月1回設定している「学習評価の時間」及び普段の業務の中で、観点別学習状況の評価に向き合う時間を設けた。また、個別の指導計画について、学習指導要領に基づいた内容をベースにすることで、単元案と連動し、そのまま個別の指導計画に記載できるようにした。

#### エ 困難に感じていることや課題

普段から、各教科等の観点別学習状況の評価、教科等を横断的な視点に立った資質・能力等の学習評価のサイクルを繰り返せば繰り返すほど、その授業者が目標とする文言に真摯に向き合い、指導と評価の一体化のために感覚が研ぎ澄まされ、授業や単元構想が充実してくることがこの3年間でみえてきた。学習指導要領では、各教科等の指導で、明確にした資質・能力について、しっかりと学習評価するように述べられている。内容で示されている資質・能力について、単元というまとまりで育んでいくことが多いので、毎単元評価をしていくという捉えになる。そうすることで、授業者の授業力が飛躍的に高まるることは間違いない。しかし、日々、次の教材準備、その他校務分掌、学級事務など、そこに向き合う時間が確保されにくいという課題がある。だからこそ、本校では、業務改革も合わせて取り組んできた。学習指導要領の文言に向き合い、考え、授業改善ができる十分な時間の確保ができるように、今後も改革を進めていきたい。

## (7) 神奈川県立武山養護学校

### ① 学校概要

本校は三浦半島の南部に昭和 51 年に開校し、全学部に知的障害教育部門と肢体不自由教育部門を併置している。平成 20 年度から県立津久井浜高校内に高等部知的障害教育部門の分教室を設置した。児童生徒数は、令和 4 年度は小学部 67 名（知的 67 名、肢体 0 名）、中学部 50 名（知的 49 名、肢体 1 名）、高等部 84 名（知的 80 名、肢体 4 名）の合計 201 名（内分教室 23 名）である（令和 4 年 9 月現在）。本校の知的障害教育部門のカリキュラムは、自立活動や日常生活の指導を中心に据え、生活に関連した内容の国語、算数・数学および音楽、美術、保健体育（トレーニングを含む）、作業学習（中高）等の内容を学習している。

神奈川県では児童生徒一人一人の障害の状況や発達段階等の的確な状態把握に基づき、教育的ニーズに応じた指導目標及び指導内容を設定し、継続的、発展的な指導を一貫して行うための計画を「個別教育計画」としている。「個別教育計画」は、自立活動だけでなく、教科指導も含めた、学校における教育活動全般にわたって作成されるものであり、「個別の指導計画」の内容を含んだ計画となっている。

### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

学校教育目標は以下の 3 つを目標として挙げている。

- ・自立と社会参加に向け、一人一人の児童・生徒の能力に応じた指導・支援を行う。
- ・教育力を高めるための授業改善と研究・研修を推進する。
- ・地域と共に児童・生徒の「いのち」を守り、育てる。

教育課程については、以下を特徴として挙げる。

- (ア)：年間指導計画の作成：年度当初に、昨年度の反省や引継ぎ及び児童生徒の実態を基に年間指導計画を作成する。学部、学年単位で単元配列表を作成し、教科等の横断的指導に戦略的に取り組めるようにしている。
- (イ)：個別教育計画の作成：本校では、本人、保護者とともに「目指すがた」について面談を通して確認し、それを基に長期目標（3 年後、1 年後）および短期目標（前後期）を設定している。
- (ウ)：年間指導計画、個別教育計画の見直し：変更があった場合は隨時行っているが、半期ごとに見直し期間を設け、各目標や手立てが妥当であるか、チームで検討する機会を持っている。

### ② 学習評価とその活用の取組

#### ア 取組の概要

令和 2 年度より、校内研究において、各学部においてターゲットとした教科について、

単元ごとに授業の学習状況の評価と授業の振り返りを行う「単元振り返りシート」を作成し、授業改善につなげている。

単元振り返りシート書式																	
○単元名 :	_____																
○学部・学年 :	_____																
○身に付けさせたい力	_____																
○単元目標																	
①知 識 ・ 技 能	_____																
②思考力・判断力・表現力	_____																
③学びに向かう力・人間性	_____																
○単元計画	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>3つの柱の観点</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			授業内容	3つの柱の観点	1			2			3			4		
	授業内容	3つの柱の観点															
1																	
2																	
3																	
4																	
○単元の評価	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>達成状況</th><th>達成状況の根拠となる児童生徒の様子</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td></td><td></td></tr><tr><td>②</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			達成状況	達成状況の根拠となる児童生徒の様子	①			②			③					
	達成状況	達成状況の根拠となる児童生徒の様子															
①																	
②																	
③																	
◎達成できた／○ほぼ達成できた／△達成できなかった																	
○単元の振り返り・改善点	<table border="1"><tbody><tr><td>①</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td></tr></tbody></table>		①		②		③										
①																	
②																	
③																	

図IV-3-12 単元振り返りシート

授業担当者間で単元振り返りシートを基に単元ごとの授業評価および児童生徒の学習評価を行う。

#### イ 評価のシステム

単元ごとに児童生徒に身に付けさせたい力及び3観点に沿った単元目標を設定し、それを基に個別の評価基準を設定する。単元の評価は児童生徒の目標の達成状況で評価することとし、その評価の根拠となる児童生徒の様子を単元振り返りシートに記入することで、次の単元ではどのような児童生徒の姿を目指すのかを共通認識できるようにしている。

#### ウ 困難に感じていることや課題

各教科等を合わせた指導については、目標設定の際にどの教科をターゲットにしていくかが明確になりにくく、年間指導計画作成の際に、どの単元で何を学習していくのかを明確にしていく必要があると感じている。また、授業記録や評価の際には授業中のエピソードについての記録が主になりがちであり、明確な目標設定とそれに対する端的な評価ができるよう、評価方法について検討していく必要がある。

## (8) 山形大学附属特別支援学校

### ① 学校概要

創立48年の本校は、国立大学法人山形大学の附属校（知的障害特別支援学校）であり、通学する児童生徒の障害の程度や実態は幅広い。児童生徒数は53名、学級数9の小規模校である。附属学校として、「養成から研修まで、教員を育てる学校／地域の学校、教員のモデルとなる教育・研究をすすめる学校／附属学校園の子どもを健全に育てる学校」を掲げ、教育研究活動に取り組んでいる。令和2年度から、「自己の学びを実感し生活していく姿を求めて」をテーマに研究を進め、今年度4年計画の3年目である。

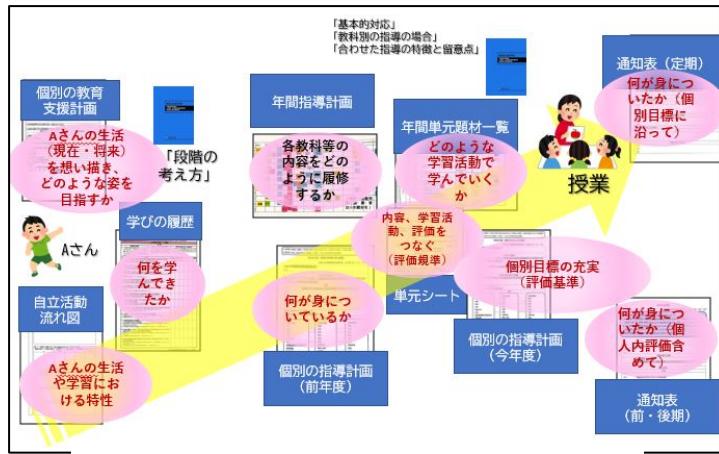
#### ア 学校教育目標及び教育課程の特徴

本校の学校教育目標は「みずから学び、かかわり、はたらく人を育てる」である。この目標の実現を目指し、学習指導要領を踏まえ教育課程の編成を行っている。その際、系統性・関連性を十分吟味しながら、年間を見通した単元構成で児童生徒が分かりやすく意義のある学習を計画し、小中高一貫教育の充実を目指している。また、地域・家庭との連携・協働を意識し、社会に開かれた教育課程を編成するとともに、自立と社会参加に向けて保護者や関係機関との連携を図っている。

### ② 学習評価とその活用の取組

#### ア 取組の概要

本校では子供が学習活動に自ら興味・関心を持つこと、達成感や満足感を持つことが大切であり、それが学びの深まりにつながると考えている。授業づくりでは、そのような「自己の学びが実感できる」授業となるために、どのような学習活動を設定するか（授業の在り方）、その中で、子供の実感をどう評価するか（評価の在り方）を重視している。また、学んだことが今現在の生活や将来の生活に生きるために、授業の中で、何をどのように学び、何が身についたかを教師が丁寧に捉えること、学んだ事がどのように生活に生かされるのかを踏まえた授業づくりをすることを大切に考えている。今年度は、研究の副題として「指導と評価の一体化のための授業づくりのプロセス」を設定し、研究の重点を「学習評価と個別の指導計画の関連を図り、PDCAサイクルを日常的に回す取組の実践」〔「何を学ぶか」の明確化と「何が身に付いたか」の把握・活用〕、「現在及び将来の生活に生きる資質・能力を育成する授業づくりの蓄積」〔「どのように学ぶか」の共有・発信〕の2点とした。具体的な取組として、本校における「授業づくりのプロセス」を見える化して職員全体で共有すること（図IV-3-13）、各教科等の内容を明確化し、評価計画と個別目標を設定する「単元シート」の作成、個別目標に基づく評価を行い、指導と評価の一体化を踏まえた指導の在り方を検討する「事後研究会」を実践した。



図IV-3-13 本校の「授業づくりのプロ

#### イ 学習評価の方法

今年度は、本校における「授業づくりのプロセス」を参照して授業づくりに関わる諸計画等、一連の取り組み同士の関連を把握しながら、全ての授業について教員が「単元シート」を作成して授業づくりを行い、指導と評価の一体化を目指した。単元シートの作成手順は、①学習指導要領の各教科における「内容のまとめり」から単元目標を設定②題材の選定及び指導内容の設定③単元の評価規準の設定④指導と評価の計画の作成という流れで行った（図IV-3-14、IV-3-15、IV-3-16）。評価規準の作成は、「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」を参考に行った。一人一人の指導目標、指導内容を設定するにあたっては、年間指導計画に基づく、その授業で取り扱う段階の目標、内容を基に、本校の「学びの履歴シート」で把握した実態としての段階の目標、内容を参考に生活年齢等を踏まえて設定した。このとき、学習指導要領を根拠として、中学部は小学部の目標及び内容の一部または全部、高等部は小・中学部の目標及び内容の一部を扱うことができることに留意した。学習活動の計画に沿って「評価計画」を記載し、取り扱う各教科等の内容のまとめりを基にした単元目標、評価規準、個別の指導計画の個別目標、学習活動と評価が一体となるようにした。

単元シート【高等部 音楽（器楽）】	
題材名	みんなで心を合わせて演奏しよう
	②題材の選定
題材の目標	【高1段階】 (1)・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識) ・範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付ける。(技能①) ・音色や響きに気を付けて、旋律表現及び伴奏表現を演奏する技能(技能②) ・各声部の楽器の音色や響きに気を付けて、音楽表現を演奏する技能(技能③)
	授業で取り扱う段階 (年間指導計画より)
	①学習指導要領の各教科における 「内容のまとめり」から単元目標を設定
	【中2段階】 (1)・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識) ・簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能を身に付ける。(技能①) ・打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付ける。(技能②) ・友達の楽器の音色や響きに気を付けて、音楽表現を演奏する技能を身に付ける。(技能③) <b>実態としての段階 (学びの履歴より)</b> (2)・器楽表現についての知識や技能を得たり生がしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつ。 (3)・思いや意図にふさわしい表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。
	②指導内容の設定
※生徒一人一人の指導目標及び指導内容については、上記高等部段階の目標及び内容を基に、実態に応じて小学校・中学部の目標及び内容を参考にして、生活年齢等を踏まえて設定する。	

図IV-3-14 「単元シート」作成例①

③単元の評価規準の設定		④指導と評価の計画の作成					
評価規準	（1）曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。（知識） 創意工夫を生かした表現をするために必要な、範奏を聽いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。（技能①） ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。（技能②） ・創意工夫を生かした表現を見るために必要な、各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。（技能③） (2) 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感じしたこととの関わりについて考え、楽曲表現を創意工夫している。 (3) 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感じしたこととの関わりについて考え、楽曲表現を創意工夫している。	学習活動	評価計画				
			目標 A	目標 B	目標 C	目標 D	
1 10／5（水）	【曲について知ろう】 ・マークシングの演奏動画を見て、知覚したことと感じしたこととの関わりについて考える。 ・みんなで合奏すること、経験した演奏を登の説明で反映することを知る。 ・みんなでどんな演奏をしたいかについて話し合って、「目標」と「手段」を設定する。		(2)	(2)	(2)	(2)	
2 12（水）	【楽器を知ろう】 ・教諭の範奏を聽いたり、実際に楽器を鳴らしたりして、基本的な楽器の使い方を知る。 ・担当したい楽器を考え用紙に書き、○個人練習、パートグループ練習（各教室）【リズムや速度を合わせよう】 ・楽譜を見ながら、音階やリズムを音楽に		(1回②)	(1回②)	(1回②)	(1回②)	
3 14（金）			(1回①)	(1回①)	(1回①)	(1回①)	

図IV-3-15 「単元シート」作成

図IV-3-16 「単元シート」作

## ウ 学習評価のシステム

単元シートの計画に沿って授業を実践し、評価計画に基づいて評価を蓄積することで単元を通じた評価を行う。評価の業務は「評価の日」（毎週金曜日に設定）を活用できるようにした。児童生徒に「何が身についたか」については個別の指導計画に記載し、指導の評価については、教員が単元を振り返り、単元シートの「どのように学んだか」の項目に記載できるようにした。

## エ 困難に感じていることや課題

指導と評価の一体化をすすめる上では、年間指導計画作成の段階で、各単元・題材に各教科等の内容のまとめがどのように位置付けられているのかを整理しておくことが重要である。特に、取り扱う内容のまとめが複数である単元・題材では、単元・題材の期間中にどのように内容のまとめを位置づけ、展開するか等に工夫が必要となり、指導と評価の一体化が難しい場合があるため、工夫が必要である。また、限られた時間の中で、児童生徒一人一人の指導目標や指導内容の検討や教材研究を充実させるために、授業づくりのプロセスに関連する一連の取り組みの中で効果的・効率的に行える部分を検討していくことも課題である。

#### 4. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実践

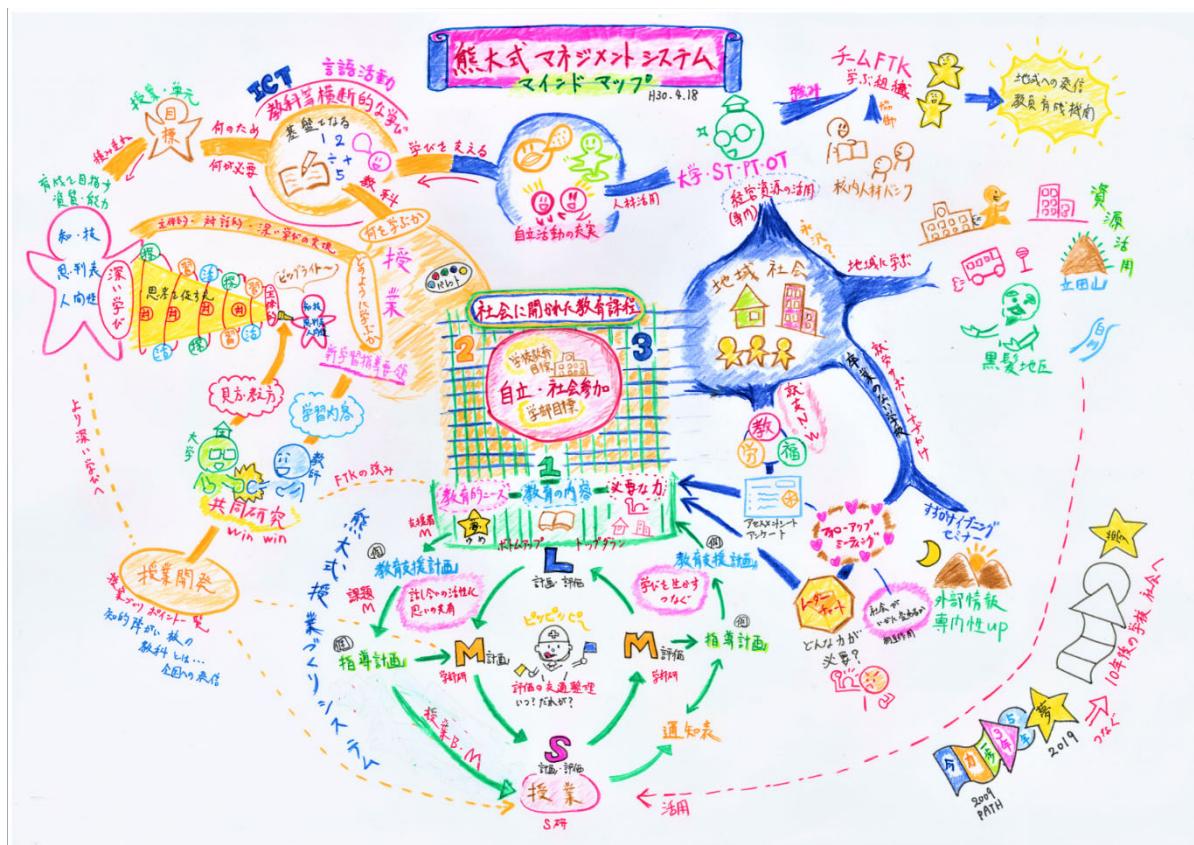
(1) 熊本大学教育学部附属特別支援学校

## ① カリキュラム・マネジメントの取組

## ア 熊大式マネジメントシステム

図IV-3-1は、熊大式マネジメントシステムをマインドマップにて視覚化したものである。前述した「支援者ミーティング」は、熊大式マネジメントシステムの中の一要素である「熊大式授業づくりシステム」に含まれる。

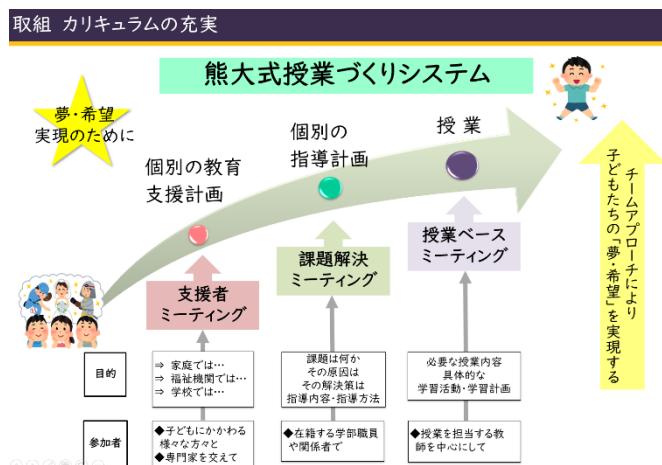
熊大式マネジメントシステムとは、「取組1：カリキュラムの充実」「取組2：主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善及び開発」「取組3：地域社会との連携・協働」の3つの取組を有機的に組み合わせ、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した本校独自のシステムである。3つの取組のうち、「取組1：カリキュラムの充実」の軸となるのが「熊大式授業づくりシステム」で、教育課程のPDCAと組み合わせて、評価を基にした教育課程改善を可能としている。



図IV-3-1 熊大式マネジメントシステムのマインドマップ

#### イ 熊大式授業づくりシステム

本校は、児童生徒一人一人の夢や希望を出発点に、その実現に向けて日々の教育活動での具現化を目指す「熊大式授業づくりシステム（図IV-3-2）」という段階的なミーティングを行っている。小学部1・4年生、中学部1年生、高等部1年生の7月に、児童生徒に関わる方や専門家を交え、個別の教育支援計画策定に向けて実施する「支援者ミーティング」、支援者ミーティングで出た課題を分析し、支援の形のアイデアや優先順位を該当学部職員で共有する「課題解決ミーティング」、実際の授業を考え共有する「授業ベースミーティング」によって、チームアプローチで児童生徒の夢や希望の実現を目指している。このシステムにより、児童生徒に必要な力や学校段階で育てたい姿、それらを実現する教育課程の在り方などを話し合いのもとに少しづつ明らかにしていく。



図IV-3-2 熊大式授業づくりシステム

#### ウ 教育課程のPDCA

熊大式授業づくりシステムで共有した児童生徒の夢や希望の実現を目指すとともに、教育課程の構築をしていくため、教育課程をPDCAサイクルでシステム化している。PDCAの説明の前に、まずは本校のL-M-Sシート（図IV-3-3）について説明する。

本校には、教育活動をL（Long：年間）・M（Middle：単元）・S（Short：授業）という3つのスパン（内容や時間のまとめ）ごとに教育活動を構想・評価するシートがあり、単元や授業づくりに活用している。Lシート（年間単元配列表）・Mシート（単元構想シート）・Sシート（授業構想シート）を効率的・効果的に活用し、授業—単元—年間計画—教育課程まで俯瞰した上で、児童生徒にとって自然な学習の流れになるような授業編成に努めている。その上で、各教科の特質等を捉えた単元や授業を構想し、学習評価と授業改善、次年度への教育課程改善へつなげている。他に、教科ごとに年間指導計画を作成しており、L-M-Sシートとリンクしている。

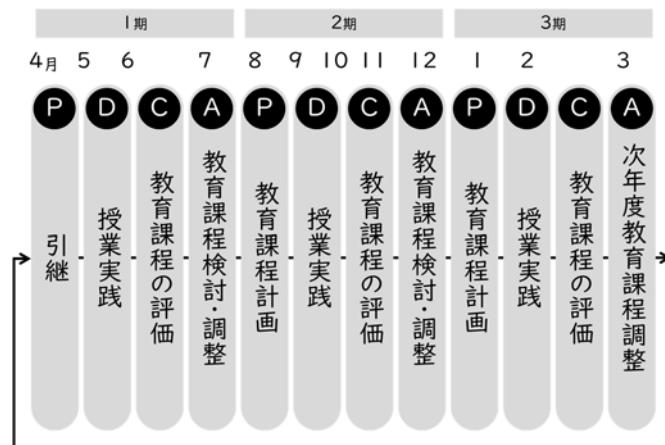
The image shows three separate documents side-by-side:

- Lシート (年間単元配列表):** A large grid-based form where units are listed across columns (4月～3月) and rows (1～12週). It includes handwritten notes in pink and blue ink.
- Mシート (単元構想シート):** A detailed planning sheet for a specific unit, containing sections like "授業目標" (Learning Objectives), "授業内容" (Content), "評価方法" (Assessment Methods), and "教材" (Materials).
- Sシート (授業構想シート):** Another detailed planning sheet, likely for a single lesson or activity, with sections for "授業目標" (Learning Objectives), "授業内容" (Content), "評価方法" (Assessment Methods), and "教材" (Materials).

左から、Lシート（年間単元配列表）・Mシート（単元構想シート）・Sシート（授業構想シート）

図IV-3-3 L-M-Sシート

年間計画から一つの授業を構想するまでの教育課程のPDCA（図IV-3-4）を、年に3サイクル（1期[4～7月]／2期[8～12月]／3期[1～3月]）で実施している。1サイクルは、[計画（P（Plan））→実践（D（Do））→評価（C（Check））→調整・改善（A（Action））]で構成されており、3サイクルにすることで、児童生徒の学習状況に教育課程を合わせやすくしている。具体的には、Lシートで単元を配列し、Mシートで単元を計画（P）する。その後、Sシートを基に授業実践し（D）、Sシート・Mシートに評価を記入（C）、Lシートを見ながら単元を調整・改善（A）する流れである。最初の計画（P）には、その前の評価（C）や調整・改善（A）が反映され、年度をまたいで循環している。支援者ミーティングの実施学年については、支援者ミーティングが7月に実施されるため、その結果を2期以降の教育課程に反映していくことになる。



図IV-3-4 教育課程のPDCAの3サイクル

調整・改善（A）のタイミングで実施する教育課程検討委員会では、「教科との関連表（表IV-3-1）」を用いる。「教科との関連表」とは、各単元や題材、教科がどの各教科の項目と関連があるかを表現できる表である。この表によって、特に各教科等を合わせた指導について、どの教科の項目と項目を合わせているかが一目で確認できる。例えば、中学部の作業学習「すずかけ祭りに向けて」では、数学「A 数と計算」と職業・家庭（職業分野）「A 職業生活」の枠に太枠で印がついており、この2項目を合わせていることを表現している。各教科の項目について満遍なくかつ重点的に取り扱う教育課程編成に役立てたり、単元などで扱った教科項目の指導の評価を入力し、教育課程検討の判断材料にしたりしている。Cで記録した児童生徒の学習状況の評価がよければ、教師側の指導の評価も高いことが多い。

表IV-3-1 教科との関連表（一部表示）

縦軸が時系列で単元等を上から下へ配列した年間計画を、横軸が各教科の項目を示している。単元で扱う教科項目を太枠で表すことで、取り扱う教科の項目を表現できる。

この他、知的障害特別支援学校の各教科について、小学部・中学部・高等部で取り扱う教科の指導内容を一覧化した「指導内容確認表（図IV-3-5）」を活用して学習進度状況や取り扱う指導内容の確認に役立てている。紹介した各種資料は、本校ホームページで公開している。

図IV-3-5 指導内容確認表

## エ 評価のシステム

授業後は、チームティーチングの教師間で授業の反省を短時間で行うことが多い。立ち話で行うこともある。学習グループの人数が多い授業については、「S研」という形による反省を実施する。S研は、児童生徒下校後の15分間でSシートを基に担当職員が主導して実施しており、S研の計画を各学部の教務部が月ごとに出して学部職員間で共有する。S研では、児童生徒の様子や授業展開等、授業で目立った要素について端的に意見を出し合い、改善と志向を共有している。

単元終了後はMシートを基にした「M研」を実施する。M研では、15分程度、該当の教員で集まり、Mシートを用いて、単元の期日、時数、内容、教材、学習グループが適切であったかを協議したり、教科等の関連表を用いて指導内容が指導できたかどうかを確認したりしあう。その際、Lシートも掲示しながら、次の単元や同時期の教科とのつながり等も意識し、教育課程をつないでいく。

単元のまとまりごとに取り組むM研での評価の積み重ねを、教育課程検討委員会で各学部持ち寄り、その後のカリキュラム調整に生かしていく。

## ②カリキュラム・マネジメントの成果と課題

まず成果としては、熊大式授業づくりシステムにより、児童生徒の課題解決ミーティング

グをする過程で、児童生徒の夢・希望や、その実現に向けて実施すべきことを該当学部の教員で確認できるため、児童生徒に育みたい学習内容をカリキュラムづくりに反映させやすい。また、教育課程のPDCAが3サイクルでシステム化されているため、情報共有の方法がパターン化されており、教育課程の検討の際、より内容の深い議論や情報の共有ができるようになった。加えて、教科との関連表や指導内容確認表を使うことにより、特に教科等を合わせた指導についての解釈が明確になり、学習内容を網羅的に設計する方向へと教員の意識が向き、緻密なところまで学習内容の展開ができるようになったよう感じた。児童生徒の夢や希望を意識した上で、学習指導要領の学習内容をバランス良く配置できるようになったのは、近年の本校に見られる教育課程編成の大きな特徴である。

課題としては、単元後に行うM研の在り方である。Mシートを基に単元の反省を該当学部の教員で行うが、単元の評価は[期日/時数/内容/教材/学習グループ]が適正であったかどうかの「指導の評価」と単元の反省・次回への志向が中心であり、時間内に児童生徒の「学習状況の評価」まで辿り着いていない現状がある。児童生徒一人一人について、時間内で学習状況の評価を、関わる全教員で共有するのは現実的に難しいため、何らかの工夫が今後も求められる。また、単元目標に対する達成状況の評価が、全授業で全ての児童生徒分できているわけではなく、学習評価のスパンや評価の在り方の検討を続けていく必要がある。

## (2) 福島県立相馬支援学校

### ① カリキュラム・マネジメントの取組

#### ア 取組の概要

特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）の中では、「各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な～中略～、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校的教育活動の質の向上を図っていくこと（以下カリキュラム・マネジメント）という。」と示している。さらに、以下のカリキュラム・マネジメントの4つの側面を通して、実現を図っていくことについても述べている。

#### 【カリキュラム・マネジメントの4つの側面】

- (ア) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- (イ) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- (ウ) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- (エ) 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと

本校は、このカリキュラム・マネジメントの4つの側面にどう向き合うのか、その本質に徹底的に向き合い、シンプルかつ本来の目的を達成するために、令和2年度からの令和4年度までの6つの取組について紹介する。

#### イ 問題と目的・方法

#### 【本校の課題の把握とその出発点】

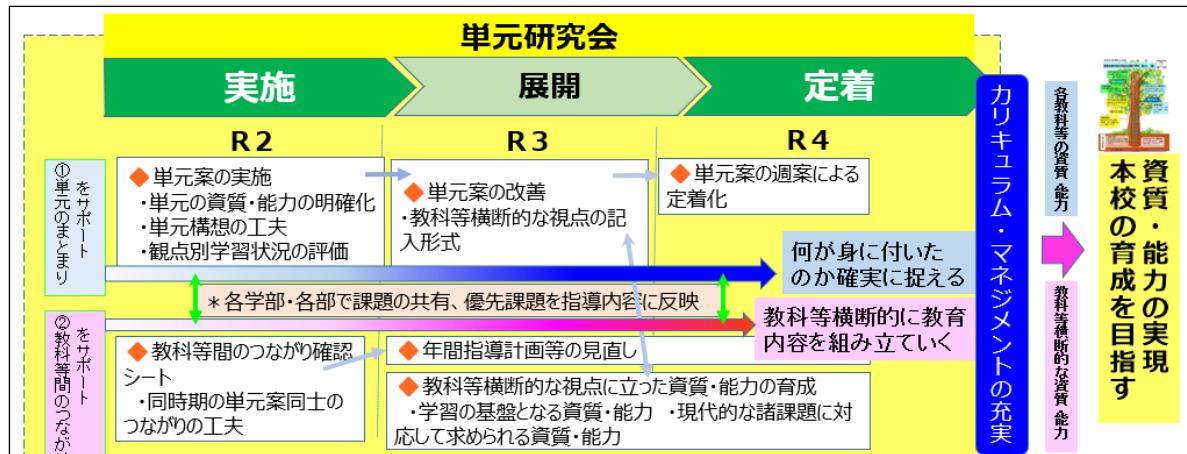
研究を始める前、以下の5つの問題点があった。

- ①指導内容の選択、指導内容の組織、授業時数の配当の見直し・改善
- ②指導形態の適切な取扱い
- ③年間指導計画・単元配列表の開発・実施
- ④教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化
- ⑤資質・能力を育むための授業の在り方

令和2年度当初は、上記の①～④について、まだ明確な解決策が見えない中で、どこから手をつけていいか難しい状況にあった。そこで、着目したのは⑤の資質・能力に向き合った授業づくりである。特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）の中で「各授業の個別の指導計画（Plan）—実践（Do）—評価（Check）—改善（Action）のサイクルの中で蓄積される児童生徒一人一人の学習評価に基づき、教育課程の評価・改善に臨むカリキュラム・マネジメントを実現する視点が重要である。」と示しており、まずはこの視点を大事にして、資質・能力に向き合った授業から教育課程の評価・改善に臨むカリキュラム・マネジメントを実現することとした。

この資質・能力に向き合った授業づくりとは、1単位時間で育成されるものではない。内容のまとめごとに、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等が、バランス良く育まれるものである。つまり資質・能力に向き合った授業づくりというのは、“単

元のまとまり”を見通した単元研究が必要であり、それが本校の出発点と考えた。令和2年度から「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの充実」を研究テーマとし、以下の計画で進めてきた（図IV-3-6）。



図IV-3-6 単元研究を中心に据え、カリキュラム・マネジメントの充実を目指す3年間の計画

#### ウ 取組の実際

##### 【プロセス1】単元研究の充実 (\*カリキュラム・マネジメントの側面 (イ)、(エ))

<確実な単元の実施・評価のための“単元案”的根拠から教育課程改善へ>

今回の学習指導要領では、各教科等において資質・能力を示し、どのような単元を作っていくのか、学習指導要領の様々な所に、その押さえるべき点が記載されている。学習指導要領は、基準性として示されていることから、これは授業者として授業、単元を作っていく時に必ず押さえる視点は以下の通りとなる。

##### 【学習指導要領で示されている単元づくりで押さえるべき点】

- ① 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり
- ② 単元における育む資質・能力の明確化
- ③ 単元における評価規準と評価計画（いつ、どの資質・能力を育んでいくのか）
- ④ 授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びの単元構想における意図的な設定場面）
- ⑤ 子どもたちの学びの過程（習得、活用、探究）をデザイン
- ⑥ 単元間のつながり（教科内、教科等間）
- ⑦ 教科等横断的な視点に立った資質・能力を育む視点
- ⑧ 「何が身についたのか」観点別学習状況の評価と授業改善

これらの要素を単元案（図IV-3-7）で押さえ、単元構想し、着実な学習評価をすることで、より確実な根拠の基にカリキュラムを改善し、授業者が実感しながら、プロセス2～5の取組を行うことにつながった。

詳しくは、本校の報告書をご覧いただきたい。



図IV-3-7 単元案

<学習評価から根拠のある授業改善、単元構想をする単元研究会から教育課程改善へ>

平成28年中央教育審議会答申の事後研究会の課題を受けて以下のような構成に変更した。

1 授業者の自評（1分）

2 授業での学びを見取る。（8分＊黙読2分、VTR4分、共有2分）

\*黙読とは、授業での子どもの言動を記録した学びの記録を読んで評価すること。

3 学習評価及び主体的・対話的で深い学びになるための授業改善について（12分）

4 単元構想、教科等横断的な視点に立った資質について（11分）

5 指導助言（8分）

単元研究会（写真1）では「本時の授業力向上」「単元全体の構成力・授業力向上」等がねらいとして、日々の単元からカリキュラムについて考えたり、マネジメントについて考えたりする内容となっており、教育活動の質の向上に連動できるようにしている。

単元案や単元研究会の取組から、単元での指導を充実していく時に、授業者の力量不足が原因ではなく、カリキュラムの不在等にも気づくことになり、よりプロセス2～5の取組を実感して全職員で取り組むきっかけとなった。単元案と単元研究会は本校の取組の中心であり、改善・開発の原動力となっている。

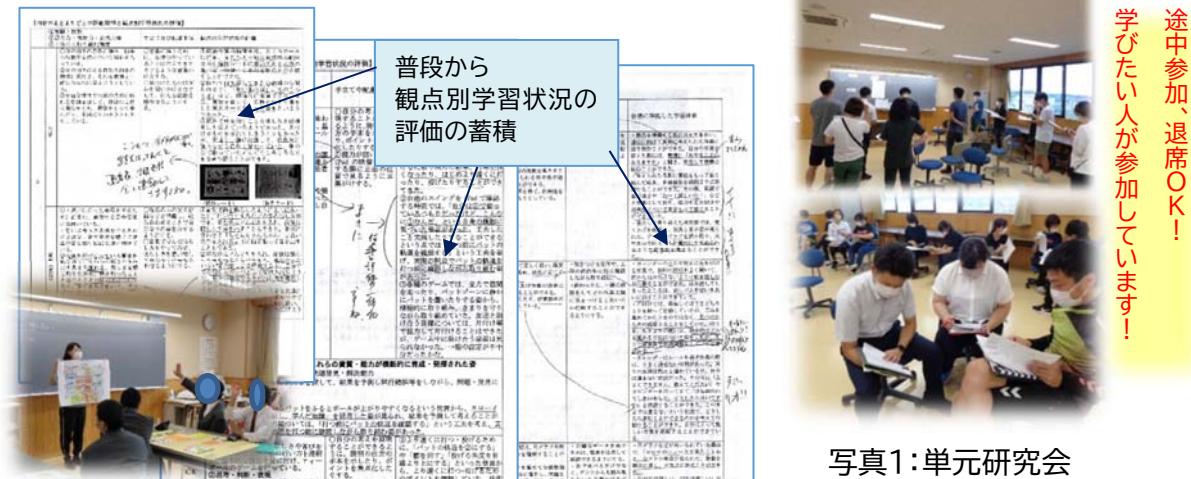


写真1:単元研究会

令和2年度～令和4年度までに、単元案の蓄積は350個以上、単元研究会（3年間で26回）に参加した先生方は延べ520人以上！（R4.10.31現在）

【プロセス2】12年間を見通した年間指導計画 (\*カリキュラム・マネジメントの側面(ア))

それぞれの単元研究を進めていく中で、教科間の単元同士のつながりや他教科等の単元での習得を土台としている学びなどに課題があり、単元での指導を充実していくために、授業者の力量不足が原因ではない問題に直面した。つまり、知的障がいの程度が比較的軽度の生徒が、学習指導要領が示す高等部2段階の内容を学びきるためのカリキュラムが存在しないことに起因した問題にたどり着いた。学習指導要領は、特に示す場合を除き、各教科等を履修することになっている。「履修」の意味からすると、各教科等で示されている一部の内容や領域を学ぶことではない。高等部2段階まで学ぶことができる生徒が最後まで学びきるカリ

キュラムが存在しないこと自体が問題であった。つまり、カリキュラム不足である。そこで令和2年度、12年間で高等部2段階まで学ぶことができるカリキュラムの整備に学校全体で取り組んできた（図IV-3-8、写真2）。

もちろん、高等部2段階まで学びきることができる生徒は一部であるので、従来通り、習得状況に応じて、本人の段階に合わせて指導することは変わらない。しかし、各教科等の年間指導計画について、本人の段階に合わせた学年に変更できるようにすることで、授業者が毎年年度末等に年間指導計画を作成する多忙化を解消できるだけでなく、学習指導要領の内容から考えるので、指導者が悩まないようになり、“どう教えるか”という本質的な所で時間を使うことができるようになった。令和3年度には、特別の教科道徳や特別活動、総合的な学習（探究）の時間等についても改善を図り、現在に至る。

高等部 1年生 社会 年間計画		中学部 3年生 数学 年間計画 2段階	
指導内容	指導内容	単元名(底)	単元名(底)
<b>指導内容</b>	<b>指導内容</b>		
<p>ア <b>社会参加でより多くなることと国民主義の実現</b></p> <p>(ア) <b>社会を変えるため必要な社会活動に関する手帳活動</b></p> <p>① 地域の人々と日々に密接に接することで心を理解し、自分の役割や責任を果たすための行動や態度を身につけること。 ② 社会活動での行動を規範に判断し、自分の役割と責任について考え、表現すること。</p> <p>ア <b>社会参加でより多くなることと国民主義の実現</b></p> <p>(イ) <b>社会生活をよりよくして大切なやさしさに心を留める活動</b></p> <p>① 社会生活をよくする大切な方法や心がかかるところを理解すること。 ② 社会生活をよくする大切なものややさしさの意味と自分との関わりについて考え、表現すること。</p> <p>イ <b>公共施設の利用と地図</b></p> <p>(ア) <b>公共施設の利用と地図</b></p> <p>① 公共施設の利用に関する手帳活動</p> <p>② 生活に密接な公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ③ 生活に密接な公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な利用を考え、表現すること。</p> <p>イ <b>公共施設の利用と地図</b></p> <p>(イ) <b>制度でわかる政治</b></p> <p>① 我が国の政治の基本的な仕組みについて理解すること。 ② 国と地方の公共団体の政権の取扱いについて調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p> <p>オ <b>我が国の歴史の柱と國民生活、歴史 國際理解の探求</b></p> <p>(イ) <b>我が国の歴史の柱と國民生活について手帳活動</b></p> <p>① 我が国の歴史上の大きな事象を手帳で記し、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。 ② 世の中の地理、人物の働きや代表的な文化遺産などを見て、我が国の歴史上の大きな事象を捉え、手帳の様子を変化させること。</p> <p>オ <b>我が国の歴史の柱と國民生活、歴史 國際理解の探求</b></p> <p>(ア) <b>我が国の歴史の柱と國民生活に關わる手帳活動</b></p> <p>① 我が国の歴史上の大きな事象を理解することに、人々は白砂砲塔に適応して生きていくことを理解すること。 ② 地形や気候などを背景に、国土の自然などの様子や自然条件から見えて特色ある地域の人々の生活を探し、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。</p> <p>2段階</p>	<p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 1位数と1位数の乗法の計算ができる、それを適切に用いること。 ② 1位数と1位数の除法の計算ができる、それを適切に用いること。 (イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 教量の範囲に着目し、計算に対して成立立つ性質や計算の仕方を覚えることなどにより、日常生活で生かすこと。</p> <p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 除法(商と余りがある場合)や割り算について理解すること。 ② 除法(商と余りがない場合)や割り算について理解すること。 ③ 除法(被除数の端の0について理解すること)。 ④ 除法(被除数の端の0について理解すること)。 ⑤ 除数が被除数の1桁以上ある場合の計算ができること。 ⑥ 商と余りの関係について理解すること。 (イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 教量の範囲に着目し、計算をして成立立つ性質や計算の仕方を覚えるなどにより、日常生活に生かすこと。</p> <p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 教量の範囲に着目し、計算をして成立立つ性質や計算の仕方を覚えるなどにより、日常生活に生かすこと。</p> <p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 教量の範囲に着目し、計算をして成立立つ性質や計算の仕方を覚えること。 ② 1位の数字の比較や並びや表しについて理解すること。 (イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 教量の範囲に着目し、数の表示の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。</p> <p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 教量の範囲に着目し、計算をして成立立つ性質や計算の仕方を覚えること。 ② 1位の数字の比較や並びや表しについて理解すること。 (イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 教量の範囲に着目し、数の表示の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。</p> <p>ア <b>算と計算</b> <b>数的問題の解法</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 教量の範囲に着目し、計算をして成立立つ性質や計算の仕方を覚えること。 ② 1位の数字の比較や並びや表しについて理解すること。 ③ 10の倍数の並びや表しについて理解すること。 (イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 教量の範囲に着目し、数の表示の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。</p> <p>ア <b>图形</b> <b>幾何学的の問題</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 面積の計算をするときに用いる手帳活動</p> <p>② 直角の補角(サブセントメートル)、平行メートル(ば)、平方キロメートル(㎢)について知り、直角の意味について理解すること。 ③ 面積の計算をするときに用いる手帳活動</p> <p>(イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 面積の単位に着目し、图形の変換について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。</p> <p>ア <b>图形</b> <b>幾何学的の問題</b></p> <p>(ア) <b>知識及び技術</b></p> <p>① 直角の補角(サブセントメートル)、平行メートル(ば)、平方キロメートル(㎢)について知り、直角の意味について理解すること。 ② 面積の計算をするときに用いる手帳活動</p> <p>(イ) <b>思考力、相乗力、表現力等</b></p> <p>② 面積の単位に着目し、图形の変換について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。</p>		

図IV-3-8 各教科等の年間指導計画



写真2:学校全体で、教科会に分かれて、各教科等の年間指導計画に取り組む様子

この取組を実践することで、単元構想や指導場面で、教師にとって指導のつながりを意識できるだけでなく、児童生徒が「あの時の○○で習ったこととつながっている。」等の発言が聞かれるようになるなど、実践して2年で効果がみえてきている。

さらに、知的障がいの特別支援学校では、障がいの程度が重く、学習の習得状況から小学部1段階の内容を繰り返し学ぶ児童生徒も在籍している。どのように指導していいのか受け持つ

た教員が悩むことが多いことから、令和3年度に「1段階プロジェクト！」を有志で立ち上げ、1段階の内容をさらに分析し、具体的に発達の視点で考えて、3年サイクルでゆっくりと履修し、習得することができる年間指導計画、単元配列表を開発し、現在実践検討中である。

### 【プロセス3】教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化

(＊カリキュラム・マネジメントの側面（ア）)

単元研究会の「単元構想」の話し合いの中で、「～な力が必要だよね。」と教科等の指導目標とは、別の力の存在、その必要性に気付いた。つまり、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」について、教員同士の話し合いの中で、言及され始めたのである。また、各教科等の関連を図る中で、各教科等の学びをしている際に、教科等横断的な視点に立った資質・能力について実感するような場面を感じた授業者が出来始めた。

学習指導要領では、教科等横断的な視点に立った資質・能力について、参考として示しており、学校の児童生徒や地域の実態に応じて、学校で明確にするように示している。ここでも、教師の力量不足が原因にあるのではなく、そもそもそのカリキュラムが不在だったことが明確となった。

そこで、令和2年度教育課程全体協議会（写真3）にて、全教職員で本校の実態や地域等を考慮してアイディアを出し合い、教育課程に教科等横断的な視点に立った資質・能力を明記し、教育活動の中で意図的に育成を目指すように位置付け（図IV-3-9）。



写真3：教育課程全体協議会の様子

図IV-3-9 教科等を横断的な視点に立った資質・能力

教育課程に明確に位置付けることで、単元案で育む資質・能力として単元構想も意図的に変わってきた。指導する側も教科等の文脈の中で育成・発揮できることを実感し、日々の実践に生かし、児童生徒の資質・能力をより育むことができるようになった（図IV-3-10）。

＜教科等横断的な資質・能力＞：地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成  
地域の実態に応じた各種災害に対する「緊急時に対応する力」の育成を図る。

【評価】

台風19号と関連させながら学習を進める。自分に出来ることとして、「事前に台風が来る前に天気予報を見て避難の準備をする。」など知識を活用する姿が見られた。また、「避難をする道と避難場所を事前に調べておく。」と気付いたことを表現し、そのためにハザードマップを調べたり、水害で避難する時に膝の上から水がたまっている状態での移動しにくさを学んだりすることができた。



図IV-3-10 各教科等の文脈の中で、「緊急時に対応する力」の育成及び学習評価の一部

### 【プロセス4】教育活動の質の向上を図るために単元配列表

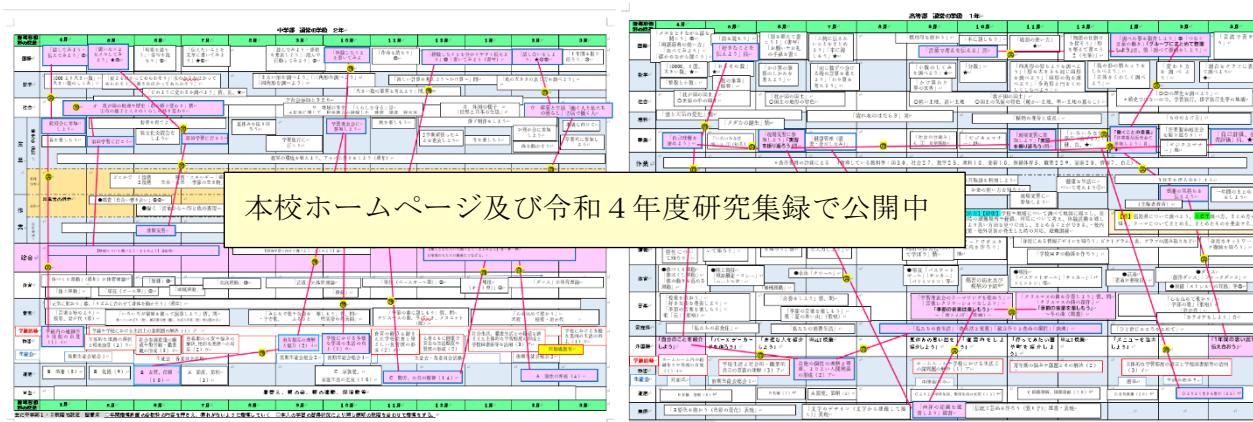
(＊カリキュラム・マネジメントの側面（ア）)

【プロセス2】【プロセス3】によって、各教科等の学び、教科等横断的な視点に立った資質・能力について、カリキュラムが整理されたことで、次はどうマネジメントすると教育活動の質の向上につながるか、という視点が必要になってきた。

マネジメントの仕方については、学習指導要領では「教科等ごとの枠の中だけではなく、教育課程全体を通じて目指す学校の教育目標の実現に向けた各教科等の位置づけを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連付けを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指したりしていくことも重要な」と示している。

教育活動の質の向上を図ること、つまり、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むための意図的な単元間のつながりになるように、教科等横断的に教育内容を組み立てることが必要である。これらを考えるために、既存の各教科等の年間指導計画だけでは、マネジメントが不可能である。そこで、本校では、各学年での各教科等の単元が一覧で見える単元配列表（図IV-3-11）を作成した。

これにより、各学年が次年度の学習内容を見て、各教科等のつながりが生まれやすいように単元配列を改善したり、指導の関連付けを考えたり、教科等横断的な視点に立った資質・能力について考えたりするなど、既存の各教科等の配列から、より教育活動の質の向上が図られるように、カリキュラム・マネジメントすることができた。



図IV-3-11 単元配列表…教科等間のつながりを考えやすく、改善しやすい

【プロセス5】各教科等を合わせた指導の考え方 （＊カリキュラム・マネジメントの側面（イ））

学習指導要領解説各教科等編には、各教科等を合わせた指導について、「個々の児童の実態に即して、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の内容間の関連を十分に図るよう配慮するものとする。」と示している。

カリキュラム・マネジメントとして、押さえるべき文言は、「必要に応じて」「効果的な指導

方法を工夫する」という部分が適切かどうかである。

本校では、各教科等の年間指導計画により指導内容が明確になっていることから、各教科会で、年間の指導内容から、教科別の指導と各教科等を合わせた指導のどちらがより効果的な指導形態なのかを挙げ、各教科等の年間指導計画には指導形態も明記して意識できるようにした。また、見やすいうように各教科等を合わせた指導で取り扱う教科等の一覧（図IV-3-12）を作成し、授業者が計画を立てて指導しやすくした。

図IV-3-12:取り扱いが考えられる効果的な指導内容 図IV-3-13 効果的な時期が分かる指導計画

このベースがあることで、授業者が一から悩むことがなく、学校として取り扱う教科等を示しているのですぐに単元案等で各教科等の資質・能力を明確にして授業実践ができるようになつた。また、明確にすることで、年間を通して、いつ効果的に指導できるのかを見通すことができ（図IV-3-13）、それらをコントロールすることで、各教科等を意図的に指導することができ、単元構想や授業としても変化があらわれてきた。詳しくは、本校の報告書をご覧いただきたい。

さらに、令和5年度に向けた教育課程編成の全体会（写真4）において、指導形態について一旦ゼロベースで考える機会を設定し、指導形態ありきにならないようにした。これまでの実践から、学校の創意工夫として、本当に各教科等を合わせた指導が必要かどうか。必要であれば、どのような創意工夫として、その指導形態が必要であるかを話し合った。その内容を次年度の教育課程に反映していくように進めている。



写真4:全職員で、資質・能力をベースに意見、アイディアを出し合う様子

【プロセス6】業務短縮の取組み（＊カリキュラム・マネジメントの側面（ウ））

日々の単元を充実する上で、資質・能力の明確化、評価規準の設定、単元構想、学習評価等について、日々の校務分掌等も重なって、「やりたくても…時間がない。」という現状に直面する。そこで、令和2年度から令和4年4月にこれまで作成された単元案を収集した所、350個以上の単元案が集まつた。日々、単元に向き合っている結晶である。

＜すぐに単元が考えられるように＞

令和4年4月に集めた単元案について、全てプリントアウトして、職員室の給湯室の前の棚に置いて、常に誰でも見やすいようにした。ちょっと休憩しながら、次の単元のヒントを見たり、自分が困っている時に単元構想の参考にしたりする様子がみられた（写真5）。

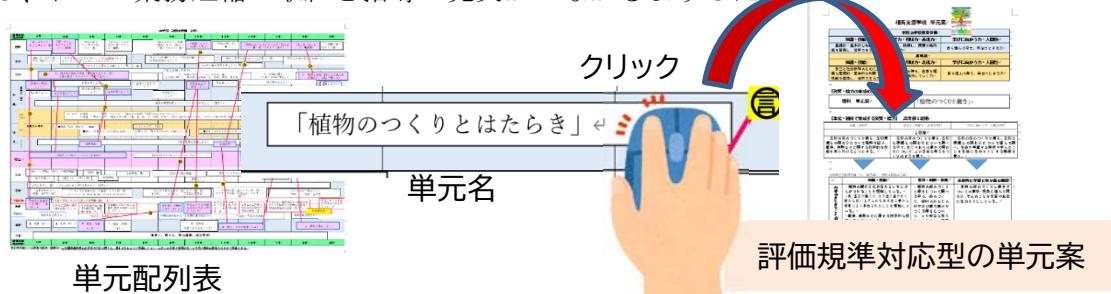
すでに実践してある単元案を見ることで、授業者が一人で悩む時間の短縮を図り、アイディアをもらいながら自分なりの単元を構想して授業することができる。

蓄積された先輩や同僚の教員たちが「どのように教えたのか」を具体的に見ることができ、自ら授業や単元について考える環境を整え、支援することができた。また、単元案のフォルダについても、各教科に整理し、すぐにデータとして活用できるように整理した。これにより、形式等をすぐに活用したり、学習評価等の様子から指導の参考にしたりするなどして、すぐに単元構想、授業準備がしやすい環境を整えた。



写真5:各教科等のこれまでの単元案がすぐに見ができるようになっている。

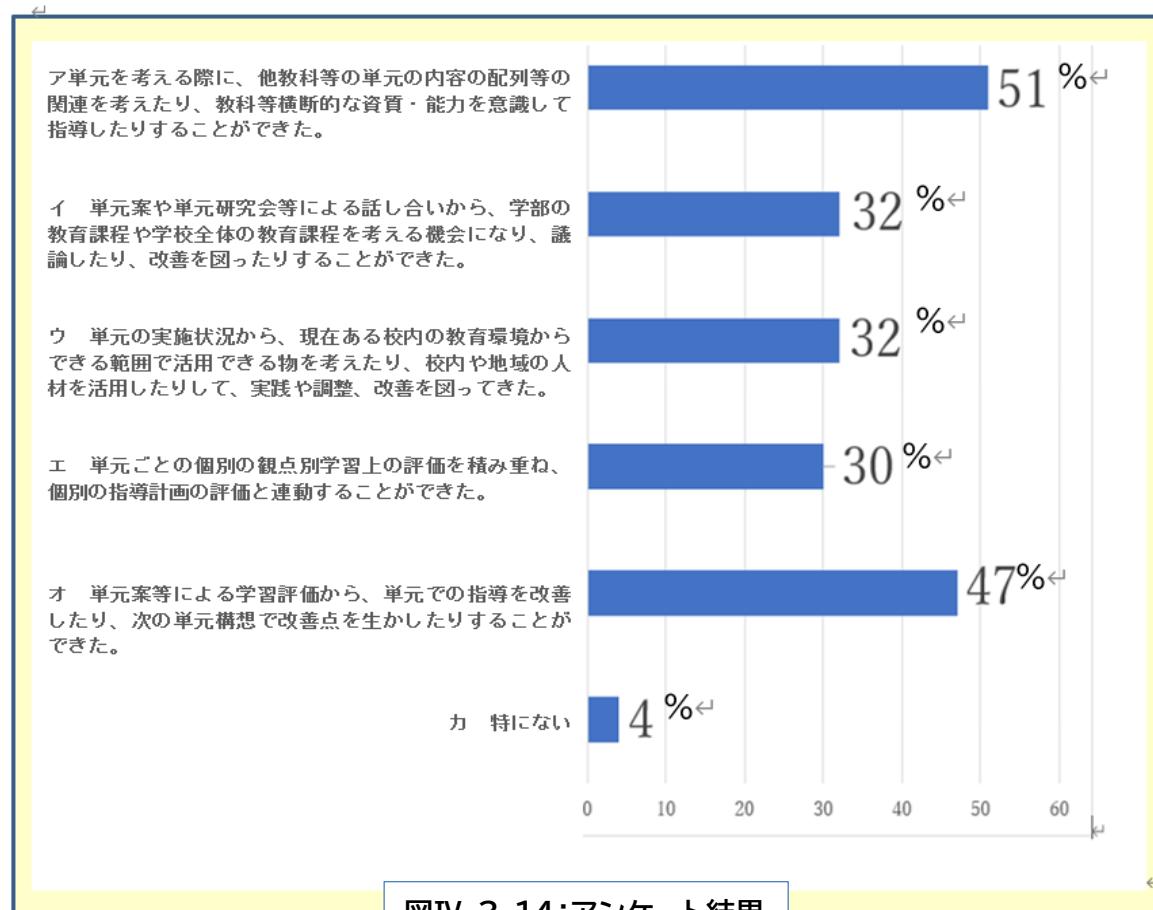
また、単元配列表や年間指導計画をクリックすることで、すぐに単元案が出てくるシステムを開発した。開発中は、クリックするとすぐに出てくるということで、CK作戦（単元案クリック作戦）と名付け、ちょっと楽しみながら時間を見つけて集中的に取り組んできた。まだ、全ての教科が万全に整ってはいないが、8割程度完成しており、単元配列表をクリックすることで各教科等の資質・能力や評価規準が明確になった単元案が出てくるようにシステム化し、日々の業務短縮の取組と指導の充実がつながるようになった。



## エ カリキュラム・マネジメントの成果と課題

### <成果について>

令和4年9月に「単元案や単元研究会によって得た効果を教えてください。」というアンケートをとった。当てはまる項目に全て○をつけるようにしている。その結果が図IV-3-14である。



図IV-3-14:アンケート結果

質問項目ア～オについては、カリキュラム・マネジメントの4つの側面と対応している。結果として、教育活動の質の向上のために、もっとも大切である「他教科との関連付けや教科等横断的な視点に立った資質・能力について」効果があったと答えている教員が51%、教育課程改善につなげる議論や改善につなげたという教員が32%、校内の教育環境において調整、改善を図ってきた教員が30%、単元における学習評価、つまり個別の指導計画の実施状況から次の単元構想等に生かした教員が47%、特にないが4%であった。

実質、特にないと回答した4%を除く、96%の教員が、カリキュラム・マネジメント4つの側面に、授業者として単元を研究する中で何らかの形で働きかけ、本校の教育活動の質の向上に向けて向き合っていたという結果がでた。

まさに、授業者による日々の取組が、そのままカリキュラム・マネジメントにつながる証拠と言える。そして、その結果として、プロセス1～プロセス6につながる様々な教育的課題に向き合い、開発・改善しながら、より教育活動の質の向上に向かうことができた。

## <今後に向けた取組と課題>

普段の授業、単元構想を充実させ、「何が身に付いたのか」学習評価をして向き合うことで、それがカリキュラム上の課題や改善点につながったり、カリキュラムを教育活動の質の向上のために全職員でマネジメントすることにつながったりすることを研究から実感することができた。

ただし、私たちの仕事は、日々様々な業務に追われている。

カリキュラム・マネジメントの根拠となる日々の授業に向き合うことができないビルト型の研究にはならないようになることが大切であると考える。

そのため、本校では業務改善となる取組も同時に行ってきた。

本校の研究のアンケートには、業務改善に関する感想もある。

「時短や業務短縮について、めちゃくちや感じます！」

「時短でありながら、単元案を活用した確実な実践につながりました。」

「業務短縮に向けた取組が少しずつ増えてきているので、とても良いと感じています。業務短縮のために感謝の気持ちで一杯です。」 等

学習指導要領に着実に、本気で向き合っている一方で、業務短縮や時短という感想が出ることはまれであると考える。授業者が授業をしやすいように、この3年間の研究を通してカリキュラムやCK作戦（単元案クリック作戦）が整うことで、授業者の「何を教えるか」というこれまでの知的障がい教育であった悩みや不安が減り、授業者本来の「どのように教えるか」という部分を追究することができ、それが働き方改革につながっていると感じる。

今後も、より授業や単元に向き合える時間を確保できるように、学校全体で取り組んでいきたいと考える。

## <最後に>

単元案による単元構想と指導と評価の一体化に向き合いながら、学習指導要領が求めている観点について、どのように指導するのかという指導感覚を高めたり、カリキュラム上の問題点などについて改善したりと、今後も一歩一歩進んで行きたいと考えている。

今後も、児童生徒が成長を実感できる、学びがつながる面白さを感じることができる、そして、教師も自分の指導技術の成長を実感できる学校を目指し、本校の学校経営・運営ビジョンにある「共に、支え合い・高め合う学校」が実現できるように、愚直にカリキュラム・マネジメントに取り組んでいきたいと思う。

\*カリキュラム・マネジメントについて紙面上内容を精選して記載しました。

詳しくは、本校ホームページの令和4年度研究集録をご覧ください  
(図IV-3-15)。



図IV-3-15 研究集録

## 5. 教科別の指導における単元作成と学習評価

(1) 国語科で、段階別に評価規準を設定し、生徒の自己評価も含めた学習評価をした事例

① 教科と単元名

中学部 国語 「説明書に注目！」

情報の扱い方、読むこと 【中学部 1・2段階】

※本実践に関わる各シートは、本項末に添付する。

② 学級の実態

本校中学部では、習熟度別のグループを学年縦割りで編成し、国語や数学の授業を実施している。本グループ（以下、Kグループ）は、生徒6名で構成され、特別支援学校学習指導要領中学部国語科の第1段階から第2段階相当の内容を学習している。生徒の学習上の課題として、語彙数が少ないとによる表現方法の偏りや、言葉の理解が限定的、情報の捉え方が部分的で文章問題が苦手、言葉のもつイメージが文字のみだと捉えづらいなどが挙げられる。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

年間の各教科等の単元を配列したLシート（年間単元配列表）をもとに、年度当初に作成した国語科の年間指導計画に沿って実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、夏季休業期間に入るまで予定通りに各単元を実施できずにいた。夏季休業期間での教育課程検討会にて、休業明け以降の教育課程を調整し、Kグループの生徒の個別の指導計画等と照らし合わせて、本単元の設定となった。本単元では、生徒の身近な生活の中にある注意書きや表示、説明文書がどういう意図で掲示してあるのかを理解するとともに、文章から必要な情報を読み取ることが作業につながっていることを実感することで、注意書きや説明書の内容を進んで生活に生かそうとする態度を身に付けることをねらいとした。

イ 単元目標

取り扱う内容のまとめ【段階】：情報の扱い方、読むこと 【中学部 1・2段階】

知識及び技能	言葉の意味を理解し、文章のまとまりに気を付けて読むことができる。
思考力、判断力、表現力等	注意書きや説明文などから必要な情報を読み取り、その内容に沿って作業したり、その意図を考えたりしようとする。
学びに向かう力、人間性等	身近な生活にある注意書きや説明文などに関心を持って生活に生かそうとする。

本単元の目標設定にあたっては、中学部第1段階から第2段階の目標を踏まえて、「知識

及び技能」の内容から“情報の扱い方”を、「思考力、判断力、表現力」の内容から“読むこと”を取り扱うこととして、3つの資質能力での目標を本単元の到達目標として設定した。

#### ウ 単元の評価計画

		単元目標に対する達成状況の評価規準 (求めたい子どもの具体的な成長の姿)	
		1段階	2段階
知識・技能	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解することができる。	
思考・判断・表現	必要な語句や文章などを読み、行動しようとする。	目的に沿って必要な語句や文章、表示などの意味を読み取り、行動しようとする。	
主体的に学習に取り組む態度	注意書きや説明文などに興味・関心をもって注目しようとする。	注意書きや説明文などに興味・関心をもって普段の生活の中で生かそうとする。	

生徒一人一人の実態に合わせて適切な学習状況の評価ができるように、評価規準を段階ごとに設定した。「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、学習指導要領に示されている内容のまとめから設定し、「主体的に学習に取り組む態度」は、単元目標を基に設定した。

#### エ 授業計画

単元目標や単元の評価規準、学習計画等は、単元全体の計画として、本校で作成している単元構想シートにより設定している。

下記の学習計画は、本単元で取り扱う内容を踏まえて設定した目標や評価規準と連動する形で、学習内容を計画したものである。

学習計画				
日付	曜	学習プロセス	主な学習内容	情報活用能力
10月28日	木		・標識や表示等の撮影と意味調べ	
11月4日	木	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ⑤振り返り・改善	・宿題の共有・説明書の中の注意書きとは ・説明書にある注意書きを探す	収集 整理・比較 発信・伝達
11月9日	火		・説明書読んで掃除機の使用	
11月16日	火		・説明書読んで空気清浄機の掃除	
11月19日	金		・説明書読んで空気清浄機の掃除～パート2	
11月26日	金	⑤振り返り・改善	・コーヒーを淹れよう/テスト	保存・共有 発信・伝達

また、一単位時間の授業は、本項末に添付している授業構想シートにより展開した。一単

位時間の授業ごとに、生徒の習得状況を判断することをとおして、授業改善を行いながら単元を進めており、上記の学習計画は、当初立てた計画から授業改善を通して変更した学習計画として記載している。

#### ④ 学習評価

毎授業の評価は、授業構想シートに記載するようにしており、その授業での生徒の取組状況から、端的な文章で理解度や生徒の様子を記した。また、指導の改善につながる内容についても記している。

評価方法について、具体的には、実際の活動の様子を教師が見取ったり、振り返りの際にビデオで撮った活動の様子から生徒が気付いたことを記述したり、その授業で行った活動内容を宿題として家庭で行う際に保護者から取組の様子を記載してもらったりするなどをとおして、評価を行った。

単元のまとめの評価は、下記の評価シートで行った。

(評価シート)

評価シート: 単元(題材)目標に対する達成状況						
(評価基準[習得状況の程度] ◎:十分に達成できた ○:概ね達成できた ▲:○に満たない)						
単元名			1年	2年	2年	2年
段階		評価規準(求めたい子どもの具体的な成長の姿)	水〇	富〇	寺〇	谷〇
知技	1	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。	◎	-	○	-
	2	考え方とそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解することができる。	-	○	-	◎
思判断	1	必要な語句や文章などを読み、行動しようとする。	○	-	◎	-
	2	目的に沿って必要な語句や文章、表示などの意味を読み取り、行動しようとする。	-	○	-	◎
主態度	1	注意書きや説明文などに興味・関心をもって注目しようとする。	○	-	◎	-
	2	注意書きや説明文などに興味・関心をもって普段の生活の中で生かそうとする。	-	○	-	○
特記事項						
水〇:表示や案内の違いについて、矢印があるかないかで判断ができた。文章を読むことには慣れているが、その意味を理解して、行動に移すまでには、ヒントや声掛けが必要だった。コーヒーを淹れる説明は動作化で確認したこと、理解が促された様子であった。						
富〇:掃除機や空気清浄器を取り扱う際には、自分で読んだ箇所を繰り返し確認する姿があった。また、普段の学校生活や家庭生活では、案内や表示等に気付いてよく見ていた。コーヒーを淹れる学習は自分自身で淹れ自信が付いた様子であった。						
寺〇:生活経験が豊かで、これまでにはその経験を基にして何も見ようとしない様子だったが、本単元を通して、説明書に注目するようになった。また、必要な情報を得るために説明書をよく読み、どこに書いてあるかもいち早く反応できていた。						
谷〇:文章を読んで理解することができていた。ただ、家庭での取組は家庭の家電の取り扱いに慣れていたこともあり、説明書は探して撮影はしたが、よく読まずに取り組む様子があった。						
倉〇:案内と表示の違いは理解でき、自分で判断もできていた。説明書も注目すべき箇所をよく読んで、行動に移すことができた。家庭でも説明書をよく読んで取り組むことができていた。						
松〇:文章を読むことは長けているが、言葉の意味を捉えて行動することはやや難しい様子があった。ただ、1年前に調理活動で飲み物を作った際には、説明書を見ずに分量も味も大変なことになったが、今回の単元を受けて、最終日には説明書に注目してコーヒーを適切に淹れることができていた。						

本単元の評価は、毎時間の評価の記録や、単元末に行ったテスト等を基に、「習得状況の程度」として記号で評価した。また、それぞれの生徒の評価につながる具体的な様子を「特記事項」として具体的に記し、次の単元計画につなげられるようにしている。

#### ア 授業者による実践の振り返り

#### (ア) 単元目標に関する成果と課題

単元目標を達成するために一単位時間の授業ごとに観点別の目標を設定し、生徒へは本時のめあてとして提示したため、目標を意識して学習を展開することができた。活動の流れを毎回同じように設定し、説明文を読み上げた後に、文章の意味を確認し、実際に動作化していったことで、説明文の理解につながった。また、大事な情報を捉えて判断する姿も多くみられるようになり、学校生活や家庭生活でも身近にある案内掲示や表示、電化製品の注意書きなどに目を向ける姿がみられるようになった。

目標設定に関しては、生徒の習熟度に応じて1段階と2段階に分けて観点別による個別の目標を設定したが、生徒の実態によっては、「知識、技能等」は2段階相当であるが、「思考、判断、表現等」は1段階相当で設定することが望ましかったのではないかと考える。そうすることで、授業中の個々の生徒への発問や、自己評価シートなどをより工夫できたのではないかと考える。

#### (イ) 学習評価に関する成果と課題

授業後に授業構想シートによる毎時の学習状況の評価等を行うことで改善点が焦点化され、次時へ生かされた。また、学習評価を「生徒の学習状況の評価」と「生徒の自己評価」、「家庭学習の様子」の3つに整理して総合的に評価したことにより、客觀性が保たれ、単元目標に沿った具体的な評価に結び付けることができた。

本单元では、ICTを活用し、授業展開では写真や動画を用いて、説明書が意図する箇所を視覚的に理解につなげることができたとともに、自己評価や家庭学習の様子等も効率的に集約ができ、単元後も労力を割かれることなく生徒一人一人の学習評価を整理することができた。

一方で、評価したことを個別の指導計画にどのようにリンクしていくかが課題となった。本单元以外での学習においても学習評価を積み上げており、しかしながら全ての学習評価を個別の指導計画や指導要録に記載していくには労力を費やすことになる。コストバランスを含め、効率的で効果的な学習評価の記載方法、もしくはそれに代わる新しい継続性のある学習評価の残し方、在り方を検討していく必要がある。

(執筆担当：協力機関A校)

M シート	中学部	領域・教科等名 国語	単元(題材)名 説明書に注目!	期間 令和3年10月~	単位時間数 6	記入者 T
学習指導 要領段階 学習 概要	国語	情報の扱い方, 読むこと【中学部1・2段階】 身近にある説明書を読み、説明文の文章に沿って物事に取り組む。 また、生徒の身近な生活の中にある注意書きや表示、説明文書がどういう意図で掲示してあるのかを理解する。 文章から必要な情報を読み取ることが作業につながっていることを実感することで、注意書きや説明書の内容を進んで生活に生かそうとする態度を身に付ける。				
単元(題材)目標						
知識及び技能		言葉の意味を理解し、文章のまとまりに気を付けて読むことができる。				
思考力、判断力、表現力等		注意書きや説明文などから必要な情報を読み取り、その内容に沿って作業したり、その意図を考えたりしようとする。				
学びに向かう力、人間性等		身近な生活にある注意書きや説明文などに关心を持って生活に生かそうとする				
単元でねらう情報活用能力 新聞や書籍を使った情報収集、調査・実験・観察／情報同士の共通点や相違点の比較						
BS ・身近な生活にある注意書きや表示からその意図することを確認し合う。→言葉や文章、シンボル等から情報を読み取る。 ・説明書を読むことで生活が便利になることが実感できるような授業の工夫とは。 ・説明書を拡大提示して、どこ箇所が工作に必要な情報をかを確認し合う。 ・説明書を読まなければ完遂しないものとは何か…。 ・毎時の振り返りをしていく。めあてに沿った自己評価。また、教師との確認。自己と他者の評価の一致。評価の蓄積。単元終了時には教師からの評価。 ・授業内容の余裕を持たせる。一つの授業に一つの内容が妥当。しっかり考え発見する時間を設定。 ・生徒同士の意見交換の機会を設定。教師から生徒への一方通行のみを注意。						
学習計画						
日付	曜	学習プロセス	主な学習内容	情報活用能力		
10月28日	木		・標識や表示等の撮影と意味調べ	収集	整理・比較	保存・共有 発信・伝達
11月4日	木	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ ⑤振り返り・改善	・宿題の共有・説明書の中の注意書きとは ・説明書にある注意書きを探す			
11月9日	火		・説明書読んで掃除機の使用			
11月16日	火		・説明書読んで空気清浄機の掃除			
11月19日	金		・説明書読んで空気清浄機の掃除～パート2～			
11月26日	金	⑤振り返り・改善	・コーヒーを淹れよう/テスト			
留意事項・共通事項・準備物等 ワークシート 振り返りシート 各教室から空気清浄機の回収						
知識・技能 思・判・表 主体的態度	単元目標に対する達成状況の評価標準(求めたい子どもの具体的な成長の姿)					
	1段階		2段階			
	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解することができる。				
必要な語句や文章などを読み、行動しようとする。	目的に沿って必要な語句や文章、表示などの意味を読み取り、行動しようとする。					
	注意書きや説明文などに興味・関心をもって注目しようとす。					
単元(題材)の評価(○:十分である △:検討が必要)						
期日	時数	内容	教材	学習グループ		
○	△(増やす)	○	○	○		
全体を振り返って						
<p>・本単元を通して、生活経験から読まずにやっていたことが、説明書を読んで新たな気付きになり、説明文に注目して取り組む姿勢が見られた。また、機械やコーヒーを淹れたことのない生徒にとっては、説明書を読んで自分で取り組むことができたことが大きな自信となつたようである。</p> <p>・案内と表示の分別は、「矢印に注目する」ということを生徒自らが気付き、それを共有したことでの他の生徒の理解も促された。対話的な学びの場面であった。</p> <p>・説明文を読むことはできるが、項目ごとに区切って、工程を分けていくことで情報の整理がしやすそうであった。</p> <p>・説明文に記載されている言葉の意味を理解していくには、体験的な活動を通すことが効果的であった。</p> <p>・学習内容が学校生活や家庭生活と直結している内容であったことから、授業後の生徒の様子に変化が見られ、家庭生活においても説明書に注目がいくようになった。</p> <p>・ロイロノートにより学習内容を家庭と共有していたが、授業内容(案内とは?表示とは?など)ロイロノートには記載していないこともあり、家庭学習において保護者が確認する際に戸惑われた様子があった。どこを共有するかを精査して、情報を整理したうえで家庭と共有を図る必要があった。</p>						

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名 / 取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年10月28日(木)	記入者 T
----------	-----------	---------------	----------------------------	----------------------	----------

本時のねらい	・校内になる案内板や表示などを見つけて、その意図を考えようとする。(思・判・表)
--------	--

時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価
10分	1 ・提示された案内板や表示の意味を考える。 ・今日のめあてを知る。 ①案内板や表示を探してみよう。	・身近な生活でよくみられる案内板等の写真を提示し、どんな意味があるのか問う。「自動ドア」「ティッシュボックス」など。		
15分	2 ・校内の案内板や表示などを探して撮影する。 (2グループに分かれる)	・撮影することに意識を取られないように、3人に1台のタブレットで撮影する。 ・撮影する際に、どうしてその場所にあるのか、その意図を問うようする。	収集 【基礎的操作】	・体験的な活動で理解が促された様子
15分	3 ・撮影したものをロイロで共有し、意味を考える。	・撮影したものをロイロノートで整理できるように、ワークシートを用意する。 ・ロイロノートで共有し、自分と友達の意見を比べられるようにする。	整理・比較 発信・伝達 保存・共有	
10分	4 ・振り返り (今日のめあてが達成できたか自己評価する) ・宿題の確認をする。	・生徒の自己評価を確認して、次の課題を伝える。 ・振り返りシートを用意して、毎時自己評価等ができるようにする。 ・家中や家の周辺での案内板や表示を探して撮影するように伝える。		・自己評価の時間が取れなかった。

学習状況の評価	改善と志向
・校内の撮影を通して理解が深まっていた。	・宿題で理解度の確認をする。

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名 / 取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年11月4日(木)	記入者 T
----------	-----------	---------------	----------------------------	---------------------	----------

本時のねらい	・説明書の中から注意書き探し当て、その意図を考える。(思・判・表)
--------	-----------------------------------

時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価
10分	1 ・提出した宿題を確認する。 ・友達の撮影した案内板などの意味を考える。	・ロイロノートで共有し、提出順に案内板などの紹介を提出した生徒自身で発表してもらう。 ・クイズ形式のようにして意欲を高める。	【基礎的操作】 発信・伝達	・クイズ形式は内容にあっていなかった。
10分	2 ・今日のめあてを知る。 ①注意書きについて知る。 ②注意書きを探してその意味を考える。 ・注意書きについての話を聞く。	・普段使っている空気清浄機の説明書を人数分コピーして渡す。 ・注意書きについて例を挙げながら説明する。		
20分	3 ・説明書の中から注意書きを探す。 ①ロイロノートに撮影した注意書きを貼り付ける。 ②注意書きのマークを整理する。 ③その注意書きの理由を考える。	・注意書きの文章の中で注目してほしい箇所にマーカーを引く。 ・どうしてその注意書きなのか、理由を繰り返し尋ねていく。 ・注意書きのマークを意味を整理できるように色分けした枠のシートを使う。	収集 整理・比較 発信・伝達 保存・共有	・口頭で説明するより、実際の説明書を見ながら説明した方が分かりやすかった
10分	4 ・振り返り (今日のめあてが達成できたか自己評価する) ・宿題の確認をする。	・生徒の自己評価を確認して、次の課題を伝える。 ・振り返りシートを用意して、毎時自己評価等ができるようにする。 ・家にある機械類や調理器具の説明書にある注意書きを探して撮影するように伝え		・自己評価するまでの時間が取れない。

学習状況の評価	改善と志向
・実際の説明書を提示したことで、警告や注意、禁止マークの理解が促された様子。	・実際の説明書を箇所ごとに撮影して提示した方がよい。 ・自己評価の時間を確保する。

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名／取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年11月9日 (火)	記入者 T
----------	-----------	---------------	--------------------------	-------------------------	----------

本時のねらい	・説明書の注意書きに気を付けて掃除機を扱うことができる。(思・判・表)
--------	-------------------------------------

時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価
2分	1 ①今日のめあてを知る。 ②警告と注意箇所を読む。	・前時で学習した注意書きに触れる。		
8分	2 【見つけてみよう】 ・掃除機を扱っている動画を見て、それが警告にあたるのか、注意にあたるのかカードで伝える。	・前時の「警告」の復習と、「注意」の文章をトリミングした写真を提示して説明する。 ・大事な個所にはマーカーで印をつけるように促す。	收集	宿題とつながりがあった。
15分	3 【使ってみよう】 ①説明書を確認して使う。 ・電源プラグをコンセントに差し込む。 ・ゴミを吸引する。 ・電源を切り、コードを巻き込む。 ・収納する。	・警告と注意、グッドカードを用意し、動画を見ながら気付いた時点でカードで伝えるようする。 ・警告と注意、グッドそれぞれ2~3つずつ動画を用意する。	整理・比較 保存・共有	動画を用意したことで繰り返し提示することができた。
20分	4 【使ってみよう】 ①説明書を確認して使う。 ・電源プラグをコンセントに差し込む。 ・ゴミを吸引する。 ・電源を切り、コードを巻き込む。 ・収納する。	・2台の掃除機を用意し、3人2組に分かれ る。 ・説明書を読み上げて、大事な個所にマー クを付けるように促す。 ・ゴミはシュレーダーの紙くずを用意する。 ・順番を待つ生徒はカードで適切な扱い化 を表現するようにする。		注意書きから自分の行動に落としめてのが良かつた。
5分	5 ・振り返り (今日のめあてが達成できたか自己評価す る) ・宿題の確認をする。	・生徒の自己評価を確認して、次の授業 を伝える。 ・振り返りシートを用意して、毎時自己評価 等ができるようにする。 ・家にある掃除機を扱うことを宿題とする。	発信・伝達	

学習状況の評価	改善と志向
・動画を見て、判断ができた。 ・動画の確認後に動作化して理解できていた。	・グッドカードなど言葉以外で表現できるツールがあると、生徒も判断したことをすぐに表現しやすい。 ・自己評価できたことで、本時ほどの内容量が適切であった。

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名／取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年11月16日 (火)	記入者 T
----------	-----------	---------------	--------------------------	--------------------------	----------

本時のねらい	・説明書に書いてある文章を読んで内容を理解する。(知・技) ・説明書の中から必要な情報を読み取って行動しようとする。(思・判・表) ・前時で学習した掃除機を気を付けて扱おうとする。(学・人)
時間	主な学習活動
5分	1 ①提出した宿題を確認する。 ②友達の掃除機の様子を共有する。
5分	2 ①今日のめあてを知る。 ②説明書の内容が分かる。 ③説明書の通りに空気清浄機を掃除する。
25分	3 ミッション ・「お手入れ」について書かれている個所を見つける。 ・説明文を読む。時間がかった ・注意書きを探す。 ・手入れの順番と内容を整理する。 ・手入れをする。 説明書を読んで3つの工程に入ると、いろんな情報が混在して戸惑ってしまっていた。
15分	4 ・振り返り (今日のめあてが達成できたか自己評価す る) ・宿題の確認をする。

学習状況の評価	改善と志向
・説明書の注意書きには注目できていた。 ・説明書の情報が多くて、手入れに困惑している様子であった。	・一工程ごとに区切って、説明書→動作化を繰り返す。 ・一人一台の手入れとし、自分自身で考える時間を多く設定する。 ・掃除機の説明書も確認する。

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名／取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年11月19日(金)	記入者 T
----------	-----------	---------------	--------------------------	----------------------	----------

本時のねらい	・説明書に書いてある文章を読んで内容を理解する。(知・技) ・説明書の中から必要な情報を読み取って行動しようとする。(思・判・表) ・前時で学習した掃除機を気を付けて扱おうとする。(学・人)
--------	---

時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価
3分	1 ·前時の復習をする。	・掃除機の取り扱いにも注意するように促す。		
5分	2 ·今日のめあてを知る。 ①説明書の内容が分かる。 ②説明書の通りに空気清浄機を掃除する。	・前時の振り返りもかねる。		
30分	3 ·空気清浄機の掃除をする。 ①説明書の確認→カバー、本体の掃除 ②説明書の確認→プレフィルターの掃除 ③説明書の確認→集塵フィルターの掃除  工程ごとに分けたことで、情報の整理がしやすそうであった。	・一人一台に空気清浄機を渡す。 ・掃除機の説明書も確認するようにする。 ・授業のねらいが達成できるように、工程ごとに区切る。 ・掃除に取り組む様子を確認しながら、必要に応じて作業を一時中断し、説明書に再度注意を払ったり、注意箇所を確認したりする。 ・説明書に示してある順序で、文章を確認していく。その際には、大切な文(情報)を考えるように促し、マーカーで引いていく。 ・掃除に取り組む工程で、マーカーで引いた箇所を繰り返し問い合わせていく。	収集 整理・比較 発信・伝達 保存・共有	・教師から支 持する際に、 聞く姿勢を整 えてから話す とよかったです。 ・掃除機の説 明書も確認し たので、理 解につながっ た。
12分	4 ·振り返り (今日のめあてが達成できたか自己評価する) ・宿題の確認をする。	・自己評価後は、どうしてそのような評価な のか理由を尋ねる。	保存・共有	

学習状況の評価		改善と志向
・説明書を意識して、各工程ごとに考えながら取り組んでいた。 ・前回の授業より、達成感を感じている様子。		・自己評価の時間が取れなかった。 ・空気清浄機の掃除は2時間の授業時数を確保すべきであった。 ・次年度の職業・家庭の掃除の学習にも今回の学びをつなげる。

S シート	中学部 KG	領域・教科等名 国語	単元(題材)名／取扱項目等 説明書に注目!	日付 2021年11月26日(金)	記入者 T
----------	-----------	---------------	--------------------------	----------------------	----------

本時のねらい	・説明書を読んでコーヒーを淹れることができる。(知・技) ・コーヒーを淹れるために必要な情報の意味を的確に捉えて表現できる。(思・判・表)
時間	主な学習活動
3分	1 ·前時の振り返りをする。
2分	2 ·本時のめあてを確認する。 ①説明書通りにコーヒーをつくる。 ②言葉の意味を考えて表現する。
10分	3 ·ドリップコーヒーの淹れ方の説明書を読む。
25分	4 ·コーヒーを淹れる。(2人ずつ) ①教師に4種の中から選んでもらう。 ②説明書通りに淹れる。  ・テストを受ける。(残り4人) 淹れる順番が来るまでテストを受ける。
10分	5 ·振り返り (今日の自己評価と単元を振り返る)

学習状況の評価		改善と志向
・これまでの学習以上に、興味関心をもって取り組んでいた。		・テストをする際は、時間をかけて、問題の意味を正しく伝えながら行う。 ・自己評価する時間が難しい。内容の精選と、単元時数を増やすことによって、50分間のなかでの自己評価が保障されるか。

## ⑤ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

本実践に向けて、習熟度別の集団編成により国語科における段階を明確にし、年間計画の見直し・修正等を踏まえて取り扱う内容のまとめを整理したことから、本学習集団として必要な学習内容を設定しているという一連の流れは、PDCA サイクルを踏まえた教育活動を展開していくうえで、大変重要な取組である。そして、取り扱う内容のまとめをもとに、具体的な内容で単元目標を立てており、結果、授業実践において、本単元の到達目標を明確にして学習に取り組む教師や生徒の姿につながった。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

単元目標は段階を分けずに育成をめざす資質・能力の三つの柱で示されている一方で、評価規準は、学習指導要領で示される内容をもとに段階ごとに観点別に作成されており、観点別学習状況の評価として把握できるものとなっている。単元の評価シートにおいて、学習状況を記号で評価するものと、特記事項として生徒一人一人の学習状況の様子を具体的に記述して評価するものとがあり、より妥当性のある評価につながっていると考える。

#### イ 考察

本校は、これまでの研究成果により、児童生徒の学習状況を踏まえた実態把握が行われ、各教科等で目標となる段階を把握していること、年間の各教科等の単元を配列した年間単元配列表により、教科別の指導で取り扱う内容と各教科等を合わせた指導で取り扱う内容との関連を整理していることなど、プランニングが大変きめ細かく行われている。その取組が基となり、単元構想シートにより作成する単元計画の中で、各教科で取り扱う段階や内容のまとめが示され、単元目標や評価規準が適切に設定されている。

さらに、毎授業の評価や単元のまとめで行われる評価は、授業構想シート及び評価シートにより、教師が見取る習得状況の評価、生徒一人一人が行う自己評価、家庭学習場面で見取る評価などを基に多面的に行われている。

このような実践を通して、指導と評価の一体化が積み重ねられることによって、着実に生徒一人一人の資質・能力の育成につながっていると考える。熊本大学教育学部附属特別支援学校で行われている教育課程の整理、学習計画の作成、授業実践、学習評価といった一連の流れは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実に向けて大変参考になるものである。

(執筆担当者：真部信吾)

(2) 国語科で、取り扱う内容の段階が一つの集団で共通の評価規準を設定し、A B C の評語で評価レベルを分けて学習評価をした事例

①教科と単元名

国語科 「はなしをきこう つたえよう」

②学級の実態

本学級は本校で活用している「太田ステージ評価」ではIII-1～IVの児童が在籍する学級である。身近な人や興味や関心のある物事との関わりを繰り返しながら、身近な人からの話を聞いたり、真似をしたりすることを通して、言葉でのやりとりができてきている段階の児童である。どの児童も教員の簡単な指示に応じて活動ができるが、数や書字、言語理解において若干の実態差が見られるため、個に応じた支援が必要である。特別支援学校学習指導要領国語科2段階の目標と内容を中心として学習を進めている。

③単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

特別支援学校学習指導要領国語科2段階の目標では、「日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようする」「言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようとする」とされている。

本授業の対象児童は、日常会話も多く、簡単な指示を聞いて行動できることが多いが、場面に合わせて適切な言葉で伝えることに難しさがある。また相手に伝えるときも単語などで伝えているため、相手が、何を伝えようとしているかをよく聞き汲み取る必要がある。適切な伝え方の一つとして、「○○が△△している。」という動作を表す言葉にも少しずつ触れていきたいと考えていたため、児童の関心が高い実際の教員の写真を使って、何をしているか答えることができるようにした。

物事や出来事などについて表す言葉を繰り返し聞かせたり、関わりなど児童の興味や関心に応じて言葉を表現したりすることを通して、身近な人とのやり取りを深め、必要な国語を身に付けていけると考えこの単元を設定した。

イ 単元目標

- (ア) 身近な人の会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れることができる。(知識・技能)
- (イ) 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句を結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすることができる。(思考力・判断力・表現力)
- (ウ) 言葉がもつよさを感じるとともに、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしよ

うとする態度が身につく。(学びに向かう力・人間性等)

#### ④単元の授業計画及び評価計画

時	主な学習内容		評価の観点		
			知・技	思・表・判	主
1	指令 かるた	・教員の説明を聞いて 物の名前や動作などを表す言葉を知り、言葉とイラスト・言葉と行動を結び付ける。	◎		
2	指令 かるた	・教員の説明や指示された物や動作を表す言葉を聞いてイラストや写真を選ぶ。	○	◎	
3 ～ 4	指令 かるた	・教員や友達の説明や指示された物・動作を表す言葉を聞いたり読んだりして、イラストや写真を選ぶ。 ・身近な物や動作を表す言葉などを聞いてその内容に応じた行動をする。		◎	
5	さつま の おい も	・物の名前や動作を表す言葉などを聞いたり読んだりしてその内容に応じた行動をする。 ・自分や友達が選んだ物や行動を発表する。		○	◎
6	さつま の おい も	・物の名前や動作を表す言葉などを聞いたり読んだりしてその内容に応じた行動をする。 ・学習の振り返りをする。		○	◎

## ⑤学習評価

### ア 単元で行った学習評価

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準		身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。	身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句を結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしている。	言葉がもつよさを感じるとともに、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。
	A	・身近な物の名前や色名・大小、動作語などを聞いて、何を表しているか理解することができる。	・動作語を含む三語文の表現を聞いたり、読んだりすることにより、それに合ったイラストを選び、行動することができる。	・三語文の表現に興味や関心を向け、聞くことでいろいろなことが言葉で表現できることを知り、自分なりに表現してみようとする。
	B	・身近な物の名前や、動作語などを聞いて、何を表しているか理解することができる。	・動作語を含む二語文の表現を聞き、それに合ったイラストを選び、行動をすることができる。	・二語文の表現に興味や関心を向け、聞くことで物の特徴や状況を言葉や動作で伝えようとする。
	C	・身近な物の名前や動作語などを聞いて、少しのヒントで何を表しているか知ることができる。	・身近な食べ物などの一語文を聞いて、それに合ったイラストを選ぶができる。	・教員のヒントを手掛かりにして、物の特徴や状況を伝えようとする。

学習評価（目標の達成状況）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な物や動作を表すイラストを見て、簡単な事柄や状況と結び付け、正しく答えることができた。	・一から三語文の表現を聞いたり読んだりして、それに合ったイラストを選ぶことができた。 ・一から三語文の表現を聞いたり読んだりして、それに合った行動をすることができた。	・身近な物や動作を表す言葉を覚え、自ら進んで聞いたり伝えたりすることができた。 ・自分から物の特徴や状況を伝えようとすることができた。

イ 評価に際してどのような姿を基に評価したのか

(ア) 知識・技能に関する児童の評価

「身近な物の名前や、動作語などを聞いて、何を表しているか理解することができる。」

教員が児童に、身近な食べ物などイラストを見せて名称を答えることができるか、動作を表す言葉では「○○している」と答えることができるか、他にも色と物など正しく答えることができるかを評価した。

結果、ほとんどの児童が答えることができた。言葉で伝えるのが苦手な児童には、選択できるカードを用意し、答えられるようにした。

言葉の不明瞭な児童1名については、平仮名にすると一文字ずつ読むことができるので、イラストと文字を併用し、他の児童と同じ活動ができるよう配慮した。

(イ) 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

「身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句を結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしている。」

「簡単な説明や指示を聞き、その内容に応じた行動をしている。」

教員や他の児童の説明や指示を聞く、説明や指示に関する文章を読むことで、一部教員の支援を受けることがあっても、内容に沿った正しいものを選ぶことができたか、正しい行動をとることができたかを評価した。

授業の回数を重ねることで児童が自信をもち、説明や指示を相手に伝える声の大きさや内容の明確さも適切になり、徐々に児童同士でできることが増えた。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

「言葉がもつよさを感じるとともに、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。」

授業の回数を重ねていくうちに、教員から答えを引き出すための問い合わせがなくとも、児童自ら名称や色名、大小、動作を表す言葉などで、物や状況を伝えようする事が多くなった。また、大型ディスプレイに他児童の回答や行動の様子を映すことで、あらためて他児童の回答が正しいかどうか確認するなど、他児童がどのような物や動作を表す言葉を答えたか等に関心を示すことができた。

本単元以外の場面で、「○○先生が帽子をかぶっている。」など、授業で学んだことを活かした発言をしている児童もあり、授業で身に付けた力を他の場面で活用している様子が見られた。

## ウ 授業者による実践の振り返り

### (ア) 単元目標に関する成果と課題

#### ＜成果＞

三つの柱に基づく目標の設定により何を目指すのか、どんな力を付けたいのかが明確にまた客観的になり、題材や設定の工夫につながった。

単元としてひとまとめになっている学習計画では、児童がどのような姿が見られる学習内容にするのか見通しがもちにくく目標の妥当性が課題となっていた。学習指導要領に準拠した学習状況の実態把握を確実に行うことを基本としながら、単元の期間や回数などが適切に計画されているかの検討を行った。また観点別に児童の具体的な学びの姿を予測し具体的な評価基準を設定していくことなどから目標の妥当性を高めていくことができた。授業者だけでなく学年の教員が一定の期間で評価を共有することで目標自体の見直し、改善がなされ、授業の改善につながった。

#### ＜課題＞

学習評価から授業改善に向けていくために学習内容の1段階、2段階が中心となっている児童が、具体的な学習内容を踏まえ、「できた」「わかった」ことが実感でき何を目指しているのかわかるように示すことが必要である。題材や教材の工夫により児童自身が明確な目標設定を持ち、学びに向かうことができるようより具体的な授業の工夫につなげていきたい。

### (イ) 学習評価に関する成果と課題

#### ＜成果＞

3観点による学習評価により評価の視点が分析的になり授業や指導を具体的に改善することができた。教員間で評価を協議し共有しやすくなり質の高い授業分析、改善事項の抽出、工夫につながった。

また「単元の学習計画」の中で、一定の段階で評価すること、授業ごと3観点のどこに重点を置くかを確認しながら進めることで継続的な学習評価、指導にもつながった。

本校では学習グループ内を数人ごとに分け評価基準を設定した。そのことでどのようにできたか、どのような手立てが必要か、次に進み始めているかなど同じ場面の中で丁寧に分析し、次につながる工夫を明確にすることことができた。

#### ＜課題＞

3つの観点を明確に踏まえた評価が授業改善を具体的にしていくと考えられる。3つの観点を丁寧に読み取り分析するために、特にどんな様子が主体的に学習に取り組む態度につながるのかを踏まえて評価基準を作成することが必要である。何を学ぼうとしているのかがわかり自ら学びに向かっていく姿を丁寧に見取り評価できるようにしていきたい。

(執筆担当：協力機関E校)

## ⑥実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

この事例の実態把握では、太田ステージを用いてアセスメントを行い、個別の教育支援計画や個別の指導計画に記述し、障害の状態が分かるようにしている。また、児童の実態として、日常会話も多く、簡単な指示を聞いて行動できことが多いが、場面に合わせて適切な言葉で伝えることに難しさがあることと、アセスメントを基に、この学習集団の取り扱う国語科の内容としては、小学部2段階が適切であると判断されている。

具体的に取り扱う内容は、知識及び技能では、第1段階のア(ウ)、思考力、判断力、表現力等では、Aアである。

題材については、身近な題材を取り扱って、児童が親しみやすい活動を設定している。

### イ 考察

この事例では、単元目標と評価規準の設定方法は、参考資料(文部科学省, 2020)で示されている、内容のまとめごとの評価規準の設定を行っている。しかしながら、評価を行う際には、更にA～Cのレベルに分け、児童毎にそれぞれのレベルで評価するという工夫をおこなっている。

学習指導要領の内容をそのまま評価規準にした場合、採用した題材の中で、どのような姿が見えたときに、評価規準に設定した学習成果が得られたとするのかについて、判断に幅が出やすい。しかし、この事例では、題材に沿った具体的な内容でレベルを分け、学習活動では、それぞれの児童でどのレベルを適用するのかを意識した上で、学習評価では文章で評価するという工夫を行った。このように観点別の目標と評価規準の設定と、その規準での学習評価を判断するために、レベル設定をしたことで、教師間の共通認識につながったことが成果で述べられている。一方で、主体的に学習に取り組む態度の評価規準の設定には、どのような姿が目指されるかを、レベル分けする方法としては、興味関心を軸としたが、その妥当性等を踏まえて検討する必要が述べられている。

(執筆担当者：横尾 俊)

(3) 国語科で、取り扱う内容の段階が一つの集団で共通の評価規準を設定し、想定される学習状況を記述した評価レベルを設定して学習評価をした事例

① 教科と単元名

国語 「なにをしているかな？～文をつくろう～」

② 学級（グループ）の実態

中学部2年生で、太田 Stage 評価Ⅱ～Ⅲ-1 の段階の生徒6名のグループである。日常的によく使う名詞や動作語は理解しており、簡単な指示に応じて行動することができる。また、簡単な会話ができる生徒が3名、他の3名は相手の手を取って要求を伝えたり、身振りで出来事や気持ちを伝えたりする。

文字の読み書きについては、平仮名五十音を概ね読める生徒が2名、4～5文字程度の身近な単語を読んだり、選んだりすることができる生徒が3名、言葉を聞いて単語を選ぶことができる生徒が1名である。また、簡単な文を書くことができる生徒が1名、身近な物の単語を書くことができる生徒が1名、他の4名は視写やなぞり書きに取り組んでいる。

そのほか、設定された役割や活動を介して、生徒同士の関わりややりとりがみられる。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

日常のやりとりの様子から使用頻度の高い言葉は理解しているが、動作や様子を表す言葉などの語彙をさらに増やしたいと考えた。また、単語だけでなく、二語で伝えることができるようになることで、表現の幅が広がり、コミュニケーションの楽しさやより多くのことが伝わるうれしさなどを味わってほしいと考えた。

イ 単元目標

○ものの名前や動作語が分かり、基本文型に当てはめることができる。

【知識及び技能】

○単語カードを選び、組み合わせて二語で表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○絵・写真カードや身の回りの出来事を二語で伝えようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
評価基準		○物の名前や動作語が分かり、基本文型に当てはめる。	○絵や写真を見て単語カードを選び、組み合わせて二語で表現する。	○絵・写真の内容や身の回りの出来事を二語で伝えようとしている。
	A	○物の名前と動作語から一枚ずつカードを選び、正しく文を作ることができたか。	○絵や写真を見て単語カードを組み合わせ、何をしているのかを表現することができたか。	○絵・写真の内容や身の回りの出来事を進んで二語で伝えようとしていたか。
	B	○物の名前と動作に着目して、正しい単語カードを一枚ずつ選ぶことができたか。	○絵や写真を見て、何をしているのかを考え、単語カードを組み合わせて文を作ることができたか。	○絵・写真を見て、話したり身振りをしたりして二語で伝えようとしていたか。
	C	○物の名前と動作を関連付けて、合う動作語のカードを選ぶことができたか。	○絵や写真を見て、カードと文型の枠の色をヒントに文を作ることができたか。	○絵・写真を見て、文字カードを選び、文を作ろうとしていたか。

単元に関する実態	生徒①	生徒②	生徒③	生徒④	生徒⑤	生徒⑥
	発語なし 具体物で要求を伝える	発語なし 視線や指差しで要求を伝える	簡単な会話ができる	不明瞭だが簡単な会話ができる	簡単な会話ができる	囁語 身振りで要求や出来事を伝える
	○	○	○	○	○	○
	自分に関係あるものは分かる 動物など△	○	○	○	○	○
	イラストや身振りなど支援必要	日常的な動作は ○	日常的な動作は ○	日常的な動作は ○	日常的な動作は ○	日常的な動作は ○
	平仮名○	×	平仮名○	平仮名○	平仮名半分程度	平仮名概ね○
	○	なぞり書き	清音以外は自信がなく、誤りあり	なぞり書き	平仮名半分程度	×
	その他		学習には意欲的	日常五十音表を使用してコミュニケーション文字表現を誤ることがある。	学習には意欲的	参観者などいつも違う状況で集中できないことがある。

	単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができることができる。</li> <li>○絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。</li> <li>○何をしているところかの文を作ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができることができる。</li> <li>○絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。</li> <li>○何をしているところかの文を作ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物の名前や動作と単語カードを対応させることができる。</li> <li>○絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。</li> <li>○何をしているところか、言ったり、文を作ろうとしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物の名前や動作と単語カードを対応させることができる。</li> <li>○絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。</li> <li>○何をしているところか、言ったり、文を作ろうとしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができることができる。</li> <li>○絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。</li> <li>○身振りや単語カードを使って、表現しようとする。</li> </ul>
	手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選ぶができるようには、選択肢を減らして提示する。</li> <li>○単語の意味をイメージしやすいように、単語カードにはシンボルを入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選ぶができるようには、選択肢を減らして提示する。</li> <li>○単語の意味をイメージしやすいように、単語カードにはシンボルを入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カードを読んで動作で表現したり、絵や写真を見て話したりする場を多く設ける。</li> <li>○読み間違えがあるときは、一文字ずつゆっくり読んだり、正解を提示したりして確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ジェスチャーや絵、写真に注目して合う単語カードを選べるよう、言葉かけをする。</li> <li>○読み間違えがあるときは、一文字ずつゆっくり読んだり、正解を提示したりして確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単語の意味をイメージしやすいように、単語カードにはシンボルを入れる。</li> <li>○場面について、話すことができたときに称賛し、一緒に単語カードを使って文を作り、しっかりと読む。</li> </ul>

#### ④ 単元の授業計画及び評価計画

次	月日	主な学習活動	評価の観点			評価方法
			知・技	思・判・表	主	
一	11/4 11/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これはなんだろうクイズ（身近な物の名前）</li> <li>・ジェスチャーゲーム（動作語）</li> <li>・文を作ろう（教室編）</li> <li>「は を みがく」</li> <li>「ほん を よむ」など</li> </ul>	◎	○	○	<p>&lt;実技&gt;  <b>【知識・技能】</b>          絵や写真を見て、正しい名詞と動詞の単語カードを選ぶことができたか。</p>

二	11/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これはなんだろうクイズ (身近な物の名前)</li> <li>・ジェスチャーゲーム (動作語)</li> <li>・文を作ろう(教室編) 「は を みがく」 「ほん を よむ」など</li> </ul>	◎	○	○	<p>&lt;実技&gt;</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>絵や写真を見て、合う名詞と動作語のカードを選び、組み合わせて文を作ることができたか。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>動作やイラストを見て、何をどうしているのかを二語で伝えることができたか。</p>
	11/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これはなんだろうクイズ (身近な物の名前)</li> <li>・ジェスチャーゲーム (動作語)</li> <li>・文を作ろう (家・リビング編) 「てれび を みる」 「てーぶる を ふく」 など</li> </ul>				
三	12/ 1 12/ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これはなんだろうクイズ (身近な物の名前)</li> <li>・ジェスチャーゲーム (動作語)</li> <li>・文を作ろう (家・リビング編) 「てれび を みる」 「てーぶる を ふく」など</li> </ul>	○	◎	◎	
四	12/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なにをしているかな? まとめ</li> <li>・ジェスチャークイズ</li> <li>・文を作ろう (教室&amp;家編)</li> </ul>	○	◎	◎	<p>&lt;実技&gt;</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>文を読んで、合うイラストを選んだり、合う動作をしたりすることができたか。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>動作やイラストを見て、何をどうしているのかを二語で伝えることができたか。</p>

## ⑤ 学習評価

単元の観点別学習状況の評価（振り返りシートより）

生徒	評価規準		評価	特記事項
①	知・技	物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができる。	○	名詞にはシンボル、動作語には絵を添えたことで、カードをよく見て対応させることができた。 濁音の入った言葉は△
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	○	単語カードにシンボルを添えたことで、複数枚のカードから正しいカードを選んで組みあわせて文を作ることができた。
	主	何をしているところかの文を作ろうとする。	◎	
②	知・技	物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができる。	○	名詞にはシンボル、動作語には絵を添えたことで、カードをよく見て対応させることができた。
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	○	選択肢のカードは2~3枚にした。
	主	何をしているところかの文を作ろうとする。	◎	単語カードにシンボルがあることで、よくカードを見て意欲的に作ろうとしていた。
③	知・技	物の名前や動作と単語カードを対応させることができる。	◎	カードの文字を1文字ずつ指しながら読み、合う物と対応させることができた。 動作語カードを読んで、ジェスチャーで表現することができた。
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	◎	迷った際は、シンボルを手掛かりにして、正しい文を作ることができた。
	主	何をしているところか、言ったり文を作ろうとしたりする。	◎	意欲的に活動に取り組んでいた。
④	知・技	物の名前や動作と単語カードを対応させることができる。	◎	文字を読んで合う物や動作と対応させることができた。
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	◎	複数枚の単語カードから絵に合うカードを選んで文を作ることができた。
	主	何をしているところか、言ったり文を作ろうとしたりする。	◎	単語カードを1枚ずつ読みながら文を作ることができていた
⑤	知・技	物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができる。	◎	単語カードにシンボルを添えたことで、意欲的に取り組むことができた。動作語を聞いてジェスチャーをすることができ

				た。
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	○	話すことは◎、単語カードを選ぶ際には、シンボルを手掛かりにして正しいカードを選べるよう支援し、正解したら一緒に読むようにする。
	主	何をしているところか、言ったり文を作ろうとしたりする。	◎	絵や写真を見て、何をしているところか進んで話すことができた。
⑥	知・技	物の名前や動作と文字+絵カードを対応させることができる。	○	名詞にはシンボル、動作語には絵を添えたことで、カードをよく見て対応させることができた。 濁音のある言葉は△
	思・判・表	絵・写真に合う単語カードを選び、二語を使って文を作ることができる。	○	シンボルの手掛かりがある方が正しく文を作れる。選択する単語カードは2~3枚にした。
	主	何をしているところか、言ったり文を作ろうとしたりする。	◎	文を読んで、身近な物を指差す+身振りで表現するようになった。

◎：十分達成 ○：概ね達成 △：努力を要する

#### ア 知識・技能に関する生徒の評価

- 教室にある物の名前の単語カード（平仮名+シンボル）を見て、教室内を探し、合う物に単語カードを貼ることができた。

のり　　はさみ　　ごみばこ  
ほうき　　ちりとり　　どあ  
えんぴつ　　ぞうきん　　など



- 教師や友達のジェスチャーを見てジェスチャーが示す単語カード（文字+絵）を選ぶことができた。

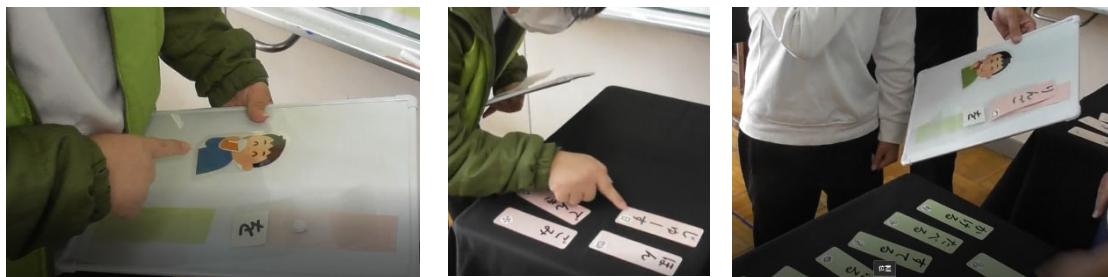
かく　　のむ　　よむ  
みがく　　ひろう　　など



【解答ボード】

- 単語カードを読んで、単語カードが示す動作をすることができた。

- ・絵や写真を見て、対象や動作の単語カード（平仮名＋絵）を選んで文のホルダーに入れることができた。



#### イ 思考・判断・表現に関する生徒の評価

- ・写真やイラストを見て、複数のカードから対象となる物の名前と動作のカードを1枚ずつ選び、組み合わせて文を作ることができた。
- ・作った文を読んで、具体物を用いて文に合う動作を行うことができた。



#### ウ 主体的に学習に取り組む態度に関する生徒の評価

- ・絵や写真を見て日常の場面を想起しながら単語カードを選び、組み合わせて文を作ろうとしていた。
- ・絵や写真を見て、教師に何をしているところかを話したり、具体物を指さす+身振りをしたりして伝えようとしていた。



## エ 授業者による実践の振り返り

### (ア) 単元目標に関する成果と課題

本単元では、特別支援学校学習指導要領中学部の国語科1段階の目標である、「身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと（知・技ア－（ア））」「話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める（思・判・表A－イ）」「文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと（思・判・表B－ウ）」をもとに単元目標を設定した。また、単元目標については、単元で行う活動内容も踏まえ、具体的な目標を設定した。単元の目標を具体的に設定したことでの、文字や言葉の理解など、個々の生徒の実態把握を丁寧に行うことにつながったり、本単元で生徒に身に付けさせたい力や取り扱う内容について、教員がより明確に意識したりすることができた。

一方で、単元目標が生徒に合っているかどうかが課題となった。生徒の実態に応じた単元目標の設定については、学習指導要領の目標・内容の確認や個々の生徒の実態把握、単元の学習内容や学習活動に加え、個々の生徒に対する教員の指導・支援も踏まえて設定することが必要であると考えられた。

### (イ) 学習評価に関する成果と課題

児童に身に付けたい力を明確にし、単元の評価規準（基準）及び個々の生徒の実態をもとに、個別の評価規準を設定することで具体的な評価ができた。また、単元の評価計画を事前に作成することで、どの観点を主に評価していくかを明確にすることができた。さらに、振り返りシートを使った評価により、単元目標に対する個々の生徒の評価を行うだけでなく、単元を通した生徒の学習の様子や実態について文章で書き残すことでの、生徒の実態把握が深まったり、目標や内容を見直す機会にもなったりした。一方で、観点別学習状況の評価については、教員間で見取りの違いが挙げられた。今後は評価の妥当性を高めていく工夫が必要と考えられた。

（執筆担当：協力機関B校）

## ⑤ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

本単元は、身の回りの言葉や文字表記を理解してきた生徒が、動作語を使って文を作る学習を通して、より表現の幅を広げられるようになることをねらいとした単元であった。単元目標については、単元で取り扱う国語科の目標や内容を整理し、取り扱う内容に関わる生徒の実態把握を丁寧に行ったうえで設定されていた。また、単元の活動として、教室や家の中など、生徒の生活場面や身近な場面から、物の名前や動作語を確認し、

単語カードを組み合わせて、絵や写真に合う文を作る活動を計画していたため、単元目標については、これらの学習内容や学習活動を想定しながら、より具体的な目標として設定されていた。

評価については、単元全体の評価規準と評価基準を設定するとともに、単元の評価計画を事前に作成し、授業ごとに主な評価の観点を明確にしていた。また、観点別学習状況の評価の実施については、個々の生徒の評価を◎や○といった評価に加え、特記事項として、単元に関わる生徒の実態や、次の学習につながるような生徒の様子などを文章により記録されていた。

#### イ 考察

本単元では特別支援学校学習指導要領中学部の国語科1段階の目標・内容をもとに目標設定や活動内容が設定された。しかしながら、文字の理解や言葉を使ったやりとりなど、生徒の実態は多様であった。そのため、実態差のある生徒の集団であることを踏まえ、取り扱う内容に関する生徒一人一人の実態把握が丁寧に行われていた。また、単元目標については、単元を通した生徒の達成状況や、個々の生徒の学習内容や学習活動を想定することで、より具体的に設定されていた。これにより、単元における教員の支援の手立てについても明確にすることが可能になったと考えられる。

学習評価の実施についても、生徒一人一人の実態把握に基づき、単元計画段階から評価計画が作成されていた。評価計画では、毎時間の授業評価は実施していないものの、各授業において、主な評価の観点が明確にされていたことから、単元が進む中で、授業の目標が生徒の実態に合っているのかという課題が挙げられた。その際、生徒の実態と単元目標の整合性のみに焦点が当たるのではなく、学習内容や教員の支援の手立てなど、指導の改善が図られた。本単元では、単元計画段階で、個々の生徒の実態把握や個々の生徒の個別の目標及び評価について明確にされていたことから、単に単元目標の設定や児童の実態に関わる改善のみが挙げられるのではなく、学習内容や教員の支援の手立てといった指導の評価が適切に行われ、指導を改善していくことにつながったと考えられる。

(執筆担当者：平沼源志)

(4) 算数科で、取り扱う内容の段階が一つの集団で共通の評価規準を設定し、A B Cの評語で評価レベルを分けて学習評価した事例

① 教科と単元名

算数 数えてみよう 1 2 3

② グループの実態

発達段階が近く似たような学習課題に取り組んでいる児童6人が集まったグループで学習をしている。普段の学級とは異なるグループで、国語・算数の時間のみ集まる学習グループである。

対象グループは「いちごグループ」という名称で、在籍する児童は、太田ステージⅡ～Ⅲ-1の児童が集まっており、実態に幅のあるグループである。行動面では、集団参加が難しかったり、離席が多かったりと学習以外にも課題がある児童もいる。学習面では、数量理解の進んでいる児童がほとんどだが、マッチングをしている児童もいて、学習課題も児童によって様々である。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

算数の個別の指導を行う中で、児童の学習状況の実態把握を行い、集団で学習すべき目標を定めた上で、単元で行う活動を設定した。

1から3までの数量、個数と数字同士を対応させることができること、数量の違いが分かることをねらい、具体物に働きかけることで結果が分かるもの、ゲームの形を設定し楽しい雰囲気を作れるものとして、「いくつかな？ゲーム」の単元を組み立てた。また、数量を見た目で分かる設定から個数、数字と授業の中心が進んでいくように単元を構成した。対象が変わっても数量を数えられるようにいろいろな対象や活動で設定した。

イ 単元目標

単元目標は、3観点ごとに学習指導要領の算数の数と計算に関する内容と関連づけて以下のように設定した。

学年・グループ	小学部2年・いちごグループ	児童生徒数	6名
各教科等名 算数	単元（題材名） 雪合戦をしよう！		
単元目標			
知識及び技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等	
1, 2, 3の数量の違いが分かる。	数字と数量、または数量同士を対応させることができる。	自分から声を出したり指をさしたりして、数量を確認し、数えることができる。	

本単元に関する学習指導要領の内容・段階		
算数：小学部1段階 B 数と計算(ア)エ D 測定ア	算数：小学部1段階 B 数と計算ア D 測定ア	※小学部1段階の目標に準じる

#### ウ 単元の評価計画

単元の評価計画では、評価規準を単元目標と関連づけ、より具体的な内容に落とし込んだ上で設定している。評価基準をA B Cとしているが、これは本グループ在籍児童の段階が主にはこの3つの基準で設定できる内容として示されている。各児童の学習状況の評価を行う際はこの3つの基準から「どのようにできたか」を丁寧に見取っていく。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	見本と見比べたり、数字と対応させたりして、1, 2, 3の数量の違いが分かる。	1～3のドットをドット同士対応させることができ。1～3の数字とドットやマグネットを対応させることができる。	ドットの数を、声に出したり指をさしたりして数えることができる。
評価基準	A 数字を見て、1, 2, 3の量を、正しく取り出すことができる。	数字を見て、1, 2, 3の量を、正しく取り出すことができる。数字を見て、同じ数のマグネットを取り出すことができる。	マグネットを取り出しながら、声に出して数を数えることができる。
	B 見本と数字カードを見比べて、1, 2, 3の量の違いが分かる。	数字を見て、同じ数量のカードを選ぶことができる。	自分で指差しをし、教員と一緒に声を出して、数量を数えることができる。
	C 見本と数量カードを重ね、量が同じであることが分かる。	ドットと同じ数のカードを選ぶことができる。	教員と一緒に指をさし、声に出して、数量を数えることができる。

## エ 授業計画

3までの数量同士のマッチングから数字と数量、5までの数字へと段階的に展開できるよう計画した。また「知識・技能」に重点を置いた授業から「思考・表現・判断」に重点を移していくよう展開し、「主体的に学習に取り組む態度」へと繋がるよう計画した。

時	学習内容	評価の観点		
		知・技	思・表・判	主
1～2	いくつかな？ゲーム（3までの数量同士のマッチング）	◎		○
3～6	いくつかな？ゲーム（3までの数字と数量のマッチング） ボーリング（3までの数）		◎	○
7～9	いくつかな？ゲーム（3～5までの数字と数量のマッチング） ボーリング（3～5までの数）		◎	○
9～12	いくつかな？ゲーム（3～5までの数字と数量のマッチング） 雪合戦をしよう（3～5までの数）		◎	◎

## 授業評価シート

対象児童の目標		
・カードに描かれた物の数を数え、1～3に分類することができる。		
評価規準		
知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数字を見て、同じ数量のカードを選ぶことができる。	見本と数字カードを見比べて、1, 2, 3の量の違いが分かる。	自分で指さしをし、教員と一緒に声を出して、数量を数えることができる。

授業展開

	活動内容	教師の指導・支援及び配慮事項	評価方法
10分	始まりの挨拶・予定の確認 ①手遊び「メロンパン」 • 1～6の数量(具体物)を歌に合わせて確認する。	●数を確認しながら、ゆっくり行う。	⇒教員に注目する。 ⇒数量を確認している。
10分	②いくつかな?ゲーム • 1～3の数量を分類する。 • 1～7の数量を数えて、数字カードと対応させる。	●実態に応じて、マッチングのカードや、数量のカード、マグネットの3種類の課題を用意する。	⇒1～7の数量を数えることができる。 ⇒カードやマグネットを1～3に分類することができる。
15分	③雪合戦をしよう! <個人戦> • 倒した雪だるまの数を数え、同じ数の数字カードを選ぶことができる。 • 倒した雪だるまと同じ数のマグネットを取り出すことができる。 <チーム戦> • 2チームに分かれ、1人3球ずつ、大きな雪だるまにボールを投げる。 • 当たったボールを数え、多い方(勝った方)を選ぶことができる。	●枠を用意し、数量を分かりやすくする。  ●チームごとに筒を用意し、量の違いを分かりやすくする。	⇒ピンの数を数えることができる。 ⇒数量と同じ数字カードを選択できる。  ⇒多い方を選ぶことができる。
10分	④絵本 • 仕掛け絵本に注目する。 振り返り・終わりの挨拶	●児童が好きな題材で読み聞かせを行う。	⇒絵本に注目している。

## 才 学習評価

学習評価（目標の達成状況）		
知識・技能	思考・表現・判断	学びに向かう力
ドット同士や具体物の個数のマッチング、数字と具体物、数字とマグネットの取り出しなど、教員の言葉かけを手掛けかりに違いを見て確認していた。	ドット同士のマッチングをしたり、数字を見てマグネットの取り出しや具体物が書かれたカードを対応したりすることができた。数量を見て数字を答えることも概ねできた。	複数の具体物が書かれたカードやマグネットを見て、自分から指をさしたり、声に出したりしながら数を確認していた。日常生活でも数える経験が増えた。
指導評価		
学習内容・目標設定	指導・支援の手立て	時数、授業形態等
学習内容は、児童の興味関心に合っていて適していた。内容を「数」に絞って行い、数量、数詞、数字、指文字など様々な視点から取り組んだことにより、段階的で確実に理解を深めることができた。具体物などを自分で数えながら行ったり、マッチングさせたりすることができますため、目標も概ね達成できた。目標も妥当性があつた。	同じねらいでも方法を変えながら取り組んだことで、確実にできることが増えた。児童によって教材や手立てを変えたことで、それぞれの児童に内容が合っていた。 数量の理解を分析的にとらえて、どこから始めるのが妥当か確認しながらやると更によかった。	個別にそれぞれの実態に合わせた内容と集団でできる活動が合わさっていて、授業形態として適していた。待っている人も声に出して数を確認できる内容でよかったです。待ちが多くなってしまう時間があるので、判定員など役割があると更に良かった。
学習評価を見据えた取組の成果と課題		
<p>回を重ねるうちに、数を見比べる力や、声にして数唱する機会が増えて、確実に理解が深まっていた。「3～5」「数える」など基本とするところは変わらないがその中で題材を変えたり、違う視点から数えてみたりすることで確実にできることを増やしていく、それぞれの自信につながっているように見えた。</p> <p>対象児に限らず、それぞれの児童が日常生活において、クラスの子どもの人数を数えたり、給食の品数を数えたり、階段の段数を数えたりと数に着目する機会が増えていく。今まで模様だった数字が少しずつ意味のあるものだと理解し始めている様子が見られて、「生きる力」につながっている。</p>		

実態に幅があり、中には学習内容が簡単で飽きにつながってしまうことが課題である。数を増やすだけではなく、時間設定、配分、内容など工夫できるところを改善していく必要がある。

#### ④ 学習評価

##### ア 知識・技能に関する評価

- ・倒した雪だるまを数え、枠の中に一つずつ入れることができたかどうか。
- ・1, 2, 3の枠の大きさが同じか違うかがわかるかどうか。
- ・数字カードを見て数を言うことやマグネットを取り出すことができたかどうか。

評価基準Cでは、雪だるまを入れた枠が埋まることにより個数を数量として捉え、同じ、ちがうがわかるとした。また「同じかなゲーム」では、見本ドットカードと同じ数の透明板数量カードを重ねることができるとした。評価基準Bでは、見本ドットカードと数字カードを見比べて数が同じ、違うがわかるとした。

##### イ 思考・判断・表現に関する評価

- ・倒した雪だるまの数に合わせて数字カードを貼ることができたかどうか。倒した数を発表することができたかどうか。
- ・数字を見て正しい具体物の数を取り出し数字と並べることができたかどうか。

評価基準Cでは、見本(ドットカード)の上に具体物を正しく重ねることとした。評価基準Bでは、数字と同じ数量を表したイラストカードを選べることとした。

##### ウ 主体的に学習に取り組む態度に関する評価

- ・声に出して数量を数えたり、ものが変わっても倒したり当たりした数を数字と対応させることができたかどうか。

##### イ 授業者による実践の振り返り

###### (ア) 単元目標に関する成果と課題

単元目標を3観点に整理し単元の評価規準に結び付けたことで、その後の活動目標が具体的になり活動の質の向上につながっている。目標を立てる際の見通しの難しさはあるものの、概ね達成しつつある状況を見ると、立て方としても妥当だったと考えられる。

実態差のある集団のため、一定の期間のまとまりをもたせた単元の目標を立てる際、見通しを持ちにくく、おおまか目標になりがちである。児童の実態を丁寧に捉え、実態の幅、一定期間それらを適切に捉えた具体性のある目標を立てていけるようにしたい。

###### (イ) 学習評価に関する成果と課題

個々に評価規準を設定したことにより、個々に応じた適切な学習評価を行うことができる。個々の評価規準では知識・技能と思考・判断・表現の観点から具体的に設定する

ことができ、評価が具体的になることで授業改善に生かすことができている。

身に付けた知識・技能をどのように活用し表現し、課題を解決していくか、2つの観点を結び付けて評価する視点を持つことで、更に「実際的な生活場面」での様子に繋げ指導していく取組となっている。

学ぼうとしている、自ら学びに向かおうとしている姿を、どのような行動や態度で見取っていくか、また想定しなかったような行動がみられることがあり、主体的に学習に取り組む態度を評価し、授業を更に適切な方向へ改善していく大切さを感じている。

継続的、段階的に指導、学習評価を行う必要があるが、指導計画の中で、学習の適切な場面などどの段階で評価し、場面ごと3観点のどこに重点を置くかの視点がまだ不十分である。計画の中で学習評価をさらに具体的にすることが課題である。

(執筆担当：協力機関E校)

## ⑤ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

この事例での児童の実態把握では、太田ステージを用いてアセスメントを行い、個別の教育支援計画や個別の指導計画に記述し、障害の状況が分かるようにしている。

学習状況の実態把握については、個別の指導計画等に記述はしていないが、学習活動において、集団学習を行うと同時に、個別学習にも取り組み、その際の担当教師が児童の様子から、学習上の実態把握を行い授業担当者に伝えている。

#### (イ) 学習指導要領と関連させた評価規準の設定

本実践では、算数科の単元のうち、知識・技能ではB 数と計算(ア)エ、D 測定ア、思考力・判断力・表現力では、B 数と計算ア、D 測定アの内容に準拠し、指導内容の具体化が図りやすいような目標を3観点で設定し単元を作成している。例えば、目標で、「1, 2, 3の数量の違いが分かる。」といった目標に対応する評価としては、「見本と見比べたり、数字と対応させたりして、1, 2, 3の数量の違いが分かる。」と具体的な目標をより評価しやすいように記述を変更している。

また、評価規準に対して、それが達成されているかについて、A、B、Cの3段階で判断のよりどころとなるレベルを設定している。

### イ 考察

この事例は、教科別の指導を中心としながら、学習指導要領と関連づけた学習内容をどのように設定するべきかを学校研究として検討してきた学校である。一方で、単元を単位としたPDCAサイクルに取り組むのは今年度が初めてということもあり、単元作成

と実践は試行錯誤しながら取り組んでいただいた。

文部科学省(2020)の特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料の単元作成の中では、内容のまとまりごとの評価規準の設定が手順として示されている。しかしながら、実態差がある児童生徒の学習活動において、内容に記述されている項目そのものだけを使用した場合には、どのような様子の場合に、目標が達成できたのかの判断が曖昧になってしまふ可能性がある。そのため、高島特別支援学校では、学習指導要領の内容に記述された項目を、対象となる児童の実態に合うように改変し、指導目標に達したときに児童が見せる行動を具体的に想定できるような工夫を行った。

このように、単元単体で取組をみた場合、そこで工夫すべき点等が明確になるが、知的障害のある児童生徒の特性を踏まえると、対象とする教科内容がその時点で達成できたとしても、その後にしっかりと定着ができたのか、他の場面で応用できたのかなどの確認が必要となる。学習評価の課題として挙げられた、「継続的、段階的に指導、学習評価を行う必要があるが、指導計画の中で、学習の適切な場面など、どの段階で評価し、場面ごと3観点のどこに重点を置くか」についても今後も検討が期待される。

(執筆担当者：横尾 俊・岩附 敦史)

(5) 社会科で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し、個別に指導目標を立て学習評価をした事例

① 教科と単元名

社会科「日本について学ぼう」

② グループの実態

高等部2年Ⅱグループは、男子6名、女子3名の計9名で構成されている。集団行動面は、教師の一斉指示により学習に取り組むことができる生徒やワークシートなどを用いて学習の進度を確認しながら取り組む生徒、個別に支援を要する生徒などがいる。また、発言に際しては、自発的に挙手し発表する生徒や教師から言葉をかけられ発表する生徒、教師と発言内容を確認してから発表する生徒などがいる。情緒面では、比較的安定した実態であるが、見通しがもてず動きを止めてしまったり、友人関係などの理由から授業への参加が難しかったりする生徒がいる。コミュニケーション面では、教師の問いかけに正しく答えることのできる生徒や2語から3語程度の短い言葉でコミュニケーションをとる生徒、かん默であり教師がそばで言葉をかけることでコミュニケーションをとることのできる生徒など様々である。

③ 題材設定理由と目標

ア 単元設定の理由

<単元について>

本単元は、特別支援学校高等部学習指導要領社会科の目標一段階を達成するために、内容の一段階前の（ア）⑦「我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。」と⑧「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。」を受けて設定したものである。

本単元では、千葉県の隣の県である茨城県を題材に学習に取り組みたい。本学習グループでは、高等部1年までの既習事項であり日常的に生活している千葉県と新たに学ぶ茨城県とを比較しながら、茨城県の特色（自然、人口、食べ物、伝統文化など）について学ぶ。また、生徒の様子によっては、千葉県や茨城県に限らず、身近なことへの興味から他の県や日本全国にも目を向け広げていくような姿を期待したい。また、宿泊学習への期待感と合わせることでより深く理解できるよう茨城県の自然環境や人々の生活を中心とし、事前学習とする11月中旬からの生活単元学習を各クラスの中より自発的に興味関心をもって取り組むことができるようする。

<指導支援について>

上記の実態や課題、授業の様子から、まず、ワークシートで学んだ内容を振り返ることができるようにしながら、書き込む内容を精選するようにする。ワークシートには、スクリーンに映した教材と同様の写真やイラストを挿入し関連させ、授業の見通しがもちやすいようにする。また、本時で学んだことを授業の最後に振り返ることができるよう、ワークシートに「今日の授業で初めて知

ったこと」というような空欄を設け、授業の最後に自分で授業を振り返ることができるようとする。次に、自分の意見や問い合わせなどの発表では、生徒に発表の機会を一人一人に設けるようとする。自信をもって発表ができるように、生徒の実態に応じて机間指導をしながら発表する内容を事前に確認する。最後に、生徒がワークシートに記入することに時間をかけすぎないよう、生徒の発表した意見に関しては、スクリーン上に映して共有できるようとする。

ICT機器（プロジェクター、スクリーン、書画カメラなど）を活用し、興味関心のある写真や動画などの教材等に対して、意見や答えを言葉で表現できるようとする。

#### イ 単元目標

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標 (評価規準)	・写真や動画などの資料をもとに、茨城県の特色について知る。	・写真や動画などの資料から読み取った情報をもとに、茨城県の特色について考えたことを発表している。	・自分の答えや意見に自信をもち自分から手を挙げている。
教科	社会 高1段階オ(ア)⑦	社会 高1段階オ(ア)①	社会 高1段階ウ

#### ウ 評価計画

単元の評価規準は学習指導要領に則って作成した単元計画表を用いて観点別に設け、それを基に各授業の評価規準を計画する。また、個の評価基準を作成し、単元終了後に「十分満足できると判断される姿(単元終了時に目指す姿)」を○、「おおむね満足できると判断される姿(単元中盤の姿)」を○、「単元開始時の姿」を△の3段階で評価する。何が、どこまで、どのような支援があつてできたかの最終的な生徒の様子と合わせて、単元全体を評価する。

#### エ 単元計画

本単元は、全3回である。初回の導入では、前年度既習事項である千葉県についての振り返りと今回のテーマである茨城県について人口や面積、生産物等を比較しながら平行して進める。2時以降は、初回に学んだ内容を深めていく。資料を比べたり、生徒自身の生活に置き換えて考えたりする機会を設け、茨城県に興味をもてるよう計画した。

	月 日	曜	主 题	活 動 内 容	知	思	主
1 時	9/8	木	千葉県と 茨城県の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入：全国の県章の比較、由来の確認</li> <li>地図上の位置関係の確認</li> <li>人口、面積、人口密度の比較</li> <li>次時に向けて、茨城県の特産品の紹介</li> <li>新しく学んだこと知りたいことを文章でまとめる</li> </ul>	○		○
2 時	9/27	火	茨城県の特色 (自然と農業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入：前時の振り返り</li> <li>茨城県の自然環境（山、海、湖など）の確認</li> <li>特産品（メロン）を例に、生産しやすい環境を考える</li> <li>千葉県を例に同様の環境を視点に置き、メロンを生産しやすい場所を予想する</li> <li>新しく学んだこと知りたいことを文章でまとめる</li> </ul>	○	○	○
3 時	9/28	水	茨城県の特色 (人々の生活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入：前時の振り返り、茨城県の特産品の例の紹介</li> <li>茨城県の人口の多い／少ない地域の色分けをし、地域ごとの特色を確認する</li> <li>人口の多い地域（都会）と少ない地域（田舎）の特徴を知る</li> <li>住んでみたい地域を決め、理由を考える</li> <li>新しく学んだこと知りたいことを文章でまとめる</li> </ul>	○	○	○

### 本時の目標（評価規準） 「何ができるようになるか」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本時の目標 (評価規準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や動画などの資料をもとに、茨城県の人々の生活について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や動画などの資料から読み取った情報をもとに、茨城県の人々の生活について考えたことを発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の答えや意見に自信をもつて手を挙げている。</li> </ul>
教科	<p>社会</p> <p>高1段階才（ア）⑦</p>	<p>社会</p> <p>高1段階才（ア）①</p>	<p>社会</p> <p>高1段階ウ</p>

## 生徒の様子・目標（評価基準）・手立て

名前 学年 性別	単元にかかわる様子	本時の目標 評価基準（○の姿）	本時の手立て
A 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から答えを読み取ったり、教師が「〇〇と書きましょう」という言葉を聞いたりしてワークシートに書くことができる。</li> <li>突然の質問には言葉が詰まりこともある。举手を促し自信のある答えや意見については、端的に意見を伝えることができる。</li> <li>「分かる人はいますか」などと言葉をかけると積極的に手を挙げることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。（知）</li> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて発表している。（思）</li> <li>自分の意見に自信をもち、積極的に挙手をして発言することができる。（主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉だけでなく、スクリーンにも答えを映し、参考にしながら書くことができるようとする。</li> <li>グラフの変化や間違い探しの資料を中心に答えを見つけようと意欲が高まる資料を用意し、提示するようとする。</li> <li>机間指導の際、生徒の答えや意見を見て「素晴らしいですね」などと言葉をかけ、自信をもって答えられるようとする。</li> </ul>
B 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>「〇〇と書きましょう」という教師の言葉やスクリーンに映った語句をヒントに、その通りにワークシートに書くことができる。</li> <li>教師から質問をすると1語ずつゆっくりだが、質問に対する答えを言ったり、「わからないです」と言ったりする。</li> <li>前回までの内容をよく覚えており、「覚えている人はいますか」などと言葉をかけると積極的に手を挙げることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。（知）</li> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて、自分の意見を決め、発表している。（思・主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートとスクリーンに映した答えが一致しやすいように番号などで照らし合わせながら書くようとする。</li> <li>端的に意見を発表できるような写真資料を提示し、教師と意見を確認し合うようとする。</li> <li>既習事項を中心に、自分から挙手をし、発言することができるようする。</li> </ul>
E 2年 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉や提示された資料を読みとり、「〇〇と書きましょう」と言葉をかける前にワークシートに記入をすませている。</li> <li>指名をすると適切な答えを発表することができ、友だちから称賛の拍手をもらい、うれしそうにしている。</li> <li>友だちの前での発表には消極的であるが、地図を指さすなどの動作が中心の発表には挙手が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。（知）</li> <li>人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて発表している。（思）</li> <li>自分の意見に自信をもち、積極的に挙手をして発言することができる。（主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えが分かった時点でワークシートに書いても良いことを伝え、近くの教師に確認してもらうようする。</li> <li>机間指導の際に教師と答えや意見を確認するようにし、「友だちに聞いてもらいましょう」などと言葉をかけ、自信が持てるようとする。</li> <li>授業の最初に地図を使った導入を用意し、友だちの前での発表に徐々に慣れるようする。</li> </ul>

## 授業展開

時配	児童（または生徒）の活動	指導・支援上の留意点	教具/資料等
13:10 (1)	○始めの挨拶をする。	・「挨拶をしてくれる人はいますか」などと言葉をかけ、自発的に挨拶をする生徒を指名するようにする。(T 1)	
13:11 (5)	○前時の振り返りをする。 ・前時に学んだ内容を答える。 ・前時に学んだ内容に関連した資料を見て、茨城県の特色（県章、人口、花、特産物）に関して答える。 ・様子に応じてプリントで答えを確認する。	・最初はプリントを開かず、「前回何を学習したか覚えていますか」などと言葉をかけ、生徒の答えを待つようする。 ・次に、地図や写真などをスクリーンに映し、思い出せなかつた生徒に向けて、「これは何を表していますか」などと言葉をかけ、生徒の様子に応じて指名する。(T 1) ・最後にプリントを確認し、学んだ内容を復唱する。	スクリーン プロジェクター 前時のプリント
13:16 (5)	○スクリーンに映った白地図から、茨城県の市町村の位置を差して答える。 ・差し棒を使って、友だちに見やすいように答える。	発問 1 「宿泊で行く茨城県の町はどこですか。」  ・生徒に見やすいように白地図を拡大して提示する。 ・「わかる人はいますか」などと言葉をかけ挙手を促すようする。(T 1) ・正解が見てわかりやすいように、正解位置を着色して提示するようする。	評価 Bさん知 Bさん主 Eさん知 Eさん主
13:21 (10)	○スクリーンに映った写真資料を見て人口の多い地域と少ない地域について答える。 ・分かった人は挙手をし、MTに指名されたら答える。 ・分からぬ生徒は、近くにいるS Tに聞く。 ・答えをワークシートに記入する。	発問 2 「人口が多い地域はどこですか。」  ・生徒に見やすいように写真を拡大して提示する。 ・考える時間を数分作り、「わかる人はいますか」などと言葉をかけ挙手を促すようする。(T 1) ・生徒の様子を見て、「わからない人は近くの先生と相談してみましょう」などと言葉をかけるようする。(T 1) ・生徒の様子を見て、答えを導きやすいヒントを	評価 Aさん知 Aさん主

		<p>伝えるようにする。(T 2、3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の解答後、ワークシートに記入する様子を見て、場合によっては「ワークシートの○番の部分に記入しましょう」などと言葉をかけたり、指を指したりする。(T 1)</li> </ul>	
13:31 (5)	○スクリーンに映った写真資料を見て都会や田舎での生活の特徴を答える。	<p>発問3 「都会と田舎の特徴は何でしょうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に見やすいように写真を拡大して提示する。</li> <li>考える時間を数分作り、「わかる人はいますか」などと言葉をかけ挙手を促すようにする。(T 1)</li> <li>生徒の様子を見て、「わからない人は近くの先生と相談してみましょう」などと言葉をかけるようにする。(T 1)</li> <li>生徒の様子を見て、答えを導きやすいヒントを伝えるようにする。(T 2、3)</li> <li>生徒の解答後、ワークシートに記入する様子を見て、場合によっては「ワークシートの○番の部分に記入しましょう」などと言葉をかけたり、指を指したりする。(T 1, 2, 3)</li> </ul>	<p><b>評価</b></p> <p>Aさん主 Bさん主 Eさん主</p>
13:36 (8)	○スクリーンに映った写真資料を見て都会の生活と田舎での生活の違いから住みたい理由を答える。	<p>発問4 「都会と田舎、どちらに住みたいですか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導をしながら発表者を決め、記入終了後、発表者を指名するようにする。(T 1)</li> <li>生徒の様子を見て、答えを導きやすいヒントを伝えるようにする。(T 2、3)</li> <li>生徒の様子に応じて、書画カメラを利用し、スクリーンに原稿を映しながら発表できるようにする。</li> </ul>	<p><b>評価</b></p> <p>Aさん思 Bさん思 Eさん思</p>
13:44 (10)	○本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員で机間指導を行い、生徒の様子を見て「今日の授業で分かったことは何でしょうか」</li> </ul>	書画カメラ

	ワークシートに記入する。	などと言葉をかけるようにする。(T 1) ・生徒の様子を見て、T 1は発表者を決め「素晴らしい意見ですね」などと言葉をかけ、発表の際に挙手しやすいようにする。	
13:54 (5)	・本時で初めて知ったことや分かったことを発表する。 ・積極的に挙手をする。	・「答えてくれる人はいますか」などと言葉をかけ、挙手を促すようする。 ・書画カメラで生徒の答えをスクリーンに映して、発表内容を把握しやすいようにする。	書画カメラ
13:59 (1)	○終わりの挨拶をする。	・「挨拶をしてくれる人はいますか」などと言葉をかけ、自発的に挨拶をする生徒を指名するようする。	

## 教材・ワークシート

### 発問1の教材について

宿泊学習で訪問するつくば市と大洗町に色を付けた地図を提示した。

### 発問2の教材について

茨城県の市区町村境が書かれた白地図を、0～1万人、1万～5万人、5万～10万人、10万～20万人、20万人以上と人口の多少によって5色で色分けして提示した。

### 発問3の教材について

都会と田舎の特徴が示された写真を提示した。

#### 【都会の特徴を表した写真】

通勤ラッシュの様子、渋谷スクランブルの様子、交通量の多い駅前の交通状況、高層ビル群

#### 【田舎の特徴を表した写真】

田園風景、農作業の様子、かやぶき屋根の民家、2連結の単線の列車と河川の風景

### 発問4のワークシートについて

#### 【Aさん】

社会科Ⅱグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

茨城県の人口がおおい町とすくない町はどこでしょうか？

人口のおおい町  
（水戸市）  
（つくば市）  
（）

人口のすくない町  
（河内町）  
（）  
（）

人口のおおい町（都）	人口のすくない町（田舎）
・（人）がたくさん！ ・（たのもの）がたくさん！ ・（のりもの）がたくさん！	なぜですか？
どちらの町で住んでみたいですか？○をつけてみましょう。	
人口のおおい町	人口のすくない町
なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。	
①	なので住んでみたい！
②	（）
③	（）

なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。

① 少人数ですごすのが女子達なので住んでみたい！

② 運動が好きだから

③ 自分のことだけ考えられるから

社会科Ⅲグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

今日の授業ではじめて知ったことやもっと知りたいことを書いてみよう

つくば市で

#### 【Bさん】

社会科Ⅱグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

茨城県の人口がおおい町とすくない町はどこでしょうか？

人口のおおい町  
（水戸市）  
（つくば市）  
（）

人口のすくない町  
（河内町）  
（）  
（）

人口のおおい町（都）	人口のすくない町（田舎）
・（人）がたくさん！ ・（たのもの）がたくさん！ ・（のりもの）がたくさん！	なぜですか？
どちらの町で住んでみたいですか？○をつけてみましょう。	
人口のおおい町	人口のすくない町
なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。	
① たのものがいっぱいでしたのに	なので住んでみたい！
② すぐにやりきることができます	
③	

なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。

① 少人数ですごすのが女子達なので住んでみたい！

② 運動が好きだから

③ 自分のことだけ考えられるから

社会科Ⅲグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

今日の授業ではじめて知ったことやもっと知りたいことを書いてみよう

つくば市で

ヒビラルヘルムとくにをしりたりです。  
まゆうしゅうをしりたりです。

#### 【Eさん】

社会科Ⅱグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

茨城県の人口がおおい町とすくない町はどこでしょうか？

人口のおおい町  
（水戸市）  
（）  
（）

人口のすくない町  
（河内町）  
（）  
（）

人口のおおい町（都）	人口のすくない町（田舎）
・（人）がたくさん！ ・（たのもの）がたくさん！ ・（のりもの）がたくさん！	なぜですか？
どちらの町で住んでみたいですか？○をつけてみましょう。	
人口のおおい町	人口のすくない町
なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。	
① 少人数ですごすのが女子達なので住んでみたい！	なので住んでみたい！
② 運動が好きだから	
③ 自分のことだけ考えられるから	

なぜ、そう考えましたか？理由を書いてみましょう。

① 少人数ですごすのが女子達なので住んでみたい！

② 運動が好きだから

③ 自分のことだけ考えられるから

社会科Ⅲグループ 都会と田舎の特徴の違いについて知ろう！

今日の授業ではじめて知ったことやもっと知りたいことを書いてみよう

つくば市で

※授業で使用した地図は著作権の関係で表示できませんので、他の地図を記載しています。

実際は、人口数によって色分けしたものに、各市町村の名前が書かれている地図を使用しました。

#### ④ 学習評価

##### ア 単元で行った学習評価

スクリーンに映した写真資料を基に、生徒が考え発表する機会を設け、発表までの過程や、発表内容、考えたことをワークシートに記入したもの等を参考にして、授業後に教師間で共有し、評価を行った。

イ 評価に際してどのような姿を元に評価したのか

###### (ア) 知識・技能に関する児童生徒の評価

既習事項であり生徒が住んでいる千葉県と新しく学習する茨城県との違いについて、「茨城県の方が人口が少ない」「茨城県の方が広い」「特産品が違う」など、比較しながら茨城県の特色を発表する姿や、ワークシートに書いた回答から評価を行った。毎時授業の導入では、前時までの復習を行い、その回答によって知識の定着について評価を行った。

###### (イ) 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

単元計画の3時では、提示した資料をもとに、都会と田舎の暮らしの違いを考える際、「自分がその場所で生活するとしたら」という視点でそれぞれの利点を考え、「落ち着いた場所で過ごしたい」「電車が多くて便利だから」などという発言やワークシートに記入する際の思考の様子から評価を行った。

###### (ウ) 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

前時までの既習事項の振り返りや生徒の得意分野や興味関心に応じて発問を考えたことで、生徒が授業中に自分の答えに自信をもち、発問をすると即座に挙手することができた。表出が難しい生徒は、事前に教師と答えを確認したり、ワークシートに答えを書いたりすることで、発問をすると自分から手を挙げる回数や機会が増えるようになった。

授業後の協議で、学習指導要領の記載を改めて捉え直し、社会科としての視点で修正が必要であると考えた。

本時の目標（評価基準（◎の姿））は達成できたか。

評価をするための記録欄（上段は児童生徒の本時の目標（評価基準））

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
Aさん	・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。	・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて発表している。	・自分の意見に自信をもち、積極的に挙手をして発言することができる。

	<p>人口の多少を色分けした地図に教師の説明のみで着目し、市町村名を言ったり、スクリーン上の地図を指さしたりして人口の多い地域を理解している様子が見られた。また、都市部と農村部の写真を見比べ、人口の多少や仕事の違いなどに自ら気づくことができた。</p>	<p>都市部の通勤ラッシュと、農村部の農村風景の写真を見比べて、人の混み具合の違いに気付き「人混みを避けて暮らしたい」と発表していた。家の広狭や最低賃金、家賃などの補足資料を提示しても意見は変わらず、農村部ではどのくらいの人が住んでいるのか興味を示していた。</p>	<p>既習事項に対して自信をもち授業序盤から積極的に挙手をしていました。後半の自分の意見を発表する場面でも、ワークシートをいち早く書き終わり、周囲の生徒や教師に話しかけたり、手を挙げて発表したりすることができた。</p>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見に自信をもち、積極的に挙手をして発言することができる。</li> </ul>
	<p>教師が個別に言葉をかけると、人口の多少を色分けした地図の色の違いに着目し、ワークシートの地図を指をさして人口の多少を理解している様子が見られた。都市部と農村部の写真を提示すると、「農村部の写真は自然が多く」、都市部と比べて「静かに暮らしている」と気づいていた。(発問3)</p>	<p>都市部のビル群と農村部の農業の風景の写真を見比べて、「(都市部の方が)建物が多い」と発表していた。また、伝えやすいように教師が隣りにいると「(建物が多く)すぐに買い物ができる(から便利)」と自分から話すことができた。</p>	<p>序盤は周囲の様子を伺ってから挙手をする様子が見られていたが、繰り返し発表の機会をつり、認められることで自分のタイミングで挙手ができるようになった。</p>
Eさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の多い地域と少ない地域の生活の違いについて発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見に自信をもち、積極的に挙手をして発言することができる。</li> </ul>
	<p>凡例の人口に着目し、人口の多少を色分けした地図について、人口も参考にしながら、「○○市には△万人くらい住んでいる」と発言していた。また、都市部と農村部の写真を見比べ、人の混み具合に気づいていた。(資料3)</p>	<p>都市部と農村部の写真を数枚提示した中で、特に通勤ラッシュの混み具合に着目し、人数の少ない農村部に興味を示して、「少人数で暮らしたい」と発表していた。理由としては、「静かだから」「(人口が少なく)自分のことだけ考えられるから」とし、農村部の特徴をもっと知りたいという意見が出た。</p>	<p>地図に関して興味関心があり、積極的に発言していたが、終盤では、地図以外の発問にも積極的に手を挙げる様子が見られた。教師の説明がなくても、ワークシートの設問を理解し、どの生徒よりも早く取り組み始め、よく考え、自分の意見の理由も多く挙げることができた。</p>

#### <事例生徒の抽出について>

前単元での評価をもとに、社会科の実態に併せ、コミュニケーション面の実態差を網羅できるよう、以下の①～③のグループから一人ずつ取り上げた。

- ① 教師の問い合わせに正しく答えることができる生徒
- ② 2～3語程度の短い言葉でコミュニケーションがとれる生徒
- ③ 教師がそばで言葉をかけることでコミュニケーションがとれる生徒

#### <単元全体の学習評価>

単元終了後に、単元計画表(図IV-4-7)を用いて個の学習評価と単元全体の学習評価を行った。

知識・技能：既習事項であり生徒が住んでいる千葉県と新しく学習する茨城県との違いについて、「茨城県の方が人口が少ない」「茨城県の方が広い」「特産品が違う」など、比較しながら茨城県の特色を発表する姿や、自然・環境（人口の多少、山・川・湖などの地形など）、特産物（農産物、畜産物、観光など）などの資料を基に、ワークシートに回答を記入することができた生徒が多くなったことから、社会科1段階オ（ア）⑥は概ね達成したと評価した。

思考・判断・表現：3次で提示した資料をもとに、都会と田舎の暮らしの違いを考える際、「自分がその場所で生活するとしたら」という視点でそれぞれの利点を考え、「落ち着いた場所で過ごしたい」「電車が多くて便利だから」などという発言がみられたことや、ワークシートに記入する際には、「特色ある地域の人々の生活」について、知識技能で得た内容や生徒自身の生活を重ね合わせながら思考する様子から、社会科1段階オ（ア）⑦についても概ね達成したと評価した。

主体的に学習に取り組む態度：前時までの既習事項の振り返りや生徒の得意分野や興味関心に応じて発問を考え、どの生徒も発言しやすい雰囲気を作ることで、顔をあげて資料や教師に注目しながら授業に参加し自己調整する様子や、題材である「茨城県」から視野を広げ、他の都道府県へ関心を向ける様子、回を重ねるたびに自信をもって発言できる生徒が増えたこと等から達成したと評価をしたが、授業後の協議で、学習指導要領の記載を改めて捉え直し、社会科としての視点で修正が必要であると考えた。また、授業を進めていく中で、題材の目標についても、生徒の実態から中学部2段階の内容への見直しをした。

(執筆担当：協力機関C校)

## ⑤ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

C校高等部では、生徒の実態別に学年を3つのグループに分けて各教科の指導を行っている。Iグループは中学部1段階と2段階、IIグループは高等部1段階、IIIグループは高等部1段階の目標達成を目指す生徒を中心とした学習グループである。このように実態の近い集団を編成することにより、一人一人の実態に即した単元を計画することができ、生徒同士の相互作用を通じた学びが実現するものと考える。

単元目標の設定については、学習指導要領に示された目標を単元の指導内容に合わせて具体化している。例えば、知識・技能については、「写真や動画などの資料をもとに、茨城県の特色について知る」とし、茨城県を取り上げることや写真や動画を用いて理解を図ることなどを明記している。このように目標を具体化することで生徒の学ぶ姿をイメージすることができ、1時間ごとの授業目標を計画する際の助けになるのではないだろうか。

単元目標等の変更について、授業者の報告にもあるように、単元が進む中でさらに生徒の実態把握が進むことから、当然起こり得ることと考える。今回のC校の実践のように、生徒の様子から授業を振り返り、柔軟に対応することは重要なことであり、適切な授業改善につながると考える。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

C校では、具体化した単元目標と、単元目標を踏まえた本時の目標を評価規準として示し、本単元または本時で「何ができるようになるのか」の評価の指標としている。単元計画には、1時間ごとの授業においてどの観点の目標を評価するかが計画されており、予め、どの授業で何を評価するのかを明確にしておくことで、評価場面や評価方法を検討することができるを考える。

主体的に学習に取り組む態度の評価規準について、授業者の振り返りの中で、社会科の視点が必要であったことが述べられている。「粘り強い取組を行おうとしている側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の両側面を評価することが求められていることから、本時では、例えば、都会と田舎の生活の違いに関して知識を得る過程において、生徒らがすでに知っている情報とさらに知りたい情報を整理し、その調べ方を考え、自分なりに学習を進めようとしていることなどが考えられるのではないだろうか。

### イ 考察

今回の実践は、学年行事（宿泊学習）と関連させた社会科の単元であった。社会科で、宿泊学習の訪問先の地域を取り上げ、宿泊学習に向けた生活単元学習との間で学習内容を横断させた取組である。また、社会科では、1年時に学んだ地域の特色との比較も取り上げている。

知的障害がある児童生徒の場合、実際に体験したり繰り返し学んだりすることで、生活の中で活かせるようにすることが必要である。今回の実践のように、単元づくりにおいて、他の教科等や前年度の学習とつなげることで、学習内容や学び方の定着を図ることができると考える。

また、生徒らは、テレビなどを媒介にして、全国の地域や世界の国々の情報に触れる機会がある。その際、今回の授業で学んだ社会的な見方・考え方を働かせ、その地域の特色を考えたり、地域の

もつ課題に気づいたり、自分の身近な社会と関わろうとしたりすることが期待できると考える。

最後に、C校では、昨年度までに蓄積してきた授業づくりの考え方をもとに、単元目標の設定から評価までを1枚の単元計画表で確認できるよう工夫した。この単元計画表を用いることで、学習指導要領に定める目標に準拠した評価を行うことができることに加え、1枚のシートで整理できることから教員の負担を軽減する点でも大変参考になると言える。

(執筆担当者：柘植美文)

(6) 体育科で、取り扱う内容の段階が一つの集団で共通の評価規準を設定し、想定される学習状況を記述した評価レベルを設定して学習評価をした事例

① 教科と単元名

体育「めざせ さーきっとますたー」～サーキット運動 歩く・跳ぶ～

② 学級の実態

本学年は男子 14 名、女子 3 名の計 17 名で構成されている。集団や新しい場所が苦手で、一対一対応が必要な児童が 1 名、体の一部にまひがある児童が 2 名、やろうという意識はあるが、周囲のことに気を取られやすい児童が 3 名いる。新しいことやものに対して苦手意識はあるが、それ以上に「何だろう?」「やってみたい」と好奇心が上回り、行動に移すまでの時間には違いがあるものの、興味をもって取り組める学年である。

運動面においても同様に「やってみたい」という気持ちが強く、できなくても諦めずに取り組んだり、できたことにより、さらに他のことへ挑戦をしようとしたりする姿が多くみられる。体を動かすことに意欲的ではない様子が見られる児童もいるが、きっかけになる言葉をかけることで自分から体を動かすことができる児童がほとんどである。しかし、運動のときの体の動きを見ていると、走る・跳ぶ・投げる・バランスを取るなどの活動で、全体的に動きにぎこちなさがあり、滑らかな動きができているとは言いがたい。

コミュニケーション面では、教師の口頭での簡単な指示を聞いて活動できる児童がほとんどである。しかし、教師の運動種目の説明は、自己解釈で行動する児童もいるため、教師が動きの手本を示し、言葉と動きで理解を促している。手本を見たり説明を聞いたりして、その通りに行ってみようと意欲的に取り組める集団である。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

本単元は、サーキット運動に取り組むことで、体の使い方を知り、体を移動する動きやバランスを取ることなどの力を高めることをねらいとしている。

この学習は特別支援学校学習指導要領の小学部体育 1 段階 A 体つくり運動遊びの内容「ア教師と一緒に手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。」「イ手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地良さを表現すること。」「ウ簡単な合図や指示等に従って、体つくり運動遊びをしようとすること。」に基づいて設定した。

サーキット運動は、様々な動きを組み合わせて設定できることから、種目の内容やコース取り、周回数の工夫で難易度や運動強度の調整がしやすく、児童も見通しを持ちやすい。また、種目の組み合わせにより、体の基本的な動きを身に付けることと、運動を通して楽しさを味わったり、「できた」という達成感を味わったりすることができるという利点がある。サーキット運動には昨年度から取り組んでおり、個人差はあるが繰り返し取り組む

ことによってできることが増えてきている。一つ一つの動きを丁寧に繰り返し行っていくことで、どの児童も体の移動の動きやバランスの取り方を身に付けていくことができると思われる。

一学期はグラウンドでサーキット運動を展開した。主に走ることに重点を置き、つきやまダッシュ、ラダー、ケンパ、坂道ダッシュ、階段降り、ペットボトル担ぎの6種目を行った。グラウンドという環境面から、外的な刺激が多く、そちらに意識が向かってしまい、意図する活動に意識が向きにくい児童もいた。雨天時に教室で、ラダー、ケンパ、ペットボトル担ぎの3種目に絞って取り組んだところ、1種目にかけられる時間や回数、そして教師が一人の児童に向き合う時間が増え、種目によっては正しい動きの定着への兆しがみられた。また、一緒に行っている友達への教師の助言を聞いて、同じように実行する、実行しようとする児童の姿がみられ、児童自身の運動への取組に変化があった。

そこで、二学期は体を移動する動きやバランスを取る力が必要となる運動に重点を置き、【おちないでわたろう いっぽんばし（一本橋渡り）】、【わにあわせて けんぱけんぱ（ケンパ）】、【ぶつからないで でこぼこはーどる（ハードルまたぎ・くぐり）】の体の移動の動き、バランスを取る動きが必要となる運動に種目を絞って取り組むこととし、児童が好きな、短い距離のダッシュを加えた4種目でサーキット運動を構成することとした。

#### イ 単元目標と評価

##### (ア) 単元目標

- ・器具に応じた体の動かし方が分かり、歩く、跳ぶなどの動きができる。【知識及び技能】
- ・取り組むコースや器具を選び、コースや器具に応じて体の動かし方を工夫する。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・自分から繰り返し活動に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

##### (イ) 単元の評価

くめざせ さーきっとますたー>

		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
規評 準 価		器具に応じて、体のバランスを取ったり、体の移動をしたりすることができます。	取り組むコースや器具を選び、コースや器具に応じて体の動かし方を工夫している。	自分から器具で体を動かそうとする。
評 価 基 準	A	器具に応じて、体のバランスを取りながら、歩く、跳ぶ、くぐるなどの動きができる。	コースや器具の違いを意識しながら選び、体を動かす中で、体の使い方を工夫している。	課題が分かり、選んだ器具で体を動かそうとしている。
	B	器具に応じた体の動かし方が分かり、バランスを意識しながら歩く、跳ぶ、くぐるなどの動きができる。	取り組むコースや器具を選び、体を動かす中で、体の使い方を工夫しようとしている。	選んだ器具で自分から体を動かそうとしている。

	C	器具の違いによる体の動かし方が分かり、歩く、跳ぶ、くぐるなどの動きができる。	選んだコースや器具で体を動かす中で、体の使い方に気付く。	選んだ器具に最後まで取り組もうとしている。
--	---	--	------------------------------	-----------------------

<ぶつからないで でこぼこは一どる>

		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
規評 準価		バーの高さに応じてまたいだり、跳んだり、くぐったりすることができる。	選んだバーの高さに応じて、姿勢を変える工夫をしている。	
評価基準	A	バーに当たらずにまたいだり、跳んだり、くぐったりすることができる。	バーを見て、またぐかくぐるかを判断し、姿勢を調整している。	くめさせ さーきっとますたー>と共通
	B	バーの高さに応じてまたいだり、跳んだり、くぐったりすることができる。	バーをまたぐかくぐるかを判断して進んでいる。	
	C	バーをまたいだり、くぐったりすることができる。	バーに対して、体の動きを変えようとしている。	

<おちないでわたろう いっぽんばし>

		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
規評 準価		バランスを取り、橋を渡ることができる。	選んだ一本橋を移動する中で体の使い方を工夫する。	
評価基準	A	バランスを取り、足を交互に出して歩くことができる。	選んだ一本橋に応じ、足の運び方やバランスの取り方を工夫している。	めさせ さーきっとますたー>と共通
	B	橋の形に応じ、足元を見ながら歩くことができる。	取り組む一本橋を選び、バランスを取って歩こうとしている。	
	C	橋の上を歩こうとする。	選んだ一本橋で前に進もうとする。	

<わにあわせて けんぱけんぱ>

		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
規評 準価		輪の配置に応じ、跳んで移動していくことができる。	輪の配置や数の違いを意識しながら跳び方を変えていく。	
評価基準	A	輪の配置に応じて、リズミカルに跳んで進んでいる。	輪の配置や数の違いを意識して、バランスを取りながら跳び方や足の運び方を変えている。	くめさせ さーきっとますたー>と共通
	B	輪の配置に応じて、足を開いたり閉じたりして跳んで進んでいる。	輪の配置に応じて、バランスを取ろうとしながら足の開き方を変えている。	

	C	輪の上を跳んで進んでいくことができる。	輪を見て、跳んだり進んだりすることができる。	
--	---	---------------------	------------------------	--

#### ④ 単元の指導内容と評価計画

次	月日	主な学習活動	評価の観点			評価方法
			知 技	思 考 表	主 体 的	
一 次	9月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『さーきっとますたーへのみち』の内容を知る。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・種目</li> <li>・グループ分け</li> <li>・目標の確認</li> </ul> </li> <li>○【ぶつからないで でこぼこはーどる】           <ul style="list-style-type: none"> <li>・高さに応じ、またいだりぐぐったりする。</li> </ul> </li> </ul>	◎		○	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む運動に関心や見通しが持てたか。</li> </ul> <p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーにぶつからずに進むことができているか。</li> </ul>
	9月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【ぶつからないで でこぼこはーどる】</li> <li>○【おちないでわたらう いっぽんばし】           <ul style="list-style-type: none"> <li>くまっすぐ一本橋</li> <li>・枠内を歩くことを意識する。</li> <li>くゆらゆら一本橋</li> <li>・落ちないようバランスを取って歩く。</li> <li>くくねくね一本橋</li> <li>・ロープの細さとロープのくねりを意識して足を動かす。</li> <li>・ロープからはずれないようにバランスを取って歩く。</li> </ul> </li> </ul>	◎		○	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーにぶつからずに進むことができているか。</li> <li>・バランスを取りながら足を交互に出して進むことができているか。</li> </ul> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から繰り返し取り組んでいるか。</li> </ul>
	9月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【ぶつからないで でこぼこはーどる】</li> <li>○【わにあわせて、けんぱけんぱ】           <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪の配置（1→2→1→2…）に合わせて跳ぶ。</li> <li>3セット</li> <li>5セット</li> <li>足を開く練習用リング</li> </ul> </li> </ul>	◎		○	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーにぶつからずに進むことができているか。</li> <li>・輪に合わせて足を閉じたり開いたりすることができているか。</li> </ul> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から繰り返し取り組んでいるか。</li> </ul>
二 次 『さーきつ とま すたー への みち』	9月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【ぶつからないで でこぼこはーどる】</li> <li>○【おちないでわたらう いっぽんばし】</li> </ul>	○	◎	○	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーにぶつからないように、橋から落ちないように、体の動かし方を工夫しているか。</li> </ul>
	10月6日	<p>【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【ぶつからないで でこぼこはーどる】</li> <li>○【わにあわせて、けんぱけんぱ】</li> </ul>	○	◎	○	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーにぶつからないように、輪に合わせて進めるように、体の動かし方を工夫しているか。</li> </ul>
三 次 『さーきつ とま すたー めざせ 』	10月13日 20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『さーきっとますたー』           <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定試験のコースを繰り返し行う。</li> </ul> </li> </ul>	○	○	◎	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースを選んで体の使い方を工夫して進んでいるか。</li> </ul> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から繰り返し取り組んでいるか。</li> </ul>

10月 27日	○『さーきっとますたー』認定試験を受ける。 ・一人一人サーキットを周り、発表する。	○	○	◎	実技 ・コースを選び、獲得した動きを発表しながら進むことができているか。
------------	--	---	---	---	---

## ⑤ 授業計画

### ア 児童の単元に関する個別の実態及び目標

児童名	題材に関する実態	題材の個別目標	手立て
A	○日常生活面は、ほぼ自立している。出来事や気持ちを言葉で伝えることができ、教師や友達と簡単な会話ができる。 ○物事に対して、まずやってみようという興味関心は高く、手本を見てできることが多い。習得したことは友達に手本を示したり、教えようしたりする。 ○運動面では手本を見たり説明を受けたりして行うことができる。課題に気付き、克服しようとして取り組む姿が見られる。 ○自分の体調を考えながら取り組み、休憩を申し出ることができる。	○器具に応じて、体のバランスを取りながら、スマーズに跳んだり進んだりすることができる。 【知識及び技能】 ○選んだコースや器具で体を動かす中で、体の使い方を工夫し、伝える。【思考力、判断力、表現力等】 ○体を動かすことに面白さを感じ、自分から活動に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】	○本人と種目のポイントを確認する。  ○本人が工夫を伝えたときに、復唱する。  ○がんばりカードで課題を本人と確認する。 ○体力面の確認をしながら行う。
B	○出来事や気持ちを言葉で伝えることができ、教師や友達と簡単な会話ができる。 ○初めてのことや自信のないことに対する対応では取り組むまでに時間がかかる。 ○負けず嫌いであり、友達ができると負けずに頑張ろうとすることができる。 ○左利き。右手は手術跡がある。右手を使うことを避けることが多い。 ○運動面ではバランスを取ることが苦手で、動いた後の停止でよろめいて座り込むことがある。	○器具に応じた体の動かし方が分かり、バランスを意識しながら跳んだり進んだりすることができる。【知識及び技能】 ○バランスの取り方を工夫しながら、選んだコースや器具で体を動かす。【思考力、判断力、表現力等】 ○達成感を感じながら自分から活動に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】	○手本を示す。 ○必要な時は手を握ってもらうなど、お願いすることはよいことを伝えておく。 ○コースの選択を行う際に課題の確認をする。 ○行った時に良かった点を伝える。がんばりカードの確認の際、良い点、課題点を確認する。
C	○教師や友達と簡単な会話をすることができる。 ○日常生活面の動作はおおむねできるが、周囲のことが気にかかり、一連の動作をつなげて行うことが難しい。 ○何にでも興味をもって取り組もうとするが、初めてのことには取り組むまでに少し時間がかかる。	○器具に応じて、跳んだり進んだりすることができる。【知識及び技能】 ○体の使い方を工夫しながら選んだコースや器具で体を動かす。【思考力、判断力、表現力等】 ○達成感を感じながら、活動に取り組む。【学びに	○手本を示す。 ○行う前に足の動きを確認してから取り組む。 ○コースを選択することを確認する。 ○必要な時は手を握ってもらうなど、お願いすることはよい

	<p>○運動面では、複数の動作の組み合わせ（例えば、ジャンプの後、歩く動作の流れで、ジャンプしたままになってしまう）では、すぐに切り替えることが苦手である。体を動かすことは好きである。</p>	<p>向かう力、人間性等】</p>	<p>ことを伝えておく。 ○がんばりカードの確認の際、良い点、課題点を確認する。</p>
--	--	-------------------	--

#### イ 本時の指導

##### (ア) 全体の目標

- ・輪の配置に応じて、跳んで移動することができる。【知識及び技能】
- ・輪の配置や数の違いを意識しながら跳び方を変えることができる。【思考力、判断力・表現力等】
- ・自分から器具で体を動かそうとする。【学びに向かう力、人間性等】

##### (イ) 個別の目標

児童名	本時の個別目標
A	<p>○輪の配置に応じて、リズミカルに跳んで移動することができる。 【知識及び技能】</p> <p>○バランスを取りながら、輪の配置に応じて跳ぶことができる。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○自分からリズムを意識して跳ぼうとする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
B	<p>○輪の配置に応じて、マットを三つ以上跳んで移動することができる。 【知識及び技能】</p> <p>○体のバランスを意識しながら足の開きを変えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○目標とする輪の数を跳ぼうとする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
C	<p>○輪の配置に応じて、足を閉じたり開いたりすることができる。 【知識及び技能】</p> <p>○輪を見て、輪が一つなら閉じる、二つなら開くと判断することができる。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○輪の上を跳ぶことを楽しみながら体を動かすことができる。 【学びに向かう力、人間性等】</p>

##### (ウ) 展開

時配	学習内容・活動	指導上の留意点 □教材・教具(器具) 含む	★評価 (方法)						
5分	<p>&lt;導入&gt;</p> <p>○始まりのあいさつ</p> <p>グループごとに1列に並ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイン付きで行う。</li> <li>・本時の学習内容を伝える。(T1)</li> <li>・児童Fの様子を確認する。(T2、T4)</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 10px;"> <tr> <td>ところこ グループ C、E、H、M、Q</td> <td>T 1、 T 5、 H 7</td> </tr> <tr> <td>くるま グループ B、D、F、G、L、N</td> <td>T 2、 T 4、 H 8</td> </tr> <tr> <td>ひこうき グループ A、I、J、K、O、P</td> <td>T 3、 T 6、 H 9</td> </tr> </table>	ところこ グループ C、E、H、M、Q	T 1、 T 5、 H 7	くるま グループ B、D、F、G、L、N	T 2、 T 4、 H 8	ひこうき グループ A、I、J、K、O、P	T 3、 T 6、 H 9	
ところこ グループ C、E、H、M、Q	T 1、 T 5、 H 7								
くるま グループ B、D、F、G、L、N	T 2、 T 4、 H 8								
ひこうき グループ A、I、J、K、O、P	T 3、 T 6、 H 9								

	<p>○準備体操</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操 各クラス手本として2名ずつ前に出て行う。</li> <li>・補助運動 その場でジャンプ 教師の手本を見ながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手した児童の中から2人ずつT1が指名する。</li> <li>・その場ジャンプでは「グー」「パー」の号令をかけ、足を開閉するジャンプをする。(T1)</li> </ul> <p>□ラジオ体操CD □CDラジカセ(T6操作)</p>	
10分	<p>&lt;展開1&gt;</p> <p>○グループ毎にいろいろ一本橋を歩いた後、でこぼこハードルを行う。</p> <p><b>【ぶつからないで でこぼこはーどる】</b> ポイント ・はーどるにあたらないでいく。 ルール ・ぐるーふのせんせいの あいすですたーと。 ・ごーるはべるをならす。</p> <p>○グループ毎にケンパマットのところへ移動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐるま→ひこうき→とろっこ順での移動を指示する。(T1)</li> <li>・でこぼこハードルをする上でのポイントを伝える。トラバーハードルはくぐってもまたいでもよいことを伝える。(T1～T3)</li> </ul>	<p>★バーにぶつからずに進むことができてるか。</p> <p>【知識・技能】 &lt;実技&gt;</p>
22分	<p>&lt;展開2&gt;</p> <p>○グループ毎にケンパの練習に取り組む。</p> <p><b>【わにあわせて けんぱけんぱ】</b> ルール ・おわったらべるをならす。</p> <p><b>【とろっこグループ】</b> ポイント:わのかずにあわせて、あしをうごかしてすすんでいこう ①足の運び練習リング (ぞう・きりんマット) ②ケンパマット(3枚セット) ①②から選択して練習に取り組む。 ・次に跳ぶ順番を待っているときに、ぞう・きりんマットに取り組む。</p> <p><b>【ぐるまグループ】</b> ポイント:わのかずにあわせて、あしをわにいれてすすんでいこう ②ケンパマット(3枚セット) ③ケンパマット(5枚セット) ②で3枚のマットで足を輪に合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのMT(T1～T3)はケンパの学習のポイントをマットの上で実演しながら確認する。その際、児童からの発言に応じ、復唱したり、実演を促したりする。</li> <li>・児童C、M、Qには1回目①に取り組むよう、言葉をかける。(T1)</li> <li>・児童Qは両手を添えて跳ぶ動作の補助をする。(T1)</li> <li>・児童Fの気持ちが落ち着かない場合は、T4が対応する。</li> <li>・児童Bが②が達成できていないときに③に取り組もうとした際は、②の練習を提案する。(T2)</li> <li>・児童Lには、スムーズに足が開く</li> </ul>	<p>★自分から繰り返しコースに取り組もうとすることができたか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 &lt;観察&gt;</p> <p>★輪の配置に合わせて足を閉じたり開いたりすることができたか。</p> <p>【知識・技能】 &lt;実技&gt;</p> <p>★輪に合わせて進めるように、体の動かし方を工夫しているか。</p> <p>【思考、判断、表現】</p>

	<p>わせて入れて跳ぶことができたら、②③から選択して練習に取り組む。</p> <p><b>【ひこうきグループ】</b> ポイント:わにあわせて、リズミカルにすすんでいこう          ③ケンパマット(5枚セット)          ④ケンパマット(幅広)          ③④から選択して練習に取り組む。</p> <p>○練習終了の合図があったら、グループのマットの前に順番に並んで座る。</p> <p>○グループごとにミニテストを行う。</p> <p><b>ミニテストの行い方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①テスト(一人ずつ)</li> <li>②がんばりカードにシールを貼ってもらう。</li> <li>③次にがんばることを考える。</li> </ul> <p>○合図があったら、グループ練習の場でT1が見える位置に座る。</p> <p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>○各グループから一名が発表する。</p> <p>○整理体操</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1の指示に合わせてタッピングを行う。</li> </ul> <p>○終わりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習内容について知る。</li> </ul> <p>○片付け</p>	<p>よう輪の色を言いながら進むようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次に跳ぶ順番を待っているとき、状況によりわつかマットに取り組むようにする。</li> </ul> <p>・T3は、リズミカルに跳べるよう、手拍子でリズムを伝える。</p> <p><input type="checkbox"/>足の運び練習リング 1セット  <input type="checkbox"/>ぞう・きりんマット 1セット  <input type="checkbox"/>わつかマット 1セット  <input type="checkbox"/>ケンパマット(3枚セット)2セット  <input type="checkbox"/>ケンパマット(5枚セット)2セット  <input type="checkbox"/>ケンパマット(幅広) 1セット  <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1はブザーを鳴らし、終わりを伝える。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>ブザー</p> <p>・各グループMTが試験官としてミニテストを行う。(T1～T3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニテストが終わった児童の評価結果のシールをがんばりカードに貼り、良かったところを称賛する。(T1～T3)</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>がんばりカード  <input type="checkbox"/>評価シール(できた／もう少し)</p> <p>・各グループのMT(T1～T3)は発表する児童を選出する。発表の際に、発表する児童の練習の様子を全体へ伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1はタッピングを行う箇所を伝え手本を示しながら行う。</li> </ul> <p>・次回はサーキットのコースを行っていくことを伝える。</p> </p>	<p>&lt;観察&gt;</p>
8分	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>○各グループから一名が発表する。</p> <p>○整理体操</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1の指示に合わせてタッピングを行う。</li> </ul> <p>○終わりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習内容について知る。</li> </ul> <p>○片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのMT(T1～T3)は発表する児童を選出する。発表の際に、発表する児童の練習の様子を全体へ伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1はタッピングを行う箇所を伝え手本を示しながら行う。</li> </ul> <p>・次回はサーキットのコースを行っていくことを伝える。</p>	

## ⑥ 学習評価

【個別の評価規準】		評価基準	◎：十分に達成できた	○：概ね達成できた	△：支援や活動を工夫することで達成できた		
児童	評価の視点	段階	評価規準			評価	特記事項 (個人内評価等)
A	知識・技能	I段階	器具に応じて、体のバランスを取りながら、スムーズに跳んだり進んだりすることができる。	◎			
	思考・判断・表現	I段階	選んだコースや器具で体を動かす中で、体の使い方を工夫し、伝える。	◎			
	主体的に学習に取り組む態度	I段階	体を動かすこと面白さを感じ、自分から活動に取り組む。	◎			
B	知識・技能	I段階	器具に応じた体の動かし方が分かり、バランスを意識しながら跳んだり進んだりすることができる。	◎			
	思考・判断・表現	I段階	バランスの取り方を工夫しながら、選んだコースや器具で体を動かす。	○			
	主体的に学習に取り組む態度	I段階	達成感を感じながら自分から活動に取り組む。	◎			
C	知識・技能	I段階	器具に応じて、跳んだり進んだりすることができる。	○			
	思考・判断・表現	I段階	体の使い方を工夫しながら選んだコースや器具で体を動かす。	○			
	主体的に学習に取り組む態度	I段階	達成感を感じながら活動に取り組む。	◎			

## ⑦ 授業者による実践の振り返り

### ア 単元目標に関する成果と課題

サーキットを構成する一つ一つの種目を取り出し、丁寧に取り組んだことで、床面に置かれた輪の配置に合わせて跳んだり、平均台の上をバランスを取りながら歩いたりすることができるようになった児童が増えた。また、ゴムやバーの高さから、またいで越えるか、くぐって越えるか自分の身体を意識しながら判断する姿がみられ、単元目標は達成できたといえる。技能が身に付いたことで転びにくくなったり、片足立ちの姿勢を保持する時間が伸びたりする等、他の場面においても変容がみられた。「できた！」と感じることが増えたことが体を動かす楽しさともつながり、休み時間に自分から器具を用意し、歩いたり跳んだりする児童もいる。単元や時間での指導事項を絞りこんだことと、動きの実態からグループを編成し、実態に合った器具を用意できたことが有効であったと考える。

改善点として、思考・判断・表現する姿をより引き出すため、器具の配置や数を変えるなどの工夫や、言葉かけを減らし、児童がじっくり判断できる余裕をとるなどの教師の支援のあり方についてが挙げられた。

### イ 学習評価に関する成果と課題

今回、児童に身に付けたい力を明確にし、単元の評価規準（基準）及び児童の実態をもとに個別の評価規準を設定したことで具体的な評価ができ、知識・技能および、思考・判断・表現については、目標の達成度合いが見取りやすく、授業改善にもつながった。しかし、目標の表記のあり方（楽しみながら～、達成感を感じながら～）によっては、参観者によって評価がぶれてしまい、授業を初めて参観する教員でも評価がしやすいような表記

の仕方に課題を感じた。

指導計画に沿って、毎時間のめあてや「動きのポイント」を児童と「がんばりカード」で確認し、ミニテストを行った。カードにシールをもらうことを励みにする児童が多く、ミニテストに向けて自分から練習をしたり、失敗したときに悔しそうにしたりと学びに向かう意欲が高まっているようであった。児童と評価を共有することが今回初めてであったため、教師が主となり評価をしていったが、今後は自分なりに自分の課題を見つけること、めあてに向かって「こうしてみよう」と工夫する姿を引き出すことへつなげていきたい。

(執筆担当:協力機関B校)

## ⑧ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

本単元の学習集団は、小学部2学年全児童（男子14名、女子3名の計17名）で編成している。児童の実態差が大きく、課題別に3つのグループに分け授業を展開している。各教科等の年間の目標については、育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえて設定し、単元ごとの目標についても年間の目標を受けて三本柱で設定している。設定する指導目標や指導内容については、単元の「振り返りシート」「実態把握シート」を充実させ、妥当性の向上に努めている。

観点別学習状況の評価を基にした授業の見直しを図ることを通じて、個別に設定された指導目標や指導内容の妥当性の更なる向上につなげていくことが求められる。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

昨年度より、学習指導要領で示された学習の系統性やねらいを踏まえ、学習指導案の書式を変更し、評価の3観点に沿った授業づくりに取り組んでいる。本単元は、サーキット運動を題材とすることで、児童が身体の使い方を知り、身体を移動する動きやバランスを取ることなどの力を高めることを意図して設定している。

本単元の評価規準は、特別支援学校小・中学部学習指導要領の小学部体育1段階 A体つくり運動遊びの内容「ア教師と一緒に手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。」「イ手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地良さを表現すること。」「ウ簡単な合図や指示等に従って、体つくり運動遊びをしようとすること。」を踏まえて、3観点で設定している。

### イ 考察

千葉県立つくし特別支援学校は、学習指導要領で示された学習の系統性やねらいを踏まえ、学習評価の3観点に沿った授業づくりを実践している。授業毎のねらいの達成のため

に、PDCA サイクルを踏ました「授業構想シート」等の作成を通じて、「主体的・対話的」な学びの場面を大切にした授業づくりに取り組んでいる。

学習評価の3観点を設定することで、単元目標の達成に向けた具体的な授業を想定し、観点別の評価規準を基に、児童一人一人の学習や活動の状況を分析的に評価することが可能となった。こうした取組により、学習評価の3観点の導入と具体的な評価規準の設定を実践に活かすことで、目標に準拠した評価を着実に実施していくことができるようになった。また、学習評価の観点による「授業参観シート」等の活用は、児童の学習活動と期待される姿を想定した単元ごとの評価規準を設定することにつながり、目標や指導内容、手立ての妥当性、信頼性を意識した具体的な授業改善につながっている。

教師による支援や単元計画などを見直し改善していくためには、単元の授業計画を作成する時点で、「指導と評価の一体化」が図れるような工夫をしていくことが求められる。そのため、学習評価の3観点を基に、児童の学習活動と期待される姿を想定した評価規準の更なる妥当性の向上が望まれる。

(執筆担当者：横倉 久)

(7) 音楽科で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準と個別の目標を設定して学習評価をした事例（令和4年度）

① 教科と単元名

高等部 音楽科「みんなで心を合わせて演奏しよう」

② 学習集団の実態

高等部の生徒 1年生6名、2年生8名、3年生6名の、計20名。音楽に関する学習状況や既習事項等を踏まえた段階は中2段階7名、中1段階11名、小3段階1名、小1段階1名。身体表現のボディパーカッション「手拍子の花束」では、3つのパートに分かれて絵譜を見ながらリズム打ちを練習したり、パートを合わせて演奏したりした。それぞれのパートのリズムが順に重なり、1つの曲として出来上がっていく音楽の構造を演奏しながら感じることで、リズムや音の重なりの面白さに気付き、みんなで息を合わせて演奏する楽しさを経験し、音を合わせて演奏するためにお互いの様子を見たり演奏を聴いたりすることができるようになってきた。「よさこい鳴子おどり」「よさこいソーラン」は、7月の高等部学習発表会に向けて取り組んだ。「(保護者に) かっこいい踊りを見てほしい。」「みんなでそろった踊りをしたい。」「リズムに合わせて元気に踊りたい」など、思いをもちながら取り組むことで、限られた活動時間の中でも友達と言葉を掛け合い励まし合ったり、汗をかきながら進んで取り組んだりする等、自分から友達と共に活動しようとする姿が見られた。当日、発表後に「楽しかった。」と満足そうに発言する生徒も見られるなど、音楽活動に楽しみながら取り組める生徒が多い。楽器を使った学習について、2・3年生については、昨年度創作の学習で、グループごとに3つの音階を使い簡単な曲作りを行った。その際、曲のテーマに合う楽器を選んで、演奏する活動を行っている。旋律をキーボードや木琴などで演奏する生徒、リズムを覚えて太鼓やボンゴなどの打楽器で演奏する生徒、教師の働き掛けを受けながら一緒にタンバリンなどの打楽器を鳴らす生徒などがおり、器楽の活動に関する実態は幅広い。

③ 単元設定理由と単元目標

(1) 単元設定の理由

題材である「シング・シング・シング」は、スwinging jazzとして古くから親しまれている曲であり、スwingingの軽快なリズムの特徴を感じ取りながら、友達と楽器の音色やリズム等を合わせて表現する楽しさを味わうことができる。それぞれがテーマに向かい、表したい思いや意図をもちそれを実現するために必要な技能を主体的に身に付けていく姿を期待したい。実態に差のある生徒たちではあるが、共に合奏の活動に取り組むことで、友達の音を意識したり、教え合ったり、お互いの活動を認め合いながら演奏したりするなど協働的に音楽活動に取り組みながら、みんなで一つの演奏を作り上げ

る楽しさや達成感を実感してほしい。

## (2) 単元目標

(全体)

(1) 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)</li> <li>範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付ける。(技能①)</li> <li>音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付ける。(技能②)</li> <li>各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。(技能③)</li> </ul>
(2) 思考力、判断力、表現力等	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する。
(3) 学びに向かう力、人間性等	創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。
評価規準	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(知識)</li> <li>創意工夫を生かした表現をするために必要な、範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。(技能①)</li> <li>創意工夫を生かした表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けていている。(技能②)</li> <li>創意工夫を生かした表現をするために必要な、各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けていている。(技能③)</li> </ul>
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
(実態としての段階が中学部2段階である目標Aの生徒の指導目標例)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の雰囲気と音色、速度、リズム等の要素との関わりについて気付く(知識)</li> <li>パートの範奏や主旋律を聴いたり階名を振った楽譜を見たりして、リズムや速度を意識して演奏する技能を身に付ける。(技能①)</li> <li>テーマに合った音色や響きを考えて、木琴を使って演奏する技能を身に付ける。(技能②)</li> <li>打楽器や主旋律の音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。(技能③)</li> </ul>
思考・判断・表現	音色やリズム、速度、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取った曲の雰囲気との関わりについて考え、表現を試したり工夫したりする。
主体的に学習に取り組む態度	創意工夫を生かした表現をすることに興味をもち、木琴で表現することを楽しみながら自ら活動に取り組んだり、友達と励まし合いながら活動したりする。

(3) 単元の評価計画、授業計画

教時	月日 (曜日)	学習活動	評価計画			
			目標 A	目標 B	目標 C	目標 D
1	10/5 (水)	<b>【曲について知ろう】</b> ・マーチングの演奏動画を観て、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・みんなで合奏すること、録画した演奏を昼の放送で放映することを知る。 ・みんなでどんな演奏にしたいかについて、思いを伝え合う。テーマを設定する。	(2)	(2)	(2)	(2)
2	12 (水)	<b>【楽器を知ろう、鳴らしてみよう】</b> ・教師の範奏を聴いたり、実際に楽器を鳴らしたりして、基本的な楽器の扱い方を知る。 ・担当したい楽器を考え希望用紙に書く。	(1)技②	(1)技②	(1)技②	(1)知
3	14 (金)	○個人練習、パートグループ練習(各教室)	(1)技①	(1)技①	(1)技①	(1)知
4 5	20 (木)	<b>【リズムや速度を合わせよう】</b> ・楽譜を見ながら、音階やリズムを言葉にして覚える。 ・楽譜やパート毎の範奏の映像を参考にしながら、旋律やリズム、速度などを覚える。	(1)技①	(1)技①	(1)技①	(1)技
6	11/7 (月)	<b>【音色や響きに気をつけよう】</b> ・楽器の基本的な扱いを意識して、楽器の音色や響きに気を付けて演奏する。	(1)技②	(1) 技 ②	(1) 技 ②	(1) 技
7	8 (火) 本時	<b>【テーマに合った演奏の仕方を考えよう】</b> ・パートグループでの演奏の様子を撮影し、映像を見たり聴いたりして、どのようにするとテーマに合った演奏になるかについて、音楽を形づくっている要素を基に思いを伝え合う。話し合ったことを試しながら工夫する。	(2)	(2)	(2)	(2)

教時	月日 (曜日)	学習活動	評価計画			
			目標 A	目標 B	目標 C	目標 D
8	9 (水)	○全体練習（体育館） 【友達と音を合わせて演奏しよう】 ・各パート練習後、2～3つのパートを合わせた演奏、全体での演奏と徐々に合わせて演奏する。 ・友達の楽器の音を聴きながら、合わせて演奏する。	(1)技③	(1)技③	(1)技③	(1)技
9	15 (火)		(1)技③	(1)技③	(1)技③	(1)技
10	17 (木)	【テーマに合った演奏の仕方を考えよう】 ・全体での演奏の様子を撮影し、映像を見たり聴いたりして、どのようにするとテーマに合った演奏になるかについて、音楽を形づくっている要素を基に思いを伝え合う。話し合ったことを試しながら工夫する。	(2)	(2)	(2)	(2)
11	21 (月)	【みんなで心を合わせて演奏しよう】（体育館） ・前半に全体練習、段取りの確認をする。 ・昼の放送で放映する合奏の映像を撮影する。	(3)	(3)	(3)	(3)
12	30 (水)	【振り返ろう】 ・合奏について振り返る。 ・曲想と音楽の構造との関わりについてまとめる。	(1)知	(1)知	(1)知	(1)知

#### ④ 学習評価

##### （1） 単元で行った学習評価

評価規準は学習指導要領の内容から設定し、文章表記で学習評価を行った。学習評価の評価規準は③(2)に示した。例として実態としての段階が中学部2段階の目標Aの生徒の学習評価を以下の通り示す。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「シング・シング・シング」の合奏に向けて、プラスバンドの演奏を鑑賞した。曲の雰囲気を「元気な曲、楽しい曲、ノリノリ」と感じ取り、曲を音楽を形づくっている要素を基に考えることで、「強い」音色、速度が「速い」、「楽しい」、「はずむような、盛り上がる」リズムであることが曲の雰囲気を作り出していることに気付いた。（知識）</li> <li>木琴のパートを担当した。教師の演奏を録画した映像を見たり、階名を振った楽譜を見たりすることでリズムを覚えたり、主旋律の演奏を何度もよく聴きながら合わせて演奏することで、速度を意識して演奏することができた。（技能①）</li> <li>みんなで考えた「元気でのりのりノリノリでリズミカルに演奏しよう」</li> </ul>
-------	--

	<p>というテーマから、元気な音色を表現するにはどうしたらよいかを考えることで、鍵盤の金具のある部分を叩くと音が鈍くなってしまうことに気付き友だち達に伝えたり、鍵盤の真ん中を叩くことを意識しながら演奏したりした。(技能②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パートグループの練習をして、自分のパートの演奏ができるようになってから、全体練習に取り組んだ。全体練習では、最初に主旋律、次に打楽器のリズムと合わせるなど、徐々にパートを合わせて練習を行うことで、主旋律や打楽器のリズムをよく聴きながら演奏するようになった。(技能③)</li> </ul>
思考・判断・表現	木琴と鉄琴のパートグループ練習で、自分たちの演奏を録画して、テーマに合った演奏になっているかを考える時間を取った。テーマの「リズミカル」について、楽譜のスタッカートに注目することで、できるだけ短い音で表現するために試行錯誤した後、「(マレットで鍵盤を) 叩いたらすぐ上げる。」と発言し、マレットを弾ませるようにして鳴らす表現の仕方を試したりした。
主体的に学習に取り組む態度	テーマに合った表現の仕方を考えることで、木琴で表現することに興味をもち、「シ、シ、ミのところを気を付けて演奏しよう。」とリズムや速度を意識して練習に取り組んだり、合奏を録画するときは、「みんなで心を合わせて。」と友達に言葉を掛けて励まし合ったりしながら活動した。
特記事項	

## (2) 評価に際してどのような姿を元に評価したのか

### 1. 知識・技能に関する児童生徒の評価

単元の前半で演奏の鑑賞を行い、曲の雰囲気については、教師とのやりとり場面を設定し、生徒が自分なりの言葉で発言した内容やその時の表情等から評価した。単元の終盤における振り返りの中で、曲想と音楽の構造との関わりについて言葉でまとめる活動をとおして、曲の雰囲気と音楽を形づくっている要素との関わりについての理解について評価した。技能については、単元中盤で音楽を形づくっている要素（音色、速度、リズム）について確認しながら演奏する活動の中で、主旋律を聴きながら演奏したり、鍵盤を叩く位置を変えながら演奏して試したり、段階的にパートを増やして合わせて演奏する活動を設定し、その活動の姿から評価した。

### 2. 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

自分たちの演奏する様子を動画で撮影し、テーマに合った演奏になっているか考え、その後に考えたことを試しながら演奏する活動を設定した。楽譜の表現に注目して、試行錯誤しながら繰り返し演奏の仕方を試す姿や、気づいたことポイントとしてまとめる場面での発言から評価を行った。

### 3. 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

テーマに合った演奏を考えて工夫する活動や、全校児童生徒に放映する映像の撮影をする活動を設定し、その中で興味をもって取り組む姿や、一緒に演奏する友達を意識し

て関わりながら活動する姿を見取り、評価した。

## ⑤ 授業者による実践の振り返り

### ア 単元目標に関する成果と課題

本単元では高等部1段階の内容を基に単元目標を設定した。全員での演奏に向けて、各パートに分かれて練習したり、自分たちの演奏を振り返って試行錯誤したりする活動を行った。単元をとおして共に楽器を演奏することを楽しみながら表現を工夫しようとする生徒の姿が見られ、単元目標はおおむね達成できたと考える。生徒の希望を取り入れながらパート編成を行い、共に活動したことが有効であったと考える。一方で、学習状況や既習事項等を踏まえた段階では中学部段階、小学部段階の生徒がいる学習集団である。単元で取り扱う段階の目標及び内容と、実態としての段階の目標及び内容を踏まえた目標設定の在り方の検討が必要である。

### イ 学習評価に関する成果と課題

単元における学習活動と評価計画を関連させ、指導と評価の一体化によって、各教時の授業のねらいが焦点化され、生徒にとっても教師にとっても分かりやすい授業となつたと考える。生徒は学習のめあてをつかみ、見通しを持って学習活動に取り組むと共に、教師も学習評価について、各教時に多くの観点を盛り込みますに、ねらいを絞って授業が展開できた。一方で、本単元は、内容のまとめとして「技能」を3つ取り扱っている。生徒の姿から、何が身についたか、何ができるようになったかの視点で実践を振り返り、他単元との関連を図りながら、年間を見通した内容の取扱いの整理が必要である。

(執筆担当：協力機関H校)

## ⑥ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

この事例での生徒の学習状況の実態把握では、学習指導要領の内容を元にした確認表を用いて、一人一人の学びが学習指導要領のどの段階のどの内容が該当するのかについて把握している。その結果、この学習集団は、中学部2段階7名、中学部1段階11名、小学部3段階1名、小学部1段階1名の実態のある集団であると捉えられている。

単元の目標設定は生徒の生活年齢に対応した学習指導要領の段階を全体の単元目標とし、文末表現を変更して設定している。したがって、高等部であることから、高等部1段階の音楽の内容が元になっている。

これとは別に、生徒に個別に単元目標を設定し、その単元でどのようなことを目指すのかを細かく設定している。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

この事例では、生徒の生活年齢に対応した学習指導要領の段階を全体の単元目標、評価規準と設定した上で、学習指導要領のそれぞれの段階の内容を共通の評価規準として文末を改変し設定している。

#### イ 考察

この事例では、評価規準は学習集団共通のものとして、生活年齢段階に対応する学習指導要領の段階の内容を全体の単元目標、評価規準として設定している。

学習状況としては、中学部1段階、2段階、小学部1段階、3段階の生徒の学習集団であるため、高等部1段階として設定された単元目標を、それぞれの子供に応じたものを設定し、学習活動を行うという工夫を行っている。

この協力機関では、次年度から学習指導要領の内容をすべて取り扱う取組を行う予定であり、そうした中で生活年齢と学習内容の取り扱いをどのようにするかを検討しているところです。その中の一つとして、生活年齢に応じた段階の内容を全体の単元目標に設定する方針を取り始めている。この方法は、カリキュラム・マネジメントの事例で報告した福島県立相馬支援学校の12年間のシラバスと類似の考え方と捉えることができる。

実際の学習においては、学習集団が大きいことから、実態の近い生徒同士を小グループごとに分けて、楽器の練習を行い、その成果を持ち寄って合奏するなどの工夫が行われている。

(執筆担当者：横尾 俊)

## 6. 各教科等を合わせた指導における単元作成と学習評価

(1) 作業学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し、個別に指導目標を立て学習評価をした事例（令和3年度）

① 教科と単元名（授業と単元名）

授業 作業学習（高等部 縫工班）

単元名 「縫工ショップ『ほうちゃん』で自慢の製品と新製品を販売しよう！」

本単元は、文化祭に向けて、従来の製品や新製品を作ったり、販売会では、自分の製品を、自信を持ってお客様に販売することができるよう販売会準備や接客練習を行ったりし、実際に販売会で販売する単元である。

② 学級の実態

縫工班は、男子9名、女子6名、教師5名の計20名で構成されている。生徒の危険認知や特性などに合わせて、「ミシングループ」と「織りグループ」の二つのグループを編成している。集団行動面では、ほとんどが教師の言葉を理解しており、周囲の友だちに言葉を掛けたり、報告・連絡・相談を行ったりすることができる生徒、教師の言葉掛けや支援を手がかりとしながら集団の中で活動ができる生徒がいる。数名の生徒は言葉ではなく、文字やイラスト、具体物などを確認することで指示や状況を理解しやすく、それらを手がかりとしながら集団の中で学習に取り組んでいる。情緒面では、大半の生徒は、落ち着いて作業に取り組むことができるが、他の生徒の声に敏感に反応したり、活動に見通しが持てないと不安定になったりする生徒がいる。

4月からの3つの単元を経験する中で、ミシンや機織りのそれぞれの担当の仕事に慣れ、自分から準備・片付けをしたり、教師と製品の出来栄えについてやりとりしながら製品作りを進めたりするなど、自分の担当の仕事に責任感を持ちつつある。しかし、7月に行った今年度初めての販売会では、積極的にお客様に関わることが難しかったり、商品の紹介や質問があったときに何を答えればよいか戸惑ったりする様子がみられた。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

<単元について>

前単元では、消費者のニーズを把握しようと本校全教師へアンケートを取り、新製品開発を行った。本単元では、新たに開発した新製品を初めてお客様に販売する機会となる。前単元までの製品作りへの意欲を保ちながら、本単元では、自信を持って接客できるように取り組んでいく。また、10月の産業現場等における実習での評価を加味して、作業に取り組むことで、より働く力を身に付けることができるようしたい。

導入で、担当する製品の目標数や1日に織る織り丈などの目標を決め、作業への意欲をもてるようとする。単元の前半は、質の良い製品作りを目指し、道具を正しく扱い、

丁寧に製品作りを行う。単元の中盤には、7月の販売会の接客についての課題を踏まえて接客に意識が向くように働きかけを行い、販売会に向けての目標を決め、午後の時間にお店の装飾作りをしたり、お客様に喜んでもらえるような接客や販売方法を考えたりするなど販売会に向けての準備も行う。単元の後半は、実習での課題点を確認しながら、製品作りや販売会の準備、接客練習に活かしていく様にする。販売会後には、個々の目標の到達度を確認したり、文化祭での販売の売上発表をしたりして、達成感を得られるようにしたい。

学ぶ教科等の内容としては、製品作りにおいては作業の確実性（職業科）を、販売会の準備においては主に、お店の装飾や製品のポップ作りを通してお客様に分かりやすく伝えるデザイン（美術科）や言葉（国語科）を考え表現できるように取り組む。また、接客においては、消費者のニーズを踏まえながら（社会科）、製品の説明をお客様に伝える話し方（国語科）について考え表現できるように取り組む。生徒によっては、単元を通して、見通しを持って時間いっぱい気持ちを安定させて取り組むことや手指の巧緻性を高めることなど自立活動の内容にも重点を置いて取り組んでいく。

#### ＜指導支援について＞「どのように学ぶか」

質の良い製品作りを行うために、生徒の実態に応じて、手順表や注意書きを提示しておき、自分で作業内容を確認しながら進められる様にする。生徒によっては、教師に報告と相談をするタイミングを伝え、確実に製作に取り組むことができる様にする。また、製品見本を見やすい位置に提示しておき、常に確認できる様にする。

自信を持って接客できる様にするために、販売会意欲促進チーム（仮）を結成し、生徒中心に販売会を計画する様にする。製品の使い方やおすすめポイントを教師と一緒に考え、ポップ掲示を作成したり、販売会を想定して、接客のロールプレイを行ったりする様にする。

産業現場等における実習の評価を作業学習に反映するために、実習の評価表から、作業学習の中で取り組むことができる内容を生徒と共に確認し、生徒自身が実習での課題を意識できる様に目に見える位置に掲示しておく様にする。

単元全体を通して、教師も製品製作の役割を担い、生徒と共に働きながら働く姿勢を示したり、励ましの言葉を掛けたりする様の支援を行う。

本時は、単元終盤で完成間近な製品が多くあり、製品の仕上げを行う。個々の実習での課題点を踏まえつつ、目標数達成に向けて、ミシングループ、織りグループともに製品作りに取り組む。

## イ 単元目標（評価規準）

単元（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具や材料を用意し、手順通りに製作している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売会に向けて、自分の作った製品を説明したり、販売促進を考えてポップ作りを行ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に向けて計画的に取り組んでいる。</li> <li>お客様に喜んでもらえるような販売会を目指して、積極的に店の装飾活動に取り組んでいる。</li> </ul>
教科等	<p><b>職業</b> 1段階Aイ（ア）</p> <p>②使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。</p> <p>③作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。</p>	<p><b>国語</b> 1段階A</p> <p>ウ話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。</p> <p>エ相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。</p> <p>1段階B</p> <p>ア相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>エ間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。</p>	<p><b>職業</b> 1段階Aア（ウ）</p> <p>作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。</p> <p><b>美術</b> 1段階Aア（ア）</p> <p>対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p>

**自立活動** 内容は個に応じる

## ウ 単元の評価計画

単元の評価規準は観点別に設け、それを基に各授業の評価規準を計画する。また、個の評価基準を作成し、単元終了後に「十分満足できると判断される姿（単元終了時に目指す姿）」を◎、「おおむね満足できると判断される姿（単元中盤の姿）」を○、「単元開始時の姿」を△の3段階で評価する。何が、どこまで、どのような支援があつてできたかの最終的な生徒の様子と合わせて、単元全体を評価する。

工 単元計画

月日	曜	活動内容	関連する活動	知	思	主
		午前	午後			
9/28	火	導入（日程表の確認、目標数決め、実行委員紹介）			○	○
29	水	製品作り		実行委員会	○	○
10/4	月			長時間作業開始	○	○
5	火			産業現場等における実習の開始	○	○
6	水				○	○
7	木				○	○
8	金				○	○
11	月				○	○
12	火				○	○
13	水				○	○
14	木				○	○
15	金				○	○
18	月	製品目標数 ・トートバッグ小中大（40） ・エプロン（10） ・お守り（30） ・ティッシュボックスカバー（15） ・スライドペンケース（10） ・あずま袋（13） ・サコッシュ（14） ・お弁当袋（20） ・ショルダーバッグ（10）	製品作り	販売会準備	○	○
19	火				○	○
20	水				○	○
21	木				○	○
22	金				○	○
26	火			合同装飾（午後）	○	○
27	水			合同装飾（午後）	○	○
28	木				○	○
本時	金	製品作り			○	○
11/1	月		販売会準備・接客練習	長時間作業	○	○
2	火			長時間作業	○	○
3	水	敬老の日			○	○
4	木	前日準備			○	○
5	金	文化祭			○	○
8	月	片付け、棚卸	振り返り		○	○

## 本時（23/29）の目標（評価規準）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
本時（評価規準）	・必要な道具を用意し、手順通りに製作している。	・完成した製品について、製品名や頑張ったことを友達の前で発表している。	・目標に向けて計画的に取り組んでいる。
教科等	職業1段階Aイ（ア）④ 自立活動 内容は個に応じる	国語1段階Aエ	職業1段階Aア（ウ）

## 生徒の単元にかかわる様子・本時の目標（評価基準）・本時の手立て

名前 学年 性別	分担 o r グループ	単元に関わる様子	本時の目標 評価基準（◎の姿）	本時の手立て
Nさん 1年 女	織り 機織り グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生徒の声が気になり、織りに気持ちが向かいにくいくことがあるが、手順を覚えて正確に織り進めている。</li> <li>一日に織った長さを、教師と一緒に測り、ファイルに記入している。</li> <li>自分の織り生地が製品になることを喜び、文化祭で販売することを楽しみに、機織りに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間になったら身支度を調べ、正確な手順で織り進めている。（知）</li> <li>目標の長さを織ることができたか、ファイルに○△で記入している。（思）</li> <li>一日に織る目標の長さを目指して織り進めている。（主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して取り組めるよう、静かなグループと同じ部屋で取り組むようにする。</li> <li>時間を意識できるように、時計を示して開始時間を伝える。</li> <li>目標のメジャーを織り丈にあてて、目標を達成できたかどうか考えるように伝える。</li> <li>前日までの織り丈から、目標の長さを教師と一緒に決め、メジャーで示す。様子を見ながら、メジャーを織り生地にあてて「あと少し」などと言葉を掛ける。</li> </ul>
Aさん 1年 女	ティッシュ ミシン ボルダ ツク カバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中力に課題があるが、20cm程度の直線であれば、真っすぐに縫うことができる。</li> <li>話す内容を教師と一緒に確認すると自分から話すことができる。</li> <li>製作工程は覚えていて「もう少しでできあがる」と見通しをもって取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンを使って、指示線に従って直線に縫っている。（知）</li> <li>製品名や製品の個数、目標数に向けて頑張ったことなどを友達の前で発表している。（思）</li> <li>当日の目標に向けて集中して製品を作っている。（主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して縫い進めることができるよう、20cm程度でチャコペンの色を変えて指示線を区切る。</li> <li>授業終了時に頑張ったことを教師と確認してから発表の場で話すようにする。</li> <li>授業開始時に出来高表で目標までの残数を確認し、「○個製作する」と当日の目標を決める。</li> </ul>
Bさん 2年 男	ミシング サコツ シループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で判断し、縫い途中に押さえを上げてしまうことがあるが、指示線に従いほぼ真っすぐ縫うことができる。</li> <li>自分が作っている製品名を覚え、発表の際は、教師が言葉を掛けると挙手して発表している。</li> <li>当日までの目標数を考えて、製作スピードを調整することは難しいが、自分から製品作りに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンを正しく使い製品を作っている。（知）</li> <li>自分から挙手し、製品名や完成了個数を友達の前で発表している。（思）</li> <li>当日の目標に向けて製品を作っている。（主）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示線よりはずれたと判断した場合は教師に報告するよう始めに確認する。</li> <li>押さえを上げた場合は、縫った跡を教師と確認し、製品にならないことを伝える。</li> <li>終礼の前にいつ何を発表するか確認しておくようする。</li> <li>終礼時に「発表する人はいますか」と係に言葉を掛けてもらう。</li> <li>事前に出来高表で、目標までの個数を確認するようする。</li> <li>本時に取り組む個数を教師と一緒に決める。</li> </ul>

## 授業展開

時配	生徒の活動	指導・支援上の留意点	教具/資料等
10:25 (5)	<p>○準備係を中心に、協力して作業場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機織り機を縫工室から1年D組、E組に移動する。</li> <li>・各作業室の窓を開けて換気する。</li> <li>・必要な道具や材料をそれぞれ準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係を確認できるように、係一覧表を掲示している場所を伝える。</li> <li>・係の仕事が終わったら、残っている別の係の仕事を気付くことができるよう生徒に言葉を掛ける。</li> </ul>	係一覧表
10:30 (75)	<p>○作業室の準備ができ次第、個々に作業を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日までの出来高を確認し、本時の目標を決める。</li> <li>・作業を開始する。</li> </ul> <p>(ミシングループ) (Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさん、Fさん、Gさん、Hさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシン動作確認を行う。</li> <li>①電源コードやフットペダルを接続する。</li> <li>②周囲の安全を確認する。</li> <li>③正常に縫えるかどうか試し縫いを行う。</li> </ul> <p>・担当する製品のミシン掛けを行う。</p> <p>・アイロン掛けをする。</p> <p>・製品の出来栄えを自分で判断して製品作りを進めたり、教師からの指示を受けて出来栄えと一緒に確認したりする。</p> <p>・適宜、製品作りの経過の報告を担当教師に行う。</p> <p>・失敗をしたり、ミシンが動かなくなったりした場合は、すぐに教師を呼ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日までの出来高を出来高表や確認ファイルを使って担当の生徒と確認し、本時の目標と一緒に考え、数で示したり、視覚的に印をつけたりする。</li> </ul>	出来高表 確認ファイル メジャー
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品作りに入る前に①～③を自身で確認するよう言葉を掛ける。</li> <li>・電源コードなど危険なところがないか確認する。</li> <li>・生徒によっては、フットペダルがずれないよう滑り止めを付けたり、床面に印をつけたりする。</li> <li>・試し布を使って正常に動くかどうか確認するようあらかじめ言葉を掛けておく。</li> <li>・生徒に本時の活動内容や工程が分かりやすいように生徒それぞれ材料ごとに籠に分けておき、順番に取り組むことができるようにする。</li> <li>・マチ針やクリップを使って材料同士がずれないようにしておく。</li> <li>・生徒によっては、縫い線をチャコペンで書いておく。</li> <li>・安全にアイロンを使うよう事前に注意を促す。</li> <li>・生徒によっては見本や経験をもとに出来栄えの判断を任せ、作業に集中する時間を増やし、作業効率を上げるようにする。</li> <li>・自主的に出来栄えの確認が難しい生徒には、教師から「〇〇までできたら報告しましょう」「一つ縫い終えることができたら報告しましょう」などと言葉を掛けておく。</li> <li>・製品作りを行う中で材料から落として縫ってしまったり、返し縫いを忘れてしまったりするなどその都度失敗の例を確認し、失敗に気付いた際はすぐに言葉を掛けるように伝えておく。</li> <li>・ミシンから変な音が出たり動かなくなったりした場合は、手を止めてすぐに教師に報告するよう言葉を掛けておく。</li> </ul>	ミシン フットペダル 滑り止め ビニルテープ 試し縫い用布 マチ針 クリップ チャコペン
	<p>(織りグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機織り機を使って、1色織りをする。 (Lさん、Mさん、Nさん)</li> <li>・自分で色を選んで、シャトルに巻いた織り糸がなくなるまで織る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な織りができるように、T4、T5は巻の打ち込み加減や、横糸が重なっていないか確認する。</li> <li>・正確な織りができるように、シャトル受け棚や</li> </ul>	機織り機 シャトル 見本 色シール

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャトルに糸を巻く。</li>   <li>・卓上織り機を使って、1色織りをする。 (Kさん)</li> <li>・自分で色を選んで、シャトルに巻いた織り糸がなくなるまで織る。</li>   <li>・機織り機を使って、パターン織りをする。 (Mさん)</li> <li>・数種類の織り糸を使って織る。</li>   <li>・機織り機を使って、網代織りをする。 (Lさん)</li> <li>・回数を数えながら2色の織り糸を使って織る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏板にシールを取り付け、順番を確認して織ることができるようにする。</li> <li>生徒によっては、姿勢を保てるように踏板の高さを調節する。</li> <li>操作しやすいように、シャトル受け棚や綜続に取っ手を取り付けておく。</li> <li>操作が分かりやすいように、織り機に手順表を貼っておく。</li> <li>「スー」「ガチャン」「トントン」などの言葉を使い、各工程の動作と結びつくようにする。</li> <li>正確にパターン織りができるように、色の順番を数字で示し、見やすい位置に掲示する。</li> <li>織り丈がわかりやすいように、紙を用意し、使い方を確認する。</li> <li>正確に網代織りができるように、色の順番が記載された手順表を掲示しておく。</li> <li>織った回数を確認できるように、カウンターを使用するようにする。</li> </ul>	シャトル受け棚 卓上織り機 織り丈確認用型紙 カウンター
11:45 (5)	○実行委員（Bさん）の言葉により、配膳係は片付けを始める。 ・織りグループは、本時の出来高を確認し、ファイルに記入する。	(T 2は配膳係と一緒に配膳に向かう)	
11:50 (5)	○実行委員（Hさん）の言葉により、作業を終了し、終礼を行う。 ・出来上がった製品の発表を行う。 ・テーマの確認・唱和 ・係活動の確認	・T 4、5は個々の出来高を生徒と確認し、確認ファイルに記入するように言葉をかける。	確認ファイル
11:55 (5)	○片付けと掃除を行う。 ・実行委員（Hさん）は、係活動や清掃など終了したかどうか点検表を使ってチェックする。	・発表した生徒に、頑張ったことや次回頑張ることを聞くようする。（T 1） ・テーマを意識できるように、指を指したり、「壁にあるテーマを唱和しましょう」などと言葉を掛けたりする。（T 1） ・係を確認できるように、係一覧表を掲示している場所を伝える。 ・最後の点検に意識が向くように「点検をお願いします」などと言葉を掛けたり、点検表の場所を伝えたりする。	係一覧表 掃除用具 点検表
12:00	○配膳終了まで待機する。 ・配膳終了の連絡が来たら作業を終了する。		

資料

## 1 見本と製品名の表示



### 3 出来高確認ファイル

機織り 記録表	
日付	糸の長さ
9/6	22cm
9/7	28cm
9/1	25cm
9/2	21.5cm
9/8	23cm
9/9	23cm
9/10	25cm
10/4	38cm
10/5	50cm
10/6	55cm

#### 4 Nさんの機織り機、支援具



2 表高出来

### ※横糸の正誤を示した見本



※高さ調節の牛乳パック



#### ④ 学習評価

Pシートの評価基準に基づき、毎時間の生徒の発言や行動を記録し、単元終了後に、Pシートで3段階評価を行った。また、事例生徒が、何がどこまで身に付いたかを、Pシートを元に教員間で共有し、単元の評価規準についての振り返りを行った。教員間の共有は、月に2回設定している研究の時間（各1時間程度）を活用した。

#### 本時の目標（評価基準（◎の姿））は達成できたか。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Nさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間になったら身支度を調べ、正確な手順で織り進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の長さを織ることができたか、ファイルに○△で記入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日に織る目標の長さを目指して織り進めている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻して登校したため、気後れしている様子があつたが、道具や材料を提示することで活動に向つた。その後は、集中して作業に取り組み正確に織り進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻して登校したことを加味し、目標丈は教師と一緒に相談して決めた。目標丈の5cmのメジャーと織り終えた生地の丈を見比べ、「△」だったと振り返ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織り生地に取り付けたメジャーを指差したり、教師に確認するよう求めたりしながら、目標を意識して取り組んだ。</li> </ul>
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンを使って、指示線に従って直線に縫っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品名や製品の個数、目標数にむけて頑張ったことなどを友達の前で発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の目標に向けて集中して製品を作っている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して取り組んでおり、真っすぐに縫うことができた。教師のアドバイスを理解し、生地をつまんだり開いたりして微調整しながら縫い進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が問い合わせることで、工夫した点や頑張った点を整理することができ、みんなの前で、「真っすぐに縫うことを頑張り、ティッシュボックスカバーが完成した」と発表することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始前に出来高表を自ら確認し、だれよりも早く作業に取りかかっていた。教師が目標数までの数と本日の目標数を問うと、「あと○個だから今日は○個完成させたい」と応えるなど、目標まであと何個必要か考えながら、製作することができた。</li> </ul>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンを正しく使い製品を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から挙手し、製品名や完成した個数を友達の前で発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の目標に向けて製品を作っている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の問い合わせに対して、ミシンのガイドを使うか使わないか自分で判断して取り組んだ。教師と取り組む内容を確認することで、自己判断をせず、教師の指示通りに正しい方法で製作に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と発表する内容を確認することで、みんなの前で製品名と個数を発表することができるが、本日は時間が足りず、発表することはなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中独り言はあったが、目標を意識しながら取り組むことが難しかった。休憩をとることで集中を持続し、用意していた個数分に関して残り一工程のところまで製作を終えた。</li> </ul>

## Nさん 振り返り表

はたお きろくひょう 機織り 記録表	
ひづけ 日付	きろく 記録
10/25	もくやう 10 けっか → でらうせ えほんじ
10/29	20cm 5cm 3cm ○ ▲
11/10	10cm 10cm 15cm ○ △
11/11	10cm 6cm ○ ■
11/12	10cm 10cm ○ △
11/13	10cm 12cm ○ △
11/25	10cm 12cm ○ △
12/9	10cm 8本 ○ △
1/14	10cm 3cm ○ ▲
	○ △

## Aさん 製作計画表

☆作業の開始前、終了後に記入しましょう。

日付	今日やる仕事	目標達成まであと〇個	明日にちこす仕事
12/7(月)	ティッシュカバーの裏地とホーリングの部分	20	表地とホーリングの部分をぬう ひっくり返す
12/8(火)	裏地と表地とホーリング部分をぬう ひっくり返す	20	形づくり
12/9(水)	形づくり	20	形づくりの続き
12/10(木)	形づくり	20	裏地と表地をぬう
12/13(日)	裏地と表地をぬう	20	

※作業中に気付いたこと、思いついたことなど書きためましょう。(今作っている製品について、新製品について、販売について、などなんでもOK!)

本単元の反省から、本人が製作工程を考え計画的に作業を進められるよう、計画表を使用するようにした。

### <単元全体について>

単元終了後に、④のPシート（図IV-4-5）を持ち寄り、「流れ図」（図IV-4-6）を用いて個の学習評価の集約を行い、単元全体の学習評価を行った。

知識・技能：自分から材料を準備する姿が見られたり、基本的なミシンの操作や縫い方の技術が向上し、違う製品にも応用する姿が見られたりする生徒が多くなったことから、職業科1段階Aイ（ア）②③は達成したと評価した。

思考・判断・表現：自分が製作した製品の用途やデザインを日々教師と確認したり、販売練習を行ったりすることで、来場者に自分の言葉で、説明をする生徒が半数程度見られた。販売会に向けてのポップ作りで文章を自分で考える機会を設定することができず、会場の装飾作りのみで終わってしまった。このことから、目標に挙げた国語科1段階Aウエの内容は概ね達成できた生徒がいたが、「書くこと」アエに関しては、達成することができなかったと評価した。

主体的な姿：作業面では、日々目標を決めたり、出来高表を作成したことで、目標を達成しようと、作業室に素早く来て作業を始めたり、集中力を持続させて手早く作業に取り組む生徒が多くなった。また、目標数を達成するために、「今日は〇個作る」と考え、手早く機械を操作したりする姿も多く見られるようになった。販売会準備に関しては、「販売会促進チーム」を中心に、生徒同士で会場装飾について話し合ったり、お互いに励まし合ったりしながら装飾作りに取り組む姿が見られた。このことから、職業科1段階Aア（ウ）は概ね達成。美術科1段階Aア（ア）に関しても概ね達成と評価した。

## ⑤ 授業者による実践の振り返り

### ア 単元目標に関する成果と課題

単元目標を3観点に整理して単元の評価規準に結びつけたことで、これまで知識・技能や主体的な態度に偏りがちだった評価に新たな視点が加わり、学習内容の再考につながった。実態差がある集団のため、単元目標が大きくなりがちで、生徒によっては、思考・判断・表現の観点にかかる学習活動を組むことやその力を評価することの難しさはあるが、Pシートなどを活用し、一人一人の思考する姿や判断する姿を記録に残し、評価に生かそうという意識が強くなった。教師間で担当の児童生徒の目標や評価を共有し、手立てや次単元の目標を考える時間を確保することが課題である。

### イ 学習評価に関する成果と課題

個々に3観点で評価基準を設定したことにより、多面的に生徒の様子を見取り、評価を行うことができた。また、「何がどこまで身に付いたのか」を具体的に記録することで、学びを積み重ねることにつながっている。身に付けた知識技能をどのように活用し、表現し、課題を解決しているかといった3観点のつながりをもたせた評価基準の設定が難しく、更に一人一人の進路など、「実際的な生活場面」での様子につなげて指導していくことは課題として挙げられる。

(執筆担当：協力機関C校)

## ⑥ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

前単元の終了時に、生徒の様子「何が、どこまで、どのような支援があつてできたのか」や今後の目指す姿を整理し、これらの情報を基に本単元の目標（単元の評価規準）を設定している。Pシートや流れ図の活用により、本実践においても生徒の実態と単元目標とのつながりを意識した単元づくりが行われたと考える。

本実践では、生徒と一緒に、前単元の課題を踏まえてどのようなことができるようになりたいかを確認する機会を設けている。個々の単元の目標を生徒と共に考えることで、生徒の主体的な取組を促す実践となったと言える。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

単元づくりにおいて、個の目指す姿と単元の振り返りを集約した情報から、年度当初に立てた単元計画を見直す過程があり、その過程で新たに取り入れたい各教科等の内容や目標の段階を検討している。この過程を経ることで、学習指導要領に示された各教科等の目標や内容を踏まえた単元づくりが行われていることが分かる。

評価規準については、合わせて各教科等やその内容が示されており、これらは評

価規準設定の根拠となっている。今回の作業学習では、「知識、技能」、「思考、判断、表現」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれの単元の評価規準について、どの授業で評価するかが計画されていた。あらかじめ評価の場面を計画しておくことで、単元全体や各授業の展開を工夫することができたのではないかと考える。

#### イ 考察

本校では、これまでの研究で作成されたPシートや流れ図を活用して、PDCAサイクルに基づいた各教科等を合わせた指導の単元・授業づくりを全学部で取り組んでいる。その取組は、各教科等を合わせた指導で取り組んだ各教科等の内容をまとめ、年間計画を立てること、単元計画では、単元の概要や単元目標（評価規準）等を計画すること、単元目標（評価規準）と児童生徒の様子から個の評価基準を設定し、3段階で評価を記録しておくこと、単元終了時に、児童生徒の様子や今後の目指す姿を整理し、次の単元の計画を立てることなどである。

このような手続きにより、児童生徒の実態と学習指導要領に示された各教科等の目標や内容を踏まえた各教科等を合わせた指導を実践していると考える。Pシートや流れ図などのツールを使って、児童生徒の様子、主体的に学ぶための活動内容や手立て、評価規準などを可視化し、教師間で共有できていることも学習評価に基づく各教科等を合わせた指導の授業づくりを可能にしていると思われる。

（執筆担当者：柘植美文）

(2) 生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し個別に達成状況を評価した事例（令和4年度）

- ① 教科と単元名　生活、国語を合わせた「生活単元学習」  
「発見！学校の周りには何がある？」

② 学級の実態

本単元は6年生全体で取り組んでいく学習となるが、本時は各クラスでの学習となり、小学部6年生1組の児童6名（男子5名、女子1名）を対象に行う。主たる障害は知的障害で、自閉症スペクトラム、広汎性発達障害、ダウン症等を併せ有している児童が在籍している。学習面では、言葉でのやりとりをスムーズに行うことができる児童や日常的に使う簡単な単語なら理解できる児童等、小学部国語における1段階の内容に取り組んでいる児童から3段階の内容に取り組んでいる児童までおり、実態は様々である。コミュニケーション面では、小学部で6年間一緒に過ごしてきたことで、児童同士でコミュニケーションを取り、教員を介さなくても一緒に遊んでいる場面がみられる。

③ 単元設定理由と単元目標

ア　単元設定の理由

簡単な質問に答えたり、授業中に答えを発表したりすることができる児童が多くいる一方、自分の考えしたことや気持ちを相手に伝えることが苦手な児童が多い。友達と遊びを共有したり友達の様子を見たりすることが好きな児童は多いが、コミュニケーションが上手く取れていない場面があるため、「相手への伝え方」を意識し、学習を設定した。

イ　単元目標

- 学校周辺の自然や環境について関心を持ち、写真を撮ったり、地図に貼ったりすることができます。  
(知識及び技能)
- 自分が発見した物を自分なりの方法で表現することができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 活動の説明を聞き、意欲や自信を持って積極的に活動に取り組むことができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

## ウ 単元の授業計画及び評価計画

### (ア) 授業計画

時数	主な学習活動
1	本単元についての説明 散歩ルートの確認
2～4	学校周辺の探索
5～6	クラスごとに地図の作成
7	クラスごとに発表

### (イ) 評価計画 (以下の単元計画シート参照)

単元計画シート (各教科等を合わせた指導編)

記入者 中村 謙太

#### 1. 単元の概要

児童生徒の実態 (単元に関する各教科の実態を書く)

学部	小学校	学年・グループ	第6学年
【摘要】児童生徒の実態や本単元の内容等について			

本単元は主に第6学年の学級毎に活動を行う。本学級は6名（男児5名、女児1名）である。本学級児童は、学習面において各教科で1段階の目標に取り組んでいる児童から3段階の目標に取り組んでいる児童まで様々なが、児童同士のコミュニケーションが多く、教員が媒介にならなくて一緒に遊ぶ場面等が多く見られる。本単元に開拓した本児童の共通課題としては、「相手を意識した伝え方」である。簡単な質問等に答えることができるが、自分の考えたことや気持ちを伝えることが苦手な児童が多い。以上のことから、本単元では生活科の「コ 社会の仕組みと公共施設」「サ 生命・自然」国語の「B 書くこと」の目標や内容を踏まえ、学校周辺の環境で自分なりの発見をし、資料を作成するという学習を生活単元学習の形式で「発見！学校の周りには何がある？」という単元を設定した。

単元名	発見！学校の周りには何がある？				指導の形態	生活単元学習
関連する ・教科 ・段階 ・内容	教科	取り扱う教科	段階	内容	育成を目指す資質・能力	
小学校_生活	3段階 サ 生命・自然	(1) 日常生活に間わりのある生命や自然について関心をもって調べること (知識及び技能)				
小学校_生活	2段階 コ 社会の仕組みと公共施設	(7) 教師の援助を求めるながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとすること (思考力、判断力、表現力等)				
小学校_国語	2段階 B 書くこと ア 身近で経験したことについて、写真などを手がかりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること (思考力、判断力、表現力等)					

#### 2. 単元目標

学習指導要領の内容を踏まえて、単元目標を設定する

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学校周辺の自然や環境について関心を持ち、写真を撮ったり、地図に貼ったりすることができる。	自分が発見したものを自分なりの方法で表現することができる。	活動の説明を聞き、意欲や自信を持って積極的に活動に取り組むことができる。

#### 3. 評価規準

単元目標に準拠する形で評価規準を作成する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校周辺の自然や環境について関心を持ち、写真を撮ったり、地図に貼ったりしている。	自分が発見したものを自分なりの方法で表現している。	活動の説明を聞き、意欲や自信を持って積極的に活動に取り組もうとしている。

#### 4. 単元計画 (評価計画)

学習内容に合わせてどの観点を評価するかを記入する

時数	日	主な学習活動	教科等の関連や含まれる教科の内容			自立活動 ※自立活動の指導目標 との関連がある場合
			生活	生活	国語	
1	11/17	単元についての説明 散歩ルートの確認	コ 社会の仕組みと公共施設	サ 生命・自然	A 聞くこと・話すこと	<input type="checkbox"/> 健康の保持
2	11/17	学校周辺の探索①	イ 安全	サ 生命・自然	A 聞くこと・話すこと	<input type="checkbox"/> 心理的な安定
3	11/24	学校周辺の探索②	イ 安全	サ 生命・自然	A 聞くこと・話すこと	<input type="checkbox"/> 人間関係の形成
4	11/24	学校周辺の探索③	イ 安全	サ 生命・自然	A 聞くこと・話すこと	<input type="checkbox"/> 環境の把握
5	12/1	グループ毎に地図の作成①	コ 社会の仕組みと公共施設	サ 生命・自然	B 書くこと	<input type="checkbox"/> 身体の動き
6	12/1	グループ毎に地図の作成②	コ 社会の仕組みと公共施設	サ 生命・自然	B 書くこと	<input type="checkbox"/> コミュニケーション
7	12/2	地図の発表	コ 社会の仕組みと公共施設	サ 生命・自然	A 聞くこと・話すこと	
8						
9						
10						

## 単元計画シート（続き）

5. 個別の達成状況 評価 ◎：十分に達成できた ○：概ね達成できた △：達成できなかった（支援や活動の見直しが必要）

児童生徒名	評価につながる具体的な様子（※各教科等の状況についても記載する）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活	国語			
A	撮影した写真や場所を自分で選び、地図に貼ることができた。	写真的説明を自分で考えて書くことができた。	◎	○	○
単元をとおして：写真的タイトルを考えたり、貼る場所をiPodの地図と見比べながら貼ったりすることができた。					
B	撮影した写真を自分で選んで地図に貼ることができた。	必要な物を自分で用意し、写真的タイトルを自分で考えて書くことができた。	◎	○	○
単元をとおして：教員の説明をよく聞きながら活動に取り組んでいくことができた。					
C	撮影した写真を地図に貼ることができた。	必要なものや写真を自分で選ぶことができた。	◎	○	○
単元をとおして：場所カードや自分の撮った写真等をよく見ながら自分で選ぶことができた。					
D	撮影した写真を自分で選んで地図に貼ることができた。	写真的タイトルを自分で考え、教員と一緒に書くことができた。	◎	○	○
単元をとおして：見つけたものの名前を教員に教えてもらい、平仮名で書くことができた。					
E	撮影した写真を自分で選んで地図に貼ることができた。	写真的説明を自分で考えて書くことができた。必要なことをiPodで調べて書くこともできた。	◎	○	○
単元をとおして：活動の見通しを持ち、分からぬ時は教員に聞くこともあったが、自分で進めていくことができた。					
F	撮影した写真を自分で選んで地図に貼ることができた。	写真的説明を自分で考えて書くことができた。必要なことをiPodで調べて書くこともできた。	◎	○	○
単元をとおして：活動の中で気になったことを教員に聞いたりしながら、自分のペースで進めていくことができた。					

### 6. 単元における総括的な評価

#### 単元全体の評価、指導の評価、改善事項等

活動の説明をよく聞いている児童が多く、活動に移ると自分で進めていくことができる児童が見られた。活動の内容理解に不安があった児童も周りの児童の様子を見ながら取り組んでいくことができた。初めは不安そうに取り組んでいた児童も教員の言葉かけを受けて、自信を持って取り組むことができた。何をするか分かっていない児童も時折見られたが、端的に伝えることで何をするか理解できているようだった。教員間で「児童がどのように活動を進めていくか」について事前に打ち合わせを行ったが、いまいち共通理解できていない部分も見られたため、ポイントをしっかりと確認しておくべきだった部分も見られた。

## ④ 学習評価

### ア 単元で行った学習評価

単元計画シートを作成し、学習指導要領上から関連する教科・目標・段階・内容を示した上で、評価規準を設定した。授業後、設定した評価規準に照らして、児童の様子を担当間で確認して評価した。

### イ 評価に際してどのような姿を元に評価したのか

#### (ア) 知識・技能に関する児童生徒の評価

- 1段階 撮影した写真を地図に貼ることができた。
- 2段階 撮影した写真を自分で地図に貼ることができた。
- 3段階 撮影した写真や場所を自分で選び、地図に貼ることができた。

#### (イ) 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

- 1段階 必要な物や写真を自分で選ぶことができた。
- 2段階 必要な物を自分で用意し、写真的タイトルを自分で考えて書くことができた。
- 3段階 写真的説明を自分で考えて書くことができた。

#### (ウ) 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

必要な物を取りに行ったり、説明やタイトルを書いたり等、自分から活動に取り組んでいる様子や選択肢を提示され自分で選ぶことができた様子等

## ⑤ 授業者による実践の振り返り

### ア 単元目標に関する成果と課題

実態差がある学習集団で、1段階から3段階までの児童がそれぞれのやり方で達成することができる目標を設定した。単元計画シートを用いて計画していく中で、各教科での学習内容や学習状況を教員間で共通理解を図りながらそれぞれの児童の目標を確認することで、児童が取り組むべき活動と目指す姿について共有していくことができた。

### イ 学習評価に関する成果と課題

児童それぞれ表現の仕方や伝え方がそれぞれ違うため、個に応じた表現を評価することができるように事前に担当の教員で評価の確認を行っており、スムーズに評価を進められた。単元計画シートの中では、◎・○・△の3段階となっていたが、◎がつかない時には、授業の内容や課題の難易度、児童のその日の様子等、様々な要素があるため、◎のつかない児童がいた際には、教員間で話し合い、次回に生かすことができた。

(執筆担当：協力機関D校)

## (2) 実践に関する考察

### ① 単元目標の設定と評価規準の作成の工夫

本単元は、生活と国語の内容を取り扱うこととして整理している。単元目標は、「知識及び技能」は主に生活を、「思考力、判断力、表現力等」は国語を、「学びに向かう力人間性等」は二つの教科を踏まえ単元のまとまりを通した目標として設定している。「思考力、判断力、表現力等」の国語の内容の取扱いについては、国語で培った知識・技能を生活単元学習という生活に即した一連の流れの中でどのように発揮されるのか、思考・判断・表現をする児童の姿を見取るものとして設定されている。このように国語の授業で取り扱っている内容を関連させて生活単元学習で取り扱うことは、各教科等を合わせた指導を指導の形態として選択し、効果的な指導をするといった意味でも押さるべき視点である。また、評価規準は単元目標を受けて作成しているが、各教科の観点別学習状況の評価が行えるように整理している。各教科の観点別学習状況の評価では、個別に教科ごとに端的な文章記述と「◎」や「○」といった評語により評価することで、個別の指導計画への評価にもつなげることができたと考える。

### ② 考察

本単元は、小学部6年生の児童に対し、これまでの小学部の生活で何気なく散策をしてきた学校周辺のことを振り返る単元であったように感じる。認知等の高まりを受けて、学校周辺の興味ある事物を一人一人の視点で写真に撮り、その写真的説明を自分の持っている言葉を想起させて書き、さらにそれらを俯瞰的な視点で地図上に貼って整理をし

ていく活動を通して、それぞれの活動で各教科の見方考え方を働かせながら、つながりをもたせた単元となったと考える。散策をし、興味ある事物に注目するという内容であれば、生活科として指導を行うことが適當と考えるが、この6年間で培ってきた言葉を思考、判断、表現するといった「活用」の視点が本単元での児童の学びにつながるものであったと考える。また、地図上に貼る活動は、難しい地図概念の獲得に向けて、モニターで散策順序を追いながら示すと同時に、地図上でどこを歩いているのかを示しながら説明をするなど、継次処理と同時処理の両方の視点からのアプローチにより、児童が自分の撮った写真が地図上のどこに位置するのかを考えながら貼るという姿につながったと感じる。

本単元のように、計画段階から、これまでの学習集団としての学びや個々の児童の習得状況の確認をすること、各教科の見方考え方を働かせるような学習展開をすることは、児童のこれまで習得してきたものを生活の中での般化につながるものであり、各教科等を合わせた指導として意義のある活動となったと言える。

(執筆担当：真部信吾)

(3) 遊びの指導で、重複障害のある児童に共通の評価基準を設定し個別に達成状況を評価した事例（令和4年度）

①教科と単元名 国語、算数、体育を合わせた「遊びの指導」  
「ザブーン王国で遊ぼう」

②学級の実態

小学部重複学級の児童 18名（1～6年生）が対象である。本単元に関連した本児童の共通課題として、以下の3点が挙げられる。

- ・色や形、弁別などの理解が未熟で、関連した学習を国語や算数、自立活動などで取り組んでいる児童が多い。
- ・言葉によるやりとりが成立する児童が少なく、発語はあっても独り言のようになってしまっている児童が多い。また、自分から他者に要求を伝えることが難しい児童が多い。
- ・初めて行う活動に対して見通しを持ちにくく、自分から活動に取り組むことが難しい。

その他、身体障害者手帳を有している児童が多く、身体面での課題も大きい。

③単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

該当の指導要領の目標・内容と上記の児童の実態を考慮した上で、ダイナミックな粗大運動を好んで行う児童が多い実態を踏まえ、活動内容についてある程度取り組んだ経験もある「エアートランポリン」「大型トランポリン」の活動を主とする形で設定した。

イ 単元目標

○様々な種類の物の中から形や色に注目して、注視して取り上げたり、弁別したりすることができる。（知識及び技能）

（算数 1目標（1）／2各段階の目標及び内容 1段階（1） 目標A数量の基礎  
ア、C図形ア／（2）内容 A数量の基礎ア／〔数学的活動〕 ア（ア）参考）

○身近な人からの話し掛けに応じて注目し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）

（国語 1目標（2）／2各段階の目標及び内容 1段階（2）内容 〔思考力、判断力、表現力等〕 A話すこと・聞くこと ア参考）

○活動の説明を見聞きし、意欲や自信を持って、積極的に活動に取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性等）

（算数 1目標（3）／国語 1目標（3）／体育 1目標（3）参考）

## ウ 単元の授業計画及び評価計画

### (ア) 授業計画

時 数	主な学習活動
1 (12月 1日)	キャラクター・活動紹介、「海の生き物」の弁別、トランポリン
2 (12月 9日) 本時	キャラクター・活動紹介、「海の生き物」の弁別、トランポリン
3 (12月 16日)	キャラクター・活動紹介、「海の生き物」の弁別、トランポリン (次回のクリスマス会の活動に関連させるため、弁別するものをお菓子の写真カードに変更)

### (イ) 評価計画 (以下の単元計画シート参照)

単元計画シート (各教科等を合わせた指導編)

1. 単元の概要 児童生徒の実態 (単元に関する各教科の実態を書く)			記入者	佐竹慎之介	
学部		小学校	学年・グループ	重複1～6年生	
【摘要】 児童生徒の実態や 本単元の 内容等について				本授業は、小学部重複学級の児童18名(1～6年生)を対象に行われる。本単元に関連した本児童の共通課題としては、①色や形、弁別などの理解が未熟で、関連した学習を国語や算数、自立活動などで取り組んでいる児童が多い。②言葉によるやりとりが成立する児童が少なく、発話はあっても独り言のようになってしまっている児童が多い。また、自分から他者に要求を伝えることが難しい児童が多い。③初めて行う活動に対して見通しを持ちにくく、自分から活動に取り組むことが難しい。の3点が挙げられる。また、身体障害者手帳を有している児童が多く、身体面での課題も大きい。本単元では上記の指導要領の目標と児童の実態を考慮した上で、ダイナミックな粗大運動を好んで行う児童が多い実態を踏まえ、活動内容についてある程度取り組んだ経験もある「エアートランポリン」や「大型トランポリン」の活動を主とする「ザブーン王国で遊ぼう」の単元を設定した。	
単元名		ザブーン王国で遊ぼう		指導の形態	遊びの指導
関連する ・教科 ・段階 ・内容	教科	取り扱う教科	段階	内容	育成を目指す資質・能力
	小学部_国語	1目標 (3) 言葉で伝えあうよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上をはかる態度を養う。(学びに向かう力、人間性等) 1段階 A聞くこと・話すこと ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること(思考力、判断力、表現力等)			
	小学部_算数	1目標 (3) 数学的活動の楽しさに気付き、关心や興味をもち、学習したことと結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等) 1段階 数量の基礎 ⑦具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること(知識及び技能) 1段階 数量の基礎 ⑧ものとのととのを関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。 1段階 図形 ⑦具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること、⑧形を観点に区別すること、⑨形が同じものを選ぶこと(知識及び技能) 1段階 図形 ⑨ものとのとのとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、关心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと(思考・判断・表現)			
	小学部_体育	1目標 (3)遊びや基本的な運動に親しみことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等) 1段階 A体つくり運動遊び ア 教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと(知識及び技能) 1段階 A体つくり運動遊び ウ 簡単な合図や指示に従って、A体つくり運動遊びをしようすること(学びに向かう力、人間性等)			

2. 単元目標 学習指導要領の内容を踏まえて、単元目標を設定する		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
様々な種類のものの中から形や色に注目して、注視して取り上げたり、弁別したりすることができる。	身近な人からの話し掛けに応じて注目し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすることができる。	活動の説明を見聞きし、意欲や自信をもって、積極的に活動に取り組むことができる。

3. 評価規準 単元目標に準拠する形で評価規準を作成する		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な種類のものの中から形や色に注目して、注視して取り上げたり、弁別したりしている。	身近な人からの話し掛けに応じて注目し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりしている。	活動の説明を見聞きし、意欲や自信をもって、積極的に活動に取り組もうとしている。

## 単元計画シート続き

### 4. 単元計画（評価計画） 学習内容に合わせてどの観点を評価するかを記入する

時数	日	主な学習活動	教科等の関連や含まれる教科の内容			自立活動 ※自立活動の指導目標 との関連がある場合
			国語	算数	体育	
1	12/1	「海の生き物」の弁別、トランボリン	A 聞くこと・話すこと	数量の基礎、図形	A 体つくり運動遊び	<input type="checkbox"/> 健康の保持
2	12/9	「海の生き物」の弁別、トランボリン	A 聴くこと・話すこと	数量の基礎、図形	A 体つくり運動遊び	<input type="checkbox"/> 心理的な安定
3	12/16	「海の生き物」の弁別、トランボリン	A 聴くこと・話すこと	数量の基礎、図形	A 体つくり運動遊び	<input type="checkbox"/> 人間関係の形成
4						<input type="checkbox"/> 環境の把握
5						<input type="checkbox"/> 身体の動き
6						<input type="checkbox"/> コミュニケーション
7						

### 5. 個別の達成状況 評価 ◎：十分に達成できた ○：概ね達成できた △：達成できなかった（支援や活動の見直しが必要）

児童生徒名	評価につながる具体的な様子（※各教科等の状況についても記載する）			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
E	国語	導入の後の動きに注目しており、動く様子を追視することができた。エアートランボリンに乗っている際に、フレーズを言いながら教員が手添えと一緒に弾むと、教員に視線を向ける様子が見られた。			◎	◎
	算数	腰を曲げてかがむ姿勢を保持することが難しく、教員が拾って手渡す場面もあったが、立位の状態から膝をついて座るとき、目の前にあるカードを拾い上げることができた。箱に入る際は、教員が支えながら箱まで一緒に行くことで、箱の上でカードを手放して入れることができた。	○	○	○	○
	体育	エアートランボリンや大型トランボリンの上で仰向けやうつ伏せになって揺れを感じたり、自ら四つ這いの姿勢で動いたりするなど、体を動かすことができた。	○			○
単元をとおして：日常的に教員が姿勢を保持しながら活動する場面が多い児童ではあるが、本単元では、トランボリンの活動の場面で、教員の手が離れている状態でも取り組めていた。教員やキャラクターによく注目しており、視線を向け続ける様子がよく見られた。						
G	国語	「ザブーン」というフレーズを覚えて、自ら発音できた。授業後も覚えており、「ザブーン王子」と遊んだことを帰りの会で伝えることができた。			◎	◎
	算数	教員の言葉かけがなくとも、落ちているカードを自ら拾い上げ、4種類を弁別することができた。同時に2枚のカードを拾い上げることもあった。	◎	◎	○	○
	体育	揺れや軽大運動が苦手な児童ではあるが、自らエアートランボリンや大型トランボリンに乗って揺んだり、エバーマットの斜面を下から登ったりするなど、積極的に体を動かしている様子が見られた。	○			○
単元をとおして：キャラクターに期待感を持ち、全体的な物語の見通しを持って取り組めていた。授業が終わった後にも、本単元について本人の口から質問が出るなど、主体的に活動に取り組めていたことが見える様子が見られた。						
H	国語	教員が目の前で手本を見せて、「ザブーン」というフレーズを、教員の模倣をして近しい音で1音ずつ発声することができた。			◎	◎
	算数	入れる場所を間違えてしまうことはあったが、教員の言葉かけを受けつつ概ね正しく弁別することができた。特に後半になるとついで間違えることが減ってきた。カードを拾って箱まで運ぶ流れはひとりで行っていた。	○	○	○	○
	体育	大型トランボリン、エアートランボリンとともに上に乗って立った状態でひとりで跳びひねっていることが多かった。特にステージ上の大型トランボリンが好きだったようで、エアートランボリンからすぐにステージ上に移動していた。積極的に体を動かすことができた。	◎			○
単元をとおして：後半のトランボリンを使った活動については、以前に取り組んだことがあったこともあり、全体的に見通しを持って取り組めていた。初めてでやり方がわからない活動については拒否感を示したり、教員の反応を見ながら何となく取り組むような傾向にある児童だが、弁別の活動も間違いはひとつも拾って運び入れる流れがわかつて取り組むことができていた。						

### 6. 単元における総括的な評価

単元全体の評価、指導の評価、改善事項等		
重複学級という括りではあるものの、実態差が大きい集団ではあるが、それぞれの実態や捉え方、感じ方で活動に取り組むことができていたように感じる。全体制のストーリーを意識して見立て遊びのように進行できる児童、トランボリンや波（バルーン）で感覚的に楽しむ児童、キャラクターの登場に期待感を持つ児童など、様々な実態の児童にアプローチした設定ができた。合わせたそれぞれの教科の内容に触れつつも、「遊びの指導」としての良さを生かした形で、「遊びながら教科の学習ができた」という自然な流れで取り組むことができていた。		

## ④ 学習評価

### ア 単元で行った学習評価

別紙 単元計画支援シートを作成し、学習指導要領から関連する教科・目標・段階・内容を示した上で、評価規準を設定した。授業後、設定した評価規準に照らして、児童の様子を担当間で確認して評価した（全18人の児童のうち、実態の異なる6年生の児童を3人抽出して評価した）。

イ 評価に際してどのような姿を元に評価したのか

(ア) 知識・技能に関する児童生徒の評価

児童の実態によって、2～4種のカードを弁別したり、拾って箱に入れたりすることができていた様子などから。

(イ) 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

児童の実態によって、フレーズを覚えて話す、模倣して発声する、フレーズを言った教員に注目する様子などから。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

活動を嫌がる様子がなく、教員の言葉かけや手添え等の支援を受けつつも、自らカードを拾い上げて弁別したり、トランポリン等で積極的に体を動かしたりする様子から。

## ⑤ 授業者による実践の振り返り

### ア 単元目標に関する成果と課題

「単元計画シート」を作成するプロセスを踏むことで、指導要領上の教科の目標・内容のどの部分を取り扱っているのかをより明確にできた。そのため、合わせている中の教科の学習内容を把握することができ、年間で行うべき教科の学習内容を網羅し抜けがないようになるツールとして使用できると感じた。また、目標（評価項目）を中心に活動を構成し、明確に意識できることによって、担当教員以外の教員と目標の共有をすることができ、目標達成に向けて活動にメリハリを持って取り組むことができた。

### イ 学習評価に関する成果と課題

昨年度は「生活単元学習」、今年度は「遊びの指導」、ともに各教科等を合わせた指導で実践を行ったが、「単元計画シート」を使用することで、各教科等を合わせた指導として単元を設定すると評価の際に意識することが難しい、「合わせている」教科を意識し、教科に立ち返った評価を行うことができた。

（執筆担当：協力機関D校）

## （2） 実践に関する考察

### ① 単元目標の設定と評価規準の作成の工夫

本単元は、国語、算数、体育を合わせた「遊びの指導」である。知的障害の程度が高く、身体面での介助を要する等の重複障害である児童の学習集団で、小学部1段階の目標設定と自立活動の指導も意識した計画となっている。「知識及び技能」は主に算数を、「思考力、判断力、表現力等」は国語を、「学びに向かう力、人間性等」は各教科の目標及び体育の1段階の内容のまとめについて取り扱うこととして単元目標を設定している。評価規準は、単元目標に準拠する形で作成しつつ、取り扱う教科の観点別学習

状況の評価ができるよう、児童ごとに各教科の評価を記述するようにしている。重度重複障害の児童については、各教科等を合わせた指導を指導の形態として選択して実施するケースが多く、表現による把握の難しさ、認知しているかどうかの評価の判断の難しさがあることや、評価の妥当性を高めるためにそれぞれの教科の内容を具体的にする形で目標を設定することは有効であると考える。

## ② 考察

知的障害のある児童の指導では、繰り返し学習することで知識技能等を身に付けられるように指導することが重要とされており、本単元も毎時同じ流れで学習活動を繰り返すといった展開となっている。また、算数の見方考え方を働かせる場の設定、体育の主に動きをつくる場の設定をするなど場ごとに一つの活動を設定するといった構造化が図られ、それぞれの教科の視点で活動に取り組むことができるよう工夫している。これらの環境調整や教科の視点での活動の整理によって、児童は見通しを持って主体的に活動に参加できるとともに、児童の知識技能等の習得が進められ、各教科の観点別学習状況の評価を具体的な姿として記述することにつながったと考える。

また、重度重複障害の児童にとって、本単元のように大きい枠組みとしての「遊び」の中で各教科の資質能力を働かせることは、普段の日常生活や社会生活においても起りうる状況である。その際、目の前の事象に対して体験を通して解決を図ろうとする、身体運動により対応していくといった経験の積み重ねによって、因果関係がつながったり、各教科の見方考え方方に気付いたりしていくものと考える。単元計画段階から個々の障害の状態等を踏まえて、各教科のどの内容を取り扱うかを明確にしたことで学習活動が具体化されたこと、児童の興味関心を抱かせる場面設定により、より主体的に取り組みながら児童が外界の刺激と自己とを対話させながら資質能力を身に付けようとしたことは、重度重複障害のある児童の各教科等を合わせた指導の大変な視点であると考える。

(執筆担当：真部信吾)

(4) 作業学習で、段階別に評価規準を設定し生徒の自己評価も含めた学習評価をした事例（令和4年度）

① 教科と単元名

作業学習 「文化祭に向けて」

※本実践に関わる各シートは、本項末に添付する。

② 学級の実態

【中学部クラフト班（1年生3名、2年生3名、3年生3名）】

本校中学部には、クラフト班と陶工班の2つの作業班があり、学年縦割りで編成している。前期の作業学習では、道具等の扱いにまだ慣れない生徒が多く、教師と道具の使い方を繰り返し確認した。また、教師に確認せずに勝手に作業を進めて失敗が多くなったり、周りの人が気になって集中できずにいたりする生徒などもいた。作業学習を進めていく中で、これらの課題を解決しようと意識する姿も単元後半から見られるようになってきた。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

11月に開催する学校の文化祭に向けての作業学習となる。前単元の職業・家庭科「働くってどんなこと」では、働く基礎に関することや働く生活に関して学年ごとに段階を踏まえて学んだ。今回の作業学習では、その学びを生かしたり、自分で立てた目標を意識したりして作業製品づくりに取り組む。また、作業学習を単元化することで、教科などで学んだことを生かしたり、学校生活全般においても文化祭という一つの目標を共有できたりし、職業生活に必要な力の基盤を育成できると考える。

イ 単元目標

取り扱う内容のまとめ 【段階】：

- ・数学A 「数と計算」 イ整数の加法及び減法 【中学部 1・2段階】
- ・数学D 「データの活用」 ア身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること 【中学部 1段階】
- ・職業・家庭A 「職業生活」 ア勤労の意義 イ職業 【中学部 1・2段階】

知識及び技能	作業学習を通して、使用する道具等の特性や扱い方を身に付けたり、計算機を使って加法、減法の計算を行ったりするなど、自分の作業工程を確実に行うことができる。
思考力、判断	作業状況に応じて自分で確認や判断をして作業を進めたり、数学的

力、表現力等	な見方や考え方を發揮しながら効率的に製品を数え、出来高数を把握したりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	作業学習や販売を通して、製作することや販売することの喜びや、数学で学んだことを活用する楽しさなどを感じたりして、進んで取り組もうとする。

ウ 単元の授業計画及び評価計画（Mシートより抜粋）

授業計画		評価計画（評価の観点・評価方法）	
日	主な学習内容	数学科	職業・家庭科
10/24	日程・行程内容確認/自分の目標の発表/付箋紙デザイン		
10/25 ～ 11/12	個別の作業目標の確認/作業/片づけ/作業報告/自己評価/教師による評価/日程確認など	【思考・判断・表現/主体的】 個別の学習状況に応じて数学科で学んだ知識・技能を發揮して活用できていたか。 【評価方法】 作業評価シート/パフォーマンス/ロイロノート	【全観点】 道具等の取り扱い方や、作業状況に応じた行動、製作意欲など 【評価方法】 作業評価シート/パフォーマンス
11/13	文化祭（販売会）	【知・技】 計算機を使って会計における簡単な計算ができていたか。 【評価方法】 パフォーマンス	【主体的】 目的や相手を意識して販売に取り組むことができていたか。 【評価方法】 パフォーマンス
11/17	販売会場と作業室の片付け		
11/18	作業や祭りの写真や評価シートを見て、自分の目標が達成できたか振り返る	総合的評価	
11/19	売り上げの計算/各作業班の売り上げ報告	【知・技】 計算機を使って会計における簡単な計算ができていたか。 【評価方法】パフォーマンス/売上計算表	

#### ④ 学習評価

単元のまとめの観点別学習状況の評価（評価シートより抜粋）

		◎:十分達成 ○:概ね達成 ▲:○に満たない											
		1年			2年			3年					
段階		評価規準(求めたい子どもの具体的な成長の姿)			M M	A T	H M	T M	A M	K T	T Y	S T	M K
知技	1	・計算機を使いながら、会計における簡単な加法及び減法の計算をしている。	○	-	-	○	○	-	-	○	-	○	
	2	・計算機を使いながら、会計における加法及び減法の計算をしている。	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	
思判断表	1	・簡単な表やグラフを用いながら、製品の出来高数を読み取ったり考察したりしている。	▲	-	-	○	▲	-	-	○	○	○	
	2	・数量の関係に着目しながら、製品を効率的に数えている。	-	○	○	-	-	○	○	○	-	-	
主態度	1	・数学で学んだことのよさに気付き、そのことを学習に活用しようとしている。	▲	-	-	○	○	-	-	○	○	○	
	2	・数学で学んだことのよさを理解し、そのことを学習に活用しようとしている。	-	○	○	-	-	○	○	○	-	-	

#### 特記事項

1年MMさん:学習熟度は算数の小学部2段階相当。数量の違いや大きさに興味を持ち始めた。活用することは難しかったが数えようとする意欲は高まった。

2年AMさん:計算機で丁寧に操作しながら売上を計算できた。今後、3桁4桁の数唱の学習が必要である。グラフの読み取りは難しく、今後数学の授業で再度確認していく。

3年TYさん:数学の授業で学んだ10や20のまとめで数えることができ、作業期間中は自分で数え方を選んでやろうとする姿があった。また、数える時の表情が嬉しそうだった。

		◎:十分達成 ○:概ね達成 ▲:○に満たない											
		1年			2年			3年					
段階		評価規準(求めたい子どもの具体的な成長の姿)			M M	A T	H M	T M	A M	K T	T Y	S T	M K
知技	1	・作業学習を通して、使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱おうとしている。	○	○	○	○	○	○	-	○	-	○	
	2	・作業学習を通して、使用する道具や機械等の扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱おうとしている。	-	-	-	-	-	-	○	-	○		
思判断表	1	・作業に取り組みながら、作業状況に応じた行動に気付いたり、教師と確認して判断したりしている。	○	○	-	▲	○	○	-	○	○		
	2	・作業に取り組みながら、作業状況に応じた行動を考えたり、自分から判断したりしている。	-	-	○	-	-	-	▲	-	-		
主態度	1	・作業学習や販売会の活動を通して、製作することや販売することへの喜びや達成感などを得ている。	○	○	○	▲	○	○	-	-	-		
	2	・作業学習や販売会の活動を通して、製作することや販売することへの喜びや達成感を得て、進んで取り組もうとしている。	-	-	-	-	-	-	○	○	○		

#### 特記事項

3年生:3年間の作業学習を積み重ね、作業学習や販売会への意欲が高く、どの活動に対しても自分から進んで取り組んでいた。態度面は習熟度があまり関係ない。

2年KTさん:教師の確認をとらずに自分で判断してしまう面が時々あった。

2年TMさん:道具等の扱いは理解して取り組めたが、失敗してもそのまま放置していたり、自分のやり方にこだわりが強くなったりしがちがった。

1年HMさん:「つくる」ことへの意欲が非常に高く、教師に確認したり相談したりしながら初めての作業にも集中して取り組むことができていた。

3年TYさん:丁寧に作業はできるが、効率性を考えることが難しく、時間がかかってしまっていた。

## ア 知識・技能に関する児童生徒の評価

### 【パフォーマンス】

- ・道具等の扱い方を教師と確認し、道具等の特徴を捉えたり、適切に扱えたりしていたかどうか。

### 【パフォーマンス/売上計算表】

- ・販売会当日の会計や売り上げ計算の際に、計算機を使って正しく計算をしたり、金種の読み上げや桁数の認識などをしていたかどうか。

### 【作業評価シート】

- ・作業課題に応じて、使用する道具等の特性を理解したり、正しく扱おうしたりしていたか。

## イ 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

### 【パフォーマンス】

- ・数学科の授業で生徒の学習習熟度に応じた数の考え方や、数のまとまりなどを学習した。学習したことを活用しながら、その日に製作した作業製品を効率的に数えることができていたか。

- ・各作業工程において、効率的に作業を進めるために道具の扱い方や、教師への報告や相談などの仕方、工程後の製品の置き方や置く場所、片付け場所などを自分なりに考えたり、工夫しようとしたりする姿が見られたか。

### 【作業評価シート】

- ・毎時の振り返りにおいて、その日の自分の目標と結果（出来高数や態度面等）を比べてどのような自己評価をしていたか。また、教師からの評価を受けて次の作業ではどのような目標になったか。

### 【ロイロノート（アプリ）による出来高数シート】

- ・出来高数を示したグラフを見ながら、棒グラフの長さや数値に注目して比較したり多い少ないなどを判断したりしていたか。

## ウ 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

### 【パフォーマンス】

- ・数学科で学んだ考え方を使って数える楽しさや面白さなどを感じ、自分から数えようとしていたか。

- ・意欲的に作業に取り組んでいた姿や、文化祭で積極的に接客したり自分の役割を果たそうとしたりする姿など。

- ・毎時の振り返りにおいて、その日の自分の出来高や全体の製品の出来高などを知ったり、文化祭までの日程を確認したりしているときの様子。

- ・前時の作業学習での自分の課題を解決しようと取り組んでいたか。

## 【作業評価シート】

- ・単元全体を通して、学んだことや主体的に作業に取り組む姿などが見て取れるか。

### エ 個人内評価

生徒個人の作業学習の記録（作業評価シート）を用意し、毎時自己評価（◎：目標を超えた、○：目標と同じ、△目標に届かなかった）と教師からの評価を記していく（写真1）。評価欄には、その日の生徒の作業の様子等を記述したり、その日の目標に対する達成状況や作業態度等で記号による評価（特に素晴らしい場合は花丸）を記したりしていった（図1）。



写真1：作業評価シート

11/7 月	今日の活動 のりづけ	目標 80枚	結果 140枚 △	評価 ○
11/8 火	今日の活動 のりづけ	目標 80枚	結果 100枚 △	評価 △ 「挫折も入って失敗を覚へらる」

図1：作業評価シートの一部抜粋

### ⑤ 授業者による実践の振り返り

#### ア 単元目標に関する成果と課題

成果としては、数学科と職業・家庭科を合わせた単元目標の設定から評価の観点や評価方法を授業計画に沿って検討していくことにより、単元目標を達成するための具体的な学習内容を設定することができた。例えば、数学科の授業で学んだことを作業学習の場面で発揮できるように仕組んだことや、前単元（職業・家庭科「働くってどんなこと」）での気付きや学びを作業学習での個人の目標として掲示したことなど、教科等横断的な視点を持って単元を構成することができた。

また、これまででは作業態度や道具等の取扱いなど、職業・家庭科分野の内容に関する指導観に重きを置いて学習指導に当たっていたが、数学科の評価の観点を示したことにより、全ての教師が生徒の学習状況を踏まえながら数学科分野の内容に関する指導観を持って学習指導に当たることができた。

課題としては、本単元では2つの教科を合わせた指導で単元目標が設定しやすかったが、3つ以上合わせるとなると、単元目標の内容が複雑化することが考えられた。

#### イ 学習評価に関する成果と課題

成果としては、ICTを活用し作業中の様子の写真や動画、出来高数のグラフなどを作業評価シートに添付して可視化することで、その日の自分の作業学習を客観的に振り返りながら自己評価する生徒の姿が見られるようになった。そして、教師からの評価も記載した作業評価シートが毎時の個人内評価として見える形で積み上げることができた。

また、2つの教科ごとに評価規準を設定し、2段階ごとに生徒を振り分けたことで、単元終了後は労力を割かれることなく生徒一人一人の学習評価を整理することができた。

一方で課題としては、評価規準を考える際に、作業学習という学習の特性上、学習習熟度別で段階を踏んだ設定がよいのか、生徒自身のキャリア発達による評価規準がよいのか迷うことがあった。本実践を通して、数学科に関しては学習習熟度別における規準が適切であると感じたが、職業・家庭科においては、学年での違いが見られ、特に、学びに向かう力・人間性に関してはキャリア発達の視点で主体的態度の評価を考えることも加味する必要があると考える。

(執筆担当：協力機関A校)

M シート	中学部	領域・教科等名	単元名	期間	単位時間数	記入者
学習指導要領段階	作業学習	文化祭に向けて		令和4年10月24日～11月17日	14	T
学習概要	数学 A「数と計算」/ D「データの活用」 職業・家庭 A「職業生活」	イ 整数の加法及び減法【中学部1・2段階】 ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること【中学部1段階】 ア 勤労の意義【中学部1・2段階】 イ 職業【中学部1・2段階】				
	11月に催しされる学校行事「すずかけ祭り」に向けての作業学習となる。前単元の職業・家庭科「働くってどんなこと」では、働く基礎に関することや働く生活に関して学年ごとに段階を踏まえて学んだ。今回の作業学習では、その学びを生かしたり、自身で立てた目標を意識したりして取り組む。また、作業学習を単元化することで、教科等で学んだことを生かしたり、学校生活全般においても「すずかけ祭り」という一つの目標を共有でき、職業生活に必要な力の基盤を育成できると考える。					
単元目標						
知識及び技能	・作業学習を通して、使用する道具等の特性や扱い方を身に付けたり、計算機を使って加法、減法の計算を行ったりするなど、自分の作業工程を確実に行うことができる。					
思考力、判断力、表現力等	・作業状況に応じて自分で確認や判断をして作業を進めたり、数学的な見方や考え方を発揮しながら効率的に製品を数え、出来高数を把握したりすることができる。					
学びに向かう力、人間性等	・作業学習や販売を通して、製作することや販売することの喜びや、数学で学んだことを活用する楽しさなどを感じたりして、進んで取り組もうとする。					
【単元でねらう情報活用能力】情報の整理・比較						
観点を決めて情報を分類・絵・図・表・グラフを用いた整理、情報同士の共通点や相違点の比較						
【作業製品】・ちぎれる付箋紙・一筆箋・ポチ袋・フェルト加工製品・プランターケース・メモスタンド・タイルトレー						
B・S: 単元の進め方(挨拶・日程確認・個別の目標確認・作業・片づけ・振り返り) ・生徒に応じて教科のねらいや達成状況等を確認する機会を設ける。(例: 10のかたまりで数える、出来高数を比べるなど) ・作業後は生徒による自己評価と、単元目標に照らし合わせた教師からの評価を行う。 ・数字やグラフなどを用いて視覚的に達成状況が分かるようにする。 ・毎時の振り返りでは、評価の理由を生徒と確認して記述する。 ・出来高数などを計算する際に、生徒の実態に応じて電卓などを使用する。						
学習計画						
日付	曜	主な学習内容	教科	評価の観点・評価方法	職業・家庭科	
10月24日	月	日程・行程内容確認/自分の目標の発表/付箋紙デザイン	数学科			
10月25日～11月12日		個別の作業目標の確認/作業/片づけ/作業報告/自己評価/教師による評価/日程確認など		【思考・判断・表現/主体的】 個別の学習状況に応じて数学科で学んだ知識・技能を発揮して活用できていたか。 【評価方法】 作業評価シート/パフォーマンス	【全観点】 道具等の取り扱い方や、作業状況に応じた行動、製作意欲など 【評価方法】 作業評価シート/パフォーマンス	
11月13日	日	すずかけ祭り(販売会)		【知・技】 計算機を使って会計における簡単な計算ができるか。 【評価方法】パフォーマンス	【主体的】 目的や相手を意識して販売に取り組むことができていたか。 【評価方法】パフォーマンス/ビデオ撮影	
11月17日	火	販売会場と作業室の片付け				
11月18日	水	作業や祭りの写真や評価シートを見て、自分の目標が達成できたか振り返る		総合的評価		
11月19日	木	売り上げの計算/各作業班の売り上げ報告		【知・技】 計算機を使って会計における簡単な計算ができるか。		
留意事項・共通事項・準備物等						
・ロイノートで作業評価シートを作成(前期使用したシートを改善)・出来高をグラフ化できるようにロイノートで作成 ・電卓・作業日程表・作業目標のカード(前時の「働くってどんなこと」の単元で作成する) ・個別の指導計画の目標を照らし合わせた個別目標の確認						
評価標準(教科)						
		1段階	2段階			
知識・技能	・計算機を使いながら、会計における簡単な加法及び減法の計算をしている。	・計算機を使いながら、会計における加法及び減法の計算をしている。				
思・判・表	・簡単な表やグラフを用いながら、製品の出来高数を読み取ったり考察したりしている。	・数量の関係に着目しながら、製品を効率的に数えている。				
主体的態度	・数学で学んだことのよさに気付き、そのことを学習に活用しようとしている。	・数学で学んだことのよさを理解し、そのことを学習に活用しようとしている。				
評価標準(職業・家庭科)						
		1段階	2段階			
知識・技能	・作業学習を通して、使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱おうとしている。	・作業学習を通して、使用する道具や機械等の扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効率的に扱おうとしている。				
思・判・表	・作業に取り組みながら、作業状況に応じた行動に気付いたり、教師と確認して判断したりしている。	・作業に取り組みながら、作業状況に応じた行動を考えたり、自分から判断したりしている。				
主体的態度	・作業学習や販売会の活動を通して、製作することや販売することへの喜びや達成感などを得ている。	・作業学習や販売会の活動を通して、製作することや販売することへの喜びや達成感を得て、進んで取り組もうとしている。				
単元(題材)の評価(○:十分である △:検討が必要)						
期日	時数	内容	教材	学習グループ		
○	△	○	○	○		
全体を振り返って						
・学校行事等で時数が少なかった。次年度は前単元の時数を調整し、作業学習の時数を確保。 ・数学科と職業科を合わせた指導内容であった。また、数学科で学んだことを活用する場面があったり、教師側が数学の指導を意識することができた。 ・学年での態度面が違った。1年生と3年生の作業態度の違い。障害程度ではなく、これまでの積み重ね、キャリア形成ができている。 ・学習形態の学年縦割りのよさが、作業学習で現れやすい。 ・数学科で学んだことを活用する機会として適切であった。						

S シート	中学部 クラフト 班	領域・教科等名 作業学習	単元(題材)名／取扱項目等 文化祭に向けて	日付 10月24日(月)	記入者 T
本時のねらい	・前時の単元で学んだことを振り返り、作業学習での自分の目標を発表する。(思考力、判断力、表現力等) ・すずかけ祭りまでの学習に見通しを持ち、期待感を高める。(学びに向かう力、人間性等)				
時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価	
15分	1 ·昨年度のすずかけ祭りの様子を写真等で振り返る。 ·今年度のすずかけ祭りについて、日程や販売場所、スケジュール等を確認する。	·写真等を提示しながら、去年の感想などを聞いていく。	収集		
5分	2 ·作業班ごとに分かれる。				
15分	3 ·前単元で作成した作業学習の目標を発表する。	·一人ずつ発表後は、互いに励まし合えるように声掛けをする。	発信・伝達	発表の時間は十分であった	
10分	4 ·クラフト班の作業工程を確認する。	·作業日程を提示して、製品の見本を示しながら話す。			日程に変更点が多々あった
5分	5 ·今日の作業目標を確認する。	·ロイロノートで全員の作業シートを用意し、個別に目標を確認していく。			
20分	6 ·付箋紙のデザインをする。	·季節等に応じたイラストや写真を用意し、色などを確認しながら進める。			
10分	7 ·振り返りをする。	·一人ずつ出来高を確認し、自己評価後に教師からの評価も伝える。			
学習状況の評価	改善と志向				
・前単元の学習の振り返りを個人目標につなげている生徒が多くいた。 ・3年生はこれまでの作業学習の経験も含めて目標を立てていた。	・デザイン後の片付けに時間がかかった。布巾を用意して、クレヨンの跡はすぐにふき取るようにする。 ・ロイロノートによる作業評価シートはよく見ている。				
S シート	中学部クラフト班	領域・教科等名 作業学習	単元(題材)名／取扱項目等 文化祭に向けて	日付 10月26日 (水)～	記入者 T
本時のねらい	・自分の作業工程や道具御扱い方について教師と確認しながら取り組む。(知識、技能等) ・教師と自分のその日の作業目標について考え、作業後はその目標を達成できたかどうか振り返ることができる。(思考力、判断力、表現力等)				
時間	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	情報活用能力	授業の評価	
10分	1 ·今日の作業内容について確認する。 ·自分の作業目標を教師と一緒に確認する。	·作業のスケジュール表を提示して、今日の作業内容を伝える。 ·生徒の実態に応じて、出来高数や態度面等の目標を一緒に確認する。	収集		
50分	2 ·作業をする。 ちぎれる付箋、フェルト玉、プランターBOX、メモスタンド、タイルトレーレー	·作業中や作業後には、数学の見方・考え方方が働くように、生徒の実態に応じて、製品の考え方や数のまとまりなどに気付くことができるよう指揮する。 ·道具等の扱い方はその都度確認し、教師が見本で示したり、写真等で視覚的に提示したりしていく。	整理・比較		
10分	3 ·片づけをして作業の報告をする。	·片づけが終わった生徒からその日の出来高数を聞く。また、言葉で伝えることが難しい生徒はメモに数字を書くなどして報告するようにする。	発信・伝達		
10分	4 ·今日の自分の作業の出来高や態度面などを自分の目標と照らし合わせて、自己評価をする。 ・教師と評価を確認する。	·ロイロノートで作業評価シートを提示し、単元全体の評価が集約できるようにする。 ·ロイロノートでグラフを作成し、その日の出来高数をグラフで示して、数の意識化を図る。 ・自己評価基準を示し、生徒自ら挙手して評価した後、教師が総合的に個々の生徒の評価を伝える。 ・次の作業への意欲につながるように、生徒の作業の様子を認めながら、次の作業内容を伝える。	保存・共有		
学習状況の評価	改善と志向				

## (2) 実践に関する考察

### ① 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

本単元は、「働く意欲を培う」といった作業学習の趣旨を意図された単元であった。単元目標は、本単元で取り扱う各教科の目標や内容を整理されたうえで、数学の各内容や職業家庭の職業分野の内容を組み合わせて、資質能力ごとに目標設定がされている。取り扱う各教科の整理にあたっては、数学の生徒の取組状況や課題を、教科担任と情報共有をし、中心的な課題に関連した内容を単元目標として設定しており、各教科等との関連が明確な目標となったと言える。

評価規準は、取り扱う各教科の観点別学習状況の評価をすることを念頭に、それぞれの教科ごと、段階ごとに評価規準が作成されている。観点別学習状況の評価の実施にあたっては、計画段階から、パフォーマンスによる評価、作業評価シートによる教師の評価と生徒の自己評価といった方法を行うこととし、様々な視点からの評価が行われた。このように、様々な評価方法により評価を判断していくことで、評価の妥当性も高まっていくものと考える。そして、評価の実際として、○や○などの評価と合わせて、端的な記述により本人の様子が記述されていることで、次の単元や関連する教科への接続が可能となったと考える。

### ② 考察

各教科等を合わせた指導として、取り扱う教科を整理したうえで、設定された単元目標や評価規準、授業実践から評価までが適切に行われたポイントが二つ考えられる。

一つは、各教科の実践をどう関連させたかという点である。本単元を展開する際に、数学で取り扱っている内容や本人の状況を踏まえて学習活動が設定されたことで、教師の言葉かけがより数学の見方考え方を踏まえたものになっていたり、思考力や判断力が必要となる課題を設定して数学で既習した知識技能を活用して課題を達成しようと取り組む生徒の姿につながったりするなどが実際の授業で観察することができた。これは、各教科等を合わせた指導を選択する際の効果的な指導としての判断ができるものであろう。そして計画段階から整理されたことが重要であったと考える。

次に、従前から大事にされてきた生徒の作業学習における態度や姿勢、自己理解などに通じる個人内評価についても、評価（備考に記載）された点である。評価方法として自己評価を取り入れる中で、一年生時には評価が曖昧だった自己の評価を三年生になってより適切に自己評価ができるようになったという生徒の変容は、例えば、作業学習の制作した品の数を数えるといった数学の評価につながるものとは違うものであり、個人内評価として評価できるものであろう。このような個人内評価を生徒自身にフィードバックすることで、生徒のキャリア発達にも通ずる実践となったと考える。

（執筆担当者：真部信吾）

(5) 生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準と個別の目標を設定して学習評価した事例（令和4年度）

① 教科と単元名

生活単元学習（週時程表上は「生活」として設定）

『衣食住～ゴミの分別～』（社会科、家庭科を合わせた授業）

② 学級の実態 知的障害教育部門高等部1年

本学年は3クラス、計21名の生徒が在籍している。生徒のほとんどが本校小学部、及び中学部から進学している。このため、ADLの支援が必要な生徒もいるが、自力通学ができる、卒業後は福祉就労を目指す生徒も複数名おり、障害種、障害の程度は様々である。実態や生徒の個別の目標より、グループを編成し、授業に取り組んでいる。

学習面においては、見通しを持ったり、繰り返し取り組んだりすることで、落ち着いて活動に取り組むことができる生徒が多い。また、自身の生活や身の回り、今までの経験と学習内容を結び付け、考えることができる生徒もいる。新規の学習内容であっても、見本や手本を見たり、説明を聞いたりすることで、内容を理解して取り組むことができる生徒が多い。

本実践では、この中の1クラス7名（男子6名、女子1名）の生徒に焦点を当て、検証をする。このクラスは中～重度の知的障害および発達障害の生徒により構成されており、学習時には個別の支援が必要な生徒が大半を占めている。オープンクエスチョンに対し、自分の言葉で応答できる生徒も数名在籍しており、それが難しい生徒についても、選択肢を設けることで、意思の表出を促すことができる。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

〈本単元について〉

生活単元学習「生活」では、年間を通じて『衣食住』『栽培学習』『防災学習』『進路学習』等の分野に取り組んでいる。『衣食住』の分野では、卒業後の生活に向けて、継続して学習を行っており、1学期には「衣」に関する内容として、洗濯をテーマに洗濯機等の道具の使い方、干し方や畳み方等を学習した。

本単元では「住」に関する内容として、ゴミの分別から処理について学習する。本単元ではゴミを分別するスキルに加え、分別したものがどうなるのか、なぜ分別するのかを理解すること、ゴミの分別からリサイクルまでの過程を、体験を通して学ぶことで、卒業後の生活に活かしていくことをねらいとしている。

また、本校の作業学習では、班ごとに、古シーツを利用した裂き織りやペットボトルや空き缶の分別、牛乳パックを使った紙すき作業等に取り組んでおり、本単元で学習す

るリサイクルと密接に関連している。本単元での学習を通して、作業学習での学習内容のより深い理解や、意欲向上につなげることもねらいとしている。

〈各教科等を合わせた指導について〉

本校の生活単元学習「生活」では理科、社会科、家庭科、職業科、特別の教科道徳、自立活動を合わせるものとして設定している。具体的な学習内容については前述したとおり、卒業後の生活に直結する内容を中心に多岐にわたっている。本単元では、これらの教科等のうち、社会科と家庭科の2教科を中心に、目標の設定と評価をしていく。

イ 単元目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
〈学習指導要領との関連〉 身近な生活の中で環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 職業・家庭（中学部_2段階）家庭分野 C 消費生活・環境 イ環境に配慮した生活	〈学習指導要領との関連〉 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。 社会（中学部_2段階） エ産業と生活 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取り組みを捉え、その働きを考え、表現すること。	〈学習指導要領との関連〉 よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。 職業・家庭（中学部）家庭分野
消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。 家庭（高等部_1段階） C 消費生活・環境 イ消費者の基本的な権利と責任	社会（高等部_1段階） ウ我が国の国土の自然環境と国民生活	家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。 家庭（高等部）
▼ ゴミの分別方法やその後の処理について等、生活の自立に必要な消費や環境についての理解を図り、それらに関する技術を身に付けることができる。	▼ ゴミの分別が、どのように自分の生活に関連しているか考え、表現することができる。	▼ 家庭生活に必要なこと、自分の果たす役割に気付き、自ら進んで取り組んで生活を工夫しようとすることができる。

ウ 単元の評価計画および授業計画  
 <授業計画と主な評価の計画>

時数	実施日	主な学習活動	主な評価の計画			
			各教科等	知・技	思・判・表	主
1		ゴミの処理の方法について知る。 3Rについての概要を知る。	社会	○		○
		ゴミの分別マークについて知る。	家庭	○		○
			社会	○		○
2		ゴミの分別マークを基に、実際に分別する体験をする。	社会	○	○	○
		具体的なゴミの処理の方法について知る。	社会	○	○	○
3		リサイクル体験①	家庭		○	○
4		身近なりサイクル製品を知る。	家庭	○	○	
5		リサイクル体験②	家庭		○	○

<各時の評価計画>

時数		単元の評価規準
1		・ゴミの分別方法について知り、分別のルールを知ることができる。 ・3Rについて概要を知り、分別が生活に密接にかかわっていることを知り、興味を持って取り組むことができる。
2		・マークに注目して、正しくゴミを分別することができる。 ・友達と教えあう等の関わりを持ちながら、分別に取り組むことができる。
3		・リサイクルの過程を意識して、製品制作に取り組むことができる。 ・自分の実生活と結び付け、製品ができる過程に興味を持って取り組むことができる。
4		・自分の生活や作業班での活動の例を通して、リサイクルの意味を理解することができる。 ・自分の実生活と結び付け、製品ができる過程に興味を持って取り組むことができる。
5		・リサイクルの過程を意識して、製品制作に取り組むことができる。 ・自分の実生活と結び付け、製品ができる過程に興味を持って取り組むことができる。

<授業の展開> \*第3次

時間	学習内容	指導上の留意点	備考
25分	1 あいさつをする。	・MTに注目できるように言葉掛けをする。 ・サインを交えてあいさつする。	
	2 前時の復習をする。	・前時及び、単元の流れをTV又は模造紙等を活用し、説明する。	・ホワイトボード
	3 本時の学習内容を確認する。	・前時に分別したゴミを用いて、リサイクル製品を作ることを確認する。 ・使用する材料のみを紹介し、何ができるか、期待感を持たせる。	・牛乳パック ・ペットボトルキャップ ・Tシャツ
	4 リサイクル製品の制作をする。 1組→紙すき 2組→ペットボトルキャップコースター 3組→Tシャツマイバック	・それぞれの教室に分かれ、リサイクル製品の制作を行う。 ・ミキサー、アイロン、ハサミなど、各教室で使用する物品の管理には十分注意する。	・紙すきセット ・アイロン ・クッキングシート ・ハサミ

15分	5 できあがったリサイクル製品の発表をする。 (本時の振り返り)	・制作したリサイクル製品をクラスごとに紹介する。 ・材料とリサイクル製品を比較できるよう、ホワイトボードに掲示する。	
	6 挨拶をする。	・MTに注目できるように言葉かけをする。 ・サインを交えてあいさつする。	

#### ④ 学習評価

##### ア 単元で行った学習評価

【個別の評価】			評価	◎：十分に達成できた	○：概ね達成できた	△：達成できなかった	特記事項 (個人内評価等)
生徒	各教科等	段階	内容のまとめ	評価の観点	評価の視点	評価	
A	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	マークを見て、ゴミの分別を行うことができる。	◎	マークを理解し、分別することことができた。教員と一緒に意欲的に制作することができた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミと制作したリサイクル製品とを比較し、再利用の仕組みが分かる。	○	
	主体的に学習に取り組む態度				見本を見て、教員の支援を受け入れながら取り組むことができる。	◎	
B	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	マークを見比べ、ごみを分別することができます。	◎	マークを見つけて印をつけ、分別することができます。ゴミがリサイクル製品に変化する様子をよく観察し、取り組むことができた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミと制作したリサイクル製品とを比較し、用途の違いを理解し、制作に取り組むことができる。	○	
	主体的に学習に取り組む態度				教員や友達のやり方を模倣して、生活経験と結びつけながら、自ら進んで活動に取り組むことができる。	○	
C	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	自分の生活経験と結びつけ、ゴミの処理の流れについて、具体的に理解することができます。	◎	分別されたゴミとリサイクル製品とで用途の違いを理解し、リサイクルの仕組みを理解することができます。生活の中でゴミを捨てる際に、「紙? プラ?」と質問するようになった。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミから製品ができる過程を理解し、リサイクルと関連付けながら取り組むことができる。	◎	
	主体的に学習に取り組む態度				実生活の中で、取り組めそうな内容について、自ら進んで取り組もうとする。	◎	
D	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	自分の生活経験と結びつけ、ゴミの処理の流れについて、具体的に理解することができます。	◎	分別したゴミから何を作るのか具体的に教員や友達に説明しながら取り組むことができた。リサイクルの仕組みを理解できた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミから製品ができる過程を理解し、リサイクルと関連付けながら取り組むことができる。	◎	
	主体的に学習に取り組む態度				実生活の中で、取り組めそうな内容について、自ら進んで取り組もうとする。	○	
E	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	マークを見て、ゴミの分別を行なうことができる。	◎	マークを理解し、分別することことができた。分別したゴミとリサイクル製品を指さしながら教員と一緒に確認できた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミと制作したリサイクル製品とを比較し、再利用の仕組みが分かる。	○	
	主体的に学習に取り組む態度				見本を見て、教員の支援を受け入れながら取り組むことができる。	○	
F	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	ペットボトルのボトル、ラベル、キャップ等、材質や形を見たり、触ったりし、分別することができます。	◎	ペットボトルの分別では、ボトルとラベル、キャップなどを正しく分別することができた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミと制作したリサイクル製品と、用途の違いを理解し、制作に取り組むことができる。	△	
	主体的に学習に取り組む態度				見本を見て、教員の支援を受け入れながら取り組むことができる。	○	
G	家庭	中学部2段階	C消費生活・環境	知識・技能	マークを見比べ、ごみを分別することができます。	◎	マークに着目し、分別することことができた。教員と一緒にできる活動を選択し、取り組んでいた。
	社会	中学部2段階	工産業と生活	思考・判断・表現	分別したゴミと制作したリサイクル製品とを比較し、用途の違いを理解し、制作に取り組むことができる。	△	
	主体的に学習に取り組む態度				教員とのやりとりを通して、活動できる内容を自分で選択し、取り組むことができる。	○	

イ 評価に際してどのような姿を基に評価したのか

(ア) 知識・技能に関する児童生徒の評価

ゴミの分別については、中学部段階から継続して学習しており、識別マークや、実際に分別して処理することについて、理解をしている生徒が多い。重度で学習支援が必要な生徒についても、分別する物を一つ一つ手に取り、自分で判断して箱へ分けて入れる姿がみられた。また、学校での清掃活動等において、ゴミを自主的に分別して捨てる姿が見られる等、実生活に活かしている姿から、知識の定着が図れていると評価した。

(イ) 思考・判断・表現に関する児童生徒の評価

リサイクル体験として、牛乳パックを利用した紙すき、ペットボトルキャップを使ったコースター作り、古着を使ったエコバッグ作りを実施した。対象クラスではコースター作りを行ったが、キャップがアイロンの熱で溶け、つながっていく様子を楽しみ、自分からアイロンや材料に手を伸ばし、主体的に活動に参加する様子がみられた。一方で、ゴミとして捨てたものが活かされたという実感からくる表現（驚きや喜びの表出）がみられた生徒は少なく、知識の定着には学習の積み重ねが必要である。

その中で、一部の生徒の生徒からは、「コースターができた」「これにコップをおく」等、ゴミとして認識していた物が他の物に変化し再利用できたと実感する発言もあった。リサイクルという言葉を知ることはあっても、物が変容し異なる用途で使用できることを理解することは難しいが、体験を通して、実はリサイクルは身近なものであると感じることで、より意欲的に取り組めた様子であった。

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度に関する児童生徒の評価

ゴミの処理は日常生活に直結するものであり、日々の様々な場面でその学習が活かされるものであるといえる。授業中の発言や取組に関する興味関心、意欲の評価の他に、学校生活全般において、どのような場面で活かされているのかを評価していくことがより必要であった。今回の授業の後には、「これは紙かな？ プラかな？ どっちかな」と口にして確認しながらゴミを捨てる生徒や、製作したリサイクル品を気に入り、何を利用してどのように作ったのかを報告する生徒、家庭内でもゴミの分別やリサイクルについて話題にしている生徒もいた。また、作業学習での発言や作業への取組が変化した生徒もあり、自身の作業もリサイクル活動の一つであると理解が深められた生徒も多かった。日常生活に直結した授業であるからこそ、本単元での学習内容や評価を学校生活全般における指導の改善に活用していくことが必要であり、教科等横断的な視点においても高い学習効果が得られたと感じている。

（執筆担当：協力機関G校）

#### 4. 考察

特別支援学校（知的障害）の学習の指導においても、児童生徒の学習状況の評価を活用して、指導と評価の一体化を図ることが求められている。児童生徒の学習評価に当たっては、目標及び評価規準の設定やプロセスをどのように進めていくのか、児童生徒一人一人の障害の状況や知的発達の実態に応じた指導を行う上で、とりわけ重要な視点となる。

同校では、授業改善を意図し、一昨年度より、校内研究を通じて各学部で選定した教科について、単元ごとに授業の学習状況の評価と授業の振り返りを行う「単元振り返りシート」を作成している。授業担当者間で単元振り返りシートを基に単元ごとの授業評価および児童生徒の学習評価を行うことで、単元ごとに児童生徒に身に付けさせたい力が明確となった。児童生徒に付けたい力が明確になったことで、学習指導における目標の達成に向けた具体的な授業場面を想定し、観点別の評価規準を基に児童生徒一人一人の学習状況を分析的に評価することが可能となった。児童生徒に身に付けさせたい力を踏まえた3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）を基にした単元目標及び評価規準の設定を実践に活かすことで、目標に準拠した評価を着実に実施していくことができるようになりつつある。ここで得られた学習状況の評価を蓄積することで、結果を児童生徒の確かな育ちにつなげる指導内容・方法等の在り方に迫ることが期待できる。

今後は、学習評価の観点を基に、児童生徒の学習活動と期待される姿を想定した評価規準を設定することにより、目標や指導内容、手立ての妥当性、信頼性を意識した具体的な授業改善につなげていくことが重要となる。一方、事例研究として取り組んだ成果を全校的に広げるという視点から、評価規準設定の意義と方法について全校的に学びを深めると共に、評価規準を設定した観点別学習評価の実践に学校を挙げて取り組むことで、指導と評価の一体化を高い次元で進めることになると考えられる。児童生徒の学習状況を的確に判断し、学習状況の評価を児童生徒や保護者に返すとともに、教師による支援や単元指導計画等を見直し改善していくためには、単元指導計画を作成する時点で、指導と評価の一体化が図れるような工夫をしていくことが求められる。

今回の取組で得られた成果は、同校におけるカリキュラム・マネジメントを進めていく上で貴重なものであり、同校の実態に応じてさらなる改善に取り組みながら、児童生徒一人一人の障害の状況や知的発達の実態に応じた指導の充実に向けて着実に進めていくことが期待される。

（執筆担当：横倉 久）

(6) 生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に生活年齢に応じた共通の評価規準を設定した上で、段階別の評価規準を用いて学習評価をした事例（令和4年度）

① 教科と単元名

生活単元学習「はるをさがそう」

② 学級の実態

知的障害教育を主とする特別支援学校の小学部2年の男子児童4名、女子児童1名で、小学部1段階～2段階の内容を中心に学習している。それぞれの児童が言葉や身振り、写真カード等で気持ちを伝えてやりとりすることができる。また、対象物を見て自分なりの考えをもったり、友達が何をしているのかを見て真似したりするなどが学級全体で見られる。また、身近な出来事や事物に関心をもったり、関心をもった事物のイメージを教師や友達に伝えたりするなど、各教科等の指導内容の学びに広がりが見られる集団である。

③ 単元設定理由と単元目標

ア 単元設定の理由

本校では、学習指導要領の内容を基にした12年間を見通した年間指導計画及び単元配列表が作成されており、一人一人の習得状況に応じて学んでいる。また、各教科等の指導内容について効果的な指導形態を教科会で検討し、各教科等の年間指導計画に、主な指導場面となる指導形態（教科別の指導もしくは各教科等を合わせた指導）についても明記している。これらが単元設定の理由の一つになっている。

さらに、今回の単元では、以下に示す教科を合わせることにより効果的に学ぶことができると考え、生活単元学習として設定した。

○生活科「生命・自然」…4月は花や生き物が活発化する時期であり、子供にとって変化が分かりやすいこと

○国語科「聞く・話す」…花や生き物散策を通して、様々な事物や言葉の種類に触れる機会があり、児童が主体的に言葉を使おうとしやすいこと。

○図画工作科「表現」…花や生き物の散策を通して、実際に見たことから、想像したり、感じたりしたことを描き表しやすいこと。

これらの単元を組む際に図画工作科や生活科を分けて指導すると、週時程で決められた1時間という設定や曜日の設定では、「この45分間はこの教科の内容を教えるので、他教科の内容をねらえない。」「思いがあるうちに描きたいけど、時間割変更が難しく○曜日まで待つ。」等の状況が起きることが想定される。知的障害の学びの特性として、知識が断片的になりやすいという特徴があるからこそ、この単元では各教科等を合わせた指導という枠

組みを活用し、1単位時間や単元全体で効果的に合わせて指導することが、資質・能力を最も効果的に育むことができると思った。

上記の年間指導計画等の位置づけと、効果的に学ぶことができる理由から単元設定をした。

#### 【実践に当たって～単元案の活用～】

本校では、日々の単元を実施するに当たり、単元案を活用して、資質・能力の明確化、内容のまとまりごとの評価規準、主体的・対話的で深い学びの設定場面、評価計画、学習評価等について、授業者が整理して単元を実施している。これは、悉皆研修での指導案の形式になっていたり、個別の指導計画の学習評価と連動していたりと、日常の実践が全てつながるようになっている。

「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」として、実際の単元案を通して、どのように授業づくりと学習評価に向き合ってきたか③イより紹介したい。

イ 単元目標の方法

**★印及び赤い点線の枠内は取組の内容説明。**

## 単元案

本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
小学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
身近な生活で扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、友達と一緒に課題を解決していく力	自ら学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

(生活単元学習) 単元案	単元・題材名	「はるをさがそう」	 学校教育目標と各学部目標を常に明記し、その関連を意識して授業づくりを行っている。
--------------	--------	-----------	--

【単元・題材で育成する資質・能力】 主に小学部2段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科	活動や体験の過程において、自分自身、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自身をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

 段階の目標を明記し、どんな資質・能力を育むのかを明確にする。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部） 生活科2段階 サ生命・自然

内容のまとめごとの評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な生命や自然について知ることができる。	身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとしている。	
 令和2年4月文部科学省から示された「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」(*以下学習評価参考資料とする。)に基づいて、単元で育む資質・能力の具体的な評価規準を設定する。			

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
国語科	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようとする。	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようとする。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

各教科等を合わせた指導として、合わせている教科等の資質・能力、評価規準を全て明確にし、学習評価を行

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部） 国語科2段階 A聞くこと・話すこと

内容のまとめごとの評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。	身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしようとしている。	教師や友だちとのやり取りを通して進んで言葉による表現に親しんだり、自然に触れた学習を生かして事柄と語句を結びつけたり、語句から事柄を思い浮かべたりしようとしている。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
図工科	形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようする。	表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりできるようとする。	進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、作り出す喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部） 図画工作科2段階 A表現

内容のまとめごとの評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いについて気付いている。</li> <li>・身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくつたりしている。</li> </ul>	<p>形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている。</p>	つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。

★ 学習評価参考資料に基づいて、共通的事項についても明記し、指導と評価の一体化を図る。

④ 授業計画（単元構想：「何を、いつ、どのように」育んでいくのか）

★教科等の枠を越えて育成をを目指す資質・能力について、何を育むのか明確にして指導する。

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる資質・能力			現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力			本校ならではの力
言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	地域で起る災害等の緊急時に對応する力の育成	こへに力	感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成	自己理解・自己実現の育成

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

展開	教科	知・技	思・判・表	主	横断	●○何を学ぶか【各教科等の学習活動】 【どのように学ぶか】 *主:対:深(主体的・対話的で深い学びの設定) *習得・活用・探究(学びの過程を考える)	教科等の特質に応じた子どもの学びの過程(習得・活用・探究)を考え、単元構想していく。
第一次	生活	○	○			4/12(2h) ●はるにはなにがあるかな? ○春に関心をもったり、秋冬と春を比較して四季の特徴に気づいたりすることができ る。【生】主: 国語: 子どもがどのように学ぶのか、知的障害の特性に応じた主体的で対話的で深い学びについて、単元構想の時に設定していく。 【国】主対: 春から連想を振り返りながら、春の季節の特徴を表す言葉に親しむことができるようになる。	習得
	国語	○	○				
	*自立活動(個々)						
第二次	生活	○	○	○	情	4/13②, 14, 18②, 20②, 21(7h) ●はるをさがそう ○校庭や身近な公園に行き、自然に触れ、春の特徴や自然に関心をもつことができる。○探した春のものと語句を結びつけたり、事柄を思い浮かべたりし、それらをみんなに云えようとすることができる。【生】主: 校庭や地域の公園に行き、自然に触れ、春から連想したものや春を感じたものを実感し、自己のキャリア(経験)と関連させて学ぶことができる場を設定する。【生】国語: 先生や友だちの集めたものを見たり聞いたりし、自分の考えの幅を広げ、同じものを探そうしたりすることができる。【国】主対: デジタルカメラで写真を撮ったり、見つけたものを話したり文字に書いたりして先生や友だちに伝えたり、友達の考えを見たりする場を設定する。	活用
	国語		○	○			
	*自立活動(個々)						
第三次	図工	○	○	○	言	4/25, 26, 28 (3h) ●はるのてんらんかいをしよう。 ○見つけた春の植物などから春のイメージの色を表すことができる。 ○おうちの人と行う春の展覧会で、春のイメージをもちながら作った製作物を見せたり、見つけた春のものを伝えようとしている。【図】主: 見つけた植物や生き物の実物や写真を見たり、体験を振り返ったりしながら、春のイメージの色を考えられるようにする。【図】国語: 先生や友だちが作った春の製作物を見ながら、イメージを膨らませたり、違ったイメージに触れたりすることができるようになる。【国】(言) 深: 春の展覧会で、おうちの人に対して、見つけた春のものや、春をイメージして作った製作物を、言葉をもちいて伝えられるようにする。	探究 活用
	国語						
	*自立活動(個々)						

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「現在の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「今後の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察
国語科		「いろいろなことばみつけた」	「なんのおとかな？」

★単元に関する他教科等のつながりを確認する。他の場面で学んだことの活用場面を意図的につくり、活用の幅を広げ、教育活動の質の向上を図ることができる。

⑤ 学習評価 ★印及び赤い点線の枠内は取組みの内容説明。

ア 単元で行った学習評価（内容のまとめごとの評価規準と観点別学習状況の評価）

\* 主に三人の児童の学習評価から、評価の在り方について考える。

		①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	観点別学習状況の評価
A 2段階	生活	<p>①身近な生命や自然について<u>知ること</u>ができる。          ②身近な生命や自然の特徴や<u>変化が分かり</u>、それらを表現しようとしている。          ③身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、<u>身近な自然に関心をもち</u>、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。</p> <p>★ 評価規準に従って、観点別に学習評価する。①「<u>知ること</u>」②「<u>変化が分かり</u>」とはどういうことなのか、授業者が具体的な場面を想定して授業をすることで学びを見取ることができた。学習評価を繰り返すことで、授業者が評価規準に対応した具体的な学びの姿をイメージして指導と評価を一体化し、授業力向上につながる。</p>	<p>①春の生き物や植物が載っている探検カードを見ながら、「スイセン」や「オオイヌノフグリ」など、探すまでに知らなかつたものを見つけることができた。一緒に写真を撮ると、はじめは目的物が映っておらず、「うつるよう撮って。」と探す対象を把握していた。</p> <p>②春をさがそうで見つけたものを自分たちで作った掲示と、秋をさがそうで作った掲示を見比べて、春の掲示を見て「<u>秋のものはない</u>。」と、季節の違いを感じ伝えることができた。</p> <p>③秋を探しにさくらホールへ行った時と比べて「探す」姿勢が明確になっていた。秋の時は、校外学習に気持ちが弾んで、友達の後を追いかけたり、お世話したりという感じであった。今回は、特に教師と2人の時には、<u>しっかり屈んで座り、集中して「探検カードを見て」「咲いている花などに目を向け、見比べ</u>」「見つけて、『あった』と表し、見つけたことを示すシールを貼る」ことができた。</p> 
	国語	<p>①身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。          ②身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしようとしている。          ③教師や友だちとのやり取りを通して進んで言葉による表現に親しんだり、自然に触れた学習を生かして事柄と語句を結びつけたり、語句から事柄を思い浮かべたりしようとしている。</p>	<p>①教師と一緒にしながら、探検カードを見て、探す春の生き物を声に出しながら「スイセン」「オオイヌノフグリ」などなじみのなかつた植物の名前に触れることができた。</p> <p>②「タンポポはどれかな？」など、教師からの問い合わせに探検カードを指さすなどして答えることができた。</p> <p>③春のものの実物や写真を見て名前を答えて、なぞり書きをして表すことができた。特に、名前については今まで知らなかつた「スイセン」を覚えて、絵で表す際にも、印象に残った植物として選択する際に名前を声に出して答えていた。</p>

		<p>①・自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いについて気付いている。 ・身近な材料や<u>用具</u>を使い、かいたり、形をつくったりしている。</p> <p>②<u>形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている。</u></p> <p>③<u>つくりだすことの楽しさ</u>に気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>①黄色とピンクを選んで、<u>たんぽ</u>で色を付けることができた。</p> <p>②お気に入りの春では、スイセンを一番に選び、同じ色の黄色を選んでポンポンと色づけをすることができた。はじめにピンクを選び、「これは何?」と聞くと「プール? (確かに四角を描いていた)スイセンのかな?」と聞いてうなずき、「ピンクは咲いていたかな?」と聞くと「うん。」とうなずいていた。「咲いてほしかったってことかな?」と聞くと、またうなずき、そういうことにしてしまった。しかし、<u>ほとんど</u>ピンクを選ぶAが黄色を選んで、しっかりスイセンと答えたことは、しっかりイメージを持っていたといえるのではないか。</p> <p>③<u>制作をやるよ、</u> <u>というと、「やったー!」と言っていた。</u>普段は「もう終わり。」と言って早々に終わりにしてしまうことも多いが、自分の作品に長い時間取り組んでいた。</p>
A 2段階	図工	<p>★</p> <p>図画工作科の「思考・判断・表現」について、共通的事項を評価規準に設定することで、指導と評価の一体化が図られた。</p>	

### 各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮された姿

#### 【言語能力】

○「語彙の段階的な獲得」「言語理解」等、学んだことを活用できる言語能力の育成を図る。

#### 〈評価〉

実際に身近な公園に出掛け、今まで知らなかった「スイセン」や「オオイヌノフグリ」に触れ、印象的だった春の生き物として選んでお気に入りの春としてたんぽと絵の具で表すことができた。自宅でも「スイセンを見つけたよ。」と母に話していたということであった。

また、ピンクのスイセンを描いた場面では、ピンクのスイセンは実際に咲いていなかつことから、どんな思いでピンクを選んだかを教師とやりとりをしながら振り返ることができた。

		<p>①身近な生命や自然について知ることができる。      ②<u>身近な生命や自然の特徴や変化</u>が分かり、それらを<u>表現</u>しようとしている。      ③身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、<u>生活に生かそう</u>としたりしている。</p> <p>★児童一人一人の学習評価に向き合うことで、「何が身に付いたのか」を明確にし、その後の授業改善につなげる。</p>	<p>①校庭や鷺内稻荷神社、さくらホールへ向かい探検カードにある春の生き物を探すことができた。      ②お気に入りの春を描く中で、<u>アリの巣をつついでアリがたくさん出てきた様子</u>を描いており、<u>アリの行動の様子</u>を分かつて表現しようとしていた。      ③特に、見つけたアリとカエルは大のお気に入りで、カエルは袋に入れて持ち帰るほどであった。<u>休み時間にふれあいコートでカエルを見つけると「カエル！」と教師を呼んで見せる姿</u>が見られ、身近な生き物への関心が高まった様子が見られた。</p> 
B 2段階	国語	<p>①身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。      ②身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、<u>語句などから事柄を思い浮かべたりしよう</u>としている。      ③言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。</p>	<p>①探検カードに書いてある春の生き物の名前を繰り返し声に出し、確かめているようであった。      ②春の生き物の写真を見せると名称を答えることができ、ものと名前を結び付けることができていた。また、探検カードに書いてある名前を繰り返し口に出して確かめたり、<u>アリの巣をつづいたときの気持ち</u>を「アリ、いっぱい！」と思い浮かべながら、表現したりすることができた。      ③活動のまとめとして行った発表では、アリとカエルがお気に入りで、それらを絵で表したことを発表したり伝えたりしようとする態度が見られた。</p>
	図工	<p>①・自分が感じたことや行ったことを通して、<u>形や色などの違いについて気付いている</u>。      ・身近な材料や<u>用具</u>を使い、かいたり、形をつくったりしている。      ②形や色などを基に、<u>自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている</u>。      ③つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>学習評価をすることで、子どもの学びが明確に捉えることができ、教師が授業する楽しさや面白さを実感することができた。</p>	<p>①さくらホールや鷺内稻荷神社、校庭などで春を探しに行き、見つけた春のものから「カエル」「アリ」を選び、<u>カエルは緑色、アリは黒を選んで</u>、<u>たんぽ</u>や指を使って表現することができた。      ②カエルを選び「大好き。」(最後の方で見つけて、ずっと触って袋に入れて持ち帰ってきた)、アリを選んで「いーっぱい。」(巣の中からたくさん出てきたところをたくさん眺めていた)と言っていた。<u>はじめにカエル(緑)を描き、その後、アリ(黒)がどんどんどんどんカエルの上を覆っていく！「あり、いっぱい！」と言いうながら！！巣からアリが出てくるところ、とまでは明確に言えないが、目で見たたくさんのあるを自分の表したいものとして表すことができた！お見事！！</u></p> <p>③この単元の B はものすごかった！表したいものが明確！1枚の絵の中にストーリーを持たせることができた。思いの詰まった絵である。</p>

<p>B 2段階</p>	 <span style="color: red;">★</span> <p>まず、自分がイメージしたカエルを描く。</p>	 <p>カエルの上を、「ありがいっぱい。」とありが巣からどんどん出てくるところ</p>
<p>まさに②思考・判断・表現の学びの姿</p>		
<p><b>各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮された姿</b></p> <p>【言語能力】</p> <p>○「語彙の段階的な獲得」「言語理解」等、<u>学んだことを活用できる言語能力</u>の育成を図る。</p> <p>〈評価〉</p> <p>実際に身近な公園に出掛け、そこで体験したアリが巣から出てくる様子を<u>その後の授業の中でも「あり、いっぱい。」と手を広げる身振りつきで表現することができた。</u>公園で様々な生き物に触れたことで、休み時間などでそれらの生き物を見つけると名前を言って先生に伝える様子が見られている。</p> <p style="text-align: right;"><span style="color: red;">★</span></p> <p>言語能力についても 学習評価を行い、次の指導に生かす。</p>		

C 1段階	生活	<p>①身の回りの自然に触れ、四季の特徴や自然について関心をもっている。      ②身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとしている。      ③身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。</p> <p>★ 習得状況の段階に応じて、1段階を学ぶ児童は、その段階に基づいて目標を立て、学習評価していく。</p>	<p>①校庭、鷺内稻荷神社、さくらホールへ春を探しに行った。触ることが苦手な植物も多かったが、呈示すると、対象に視線を向けるなど、関心をもつことができた。      ②春の生き物の写真と秋の生き物の写真を呈示し、「チューリップどっち？」など聞くと、「こっち。」と言いながら指をさして示すことができた。      ③さくらホールでは、教師とベンチで座り休憩をしながら、春を探す友達に目を向けたり、植物を介して教師とやりとりをしたりすることができた。</p>
	国語	<p>①身近な人の話し掛けに慣れ、<u>言葉が事物の内容を表していることを感じている。</u>      ②身近な人からの話し掛けに注目したり、<u>応じて答えよう</u>としたりしている      ③教師や友だちとのやり取りを通して、言葉や事物が表していることを感じたり、身近な人からの話しかけに応じて答えたりしようとしている。</p>	<p>①春の生き物を教師や友達が写真と合わせて言葉で伝える際に、<u>視線を向けて見る</u>ことができた。      ②選択肢を呈示されると、指をさし「<u>こっち。</u>」と<u>言って答える</u>ことができた。チューリップ、タンポポなど、身近な植物については答えることができた。      ③教師や友達の話しかけに絵や写真カードを指さして、考えて答えようとしていた。</p>
	図工	<p>①・自分が感じたことや行ったことを通して、<u>形や色などについて気付いている。</u>      ・身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどしている。      ②<u>形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料などから、表したいことを思い付いている。</u>      ③つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>①<u>青と黒の絵の具を選び</u>、たんぽで色をつけることができた。      ②お気に入りの春を決めて絵の具で制作を行った。お気に入りの春を、写真を選択肢として選んでもらうと「<u>オオイヌノフグリ</u>」を選び、それと<u>同じ青色を選び</u>、たんぽで<u>描く</u>ことができた。      ③絵の具と筆を使った制作を行なったが、書くことに興味の強い時期もあり、線をひいたり、ポンポンとしたりすることができた。</p> 

\*C の言語能力の評価はここでは省略する。

## <学習評価後の授業者の振り返り～日常使っている単元案の振り返りから～>

国語科の指導の要素が薄い・・・。これでは目標に迫っていないかもしない。国語の要素があるから、目標が立つのではない。これを忘れない。図画工作科は感動した。昨年から図画工作科の難しさを感じていたので（イメージをもつてどういうこと？）、高等部の専科の先生にお聞きして、製作が始まる前にイメージをもたせることを教えて頂いた。そこで、見つけた春の生き物の写真並べたり、経験を振り返ったりしながら、自分でお気に入りを決め、それに向かって造形を行うことにした。すると、Bの思考が絵という形になって私にも伝わったのだった。これは、本人が「イメージをもって、お！これが！？」と描かないと、こちらに伝わらなかった。もし、ただ色を塗るような授業では、思考・判断・表現については評価できないものだったようだ。学ぶ姿を見取る力量が必要といつも感じるが、それは、見方を変えると、こちらがいかに評価できる指導をしているのか、資質・能力を引き出し育むための問いや、教材の工夫が必要なのかもしれない。



### 【学習評価の成果】

授業者は、学習評価に取り組むことで、教科等の特質や知的障害の特性に応じた学び方について単元構想し、学習評価することで、指導と評価の一体化について実践から多くの知見を得て、次の授業改善、単元作りに生かすことができた。また、授業者の学習評価の力の向上は、授業力向上だけでなく、子どもの学びの瞬間と一緒に味わうことができ、授業者もその喜びから、「あの瞬間、～に感動した。」という授業の子ども達の学びを教員同士が伝え合う機会も増えてきた。そして、「次の単元でも同じように味わってみたい」という好サイクルを回す授業者が増えてきており、教員の授業への向き合い方、働き方の変化にもつながっている。

### イ 評価に際してどのような姿を元に評価したのか

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

単元構想における評価計画にしたがって指導し、その時の児童の言葉や身体表現、ワークシート等から、観点別学習状況の評価を行い、指導と評価の一体化を図った。



単元は、日常的にあるもの。単元研究会<sup>\*1</sup>以外は、日々の言動やワークシート等の事実に基づいて、T・T間等で話し合うなどして学習評価を行う。シンプルであるが、日常的に評価規準に向き合って学習評価のサイクルを回し、その気付きや得た知見を次の授業や単元に生かしていくことを大切にしている。



普段から学習評価

\* 1 : 単元研究会における学習評価について

研究授業などの後に行われる単元研究会では、本時の学びの記録（子供たちの言動が記された記録）を基に、本時で育む資質・能力と照らし合わせて、複数の人数で観点別学習状況の評価に取り組み、授業提供者がその後の単元での指導等に生かせるようにしてきた。また、単元研究会では、教員同士がペアを組んで、どんな言動が評価できるのか、できないのか等を話し合うことで、観点別学習状況の評価の仕方について考え方を深めることができ、教員全体で学習評価をする力が高まり、結果として授業改善につながることができるようになった。  
＊詳しくは、次ページのホームページ資料より

(3) ⇒ ⑧「かめる、かためる。」「ほる。」「あおい、すな、すこ。」  
 ⑨写真を見つめる。遠くを見る。⑩を見る。  
 それぞれの作戦タイムにして。  
 T「封筒(ヒトカード)見る?」⑪封筒を受け取る。  
 Tとのやりとりにはうなずきで返す。カードを遞んで⑫「シャベル！」

11:20  
 (20) 【お山とトンネル作り】  
 ⑬手で山を作り固め始める。  
 T「新しい山を作る?」⇒ ⑭うん。うん。どうなくす。  
 T「シャベルどっちがいい?」⇒ ⑮自分から選んで使い始める。生⑯  
 ⑯がやっているところに、⑯来て「もやもや！」と参加。⑰うん。  
 ⑯シャベルでトンネルと固め始める。  
 ⑯と安代Tのやりとりを開いて、ヒトカードの方をちらっと見る。  
 砂を取る範囲を広げる。手で固め始める。⑯の様子を見る。生⑰  
 安代Tからじょうのり受け取る。  
 水をかけて山をトントンと固める。じょうろを逆さまにしてドバッと水がこ  
 てしまう。  
 シャベルでトンネルを掘る。夢中にたる手でトンネルを掘る。  
 ⑯「ぜんぜん。」かたむ。「でた。」  
 できたトンネルを崩れないように固め始める。  
 自分から道をシャベルで掘る。トンネルをのぞき込んでシャベルで  
 める。  
 Tより「見てみて！」トックのおもちゃを渡す。通らない。  
 ⑯「へーかわいいね。」机上で「うら」⇒ お園子を作り始め。トック



写真：学びの記録（子どもたちの言動）から、何が身に付いたのか、複数の視点で学習評価をしている場面

ウ 研究授業だけでなく、普段の授業の学習評価がカリキュラム・マネジメントへ

本校では、教科別の指導と同様に、普段から各教科等を合わせた指導においても、教科等別に明確にした資質・能力、評価規準にしたがって本校では学習評価を積み重ねている。

下記は、その学習評価の一部である。

それぞれの授業者が各教科等の資質・能力に向き合い、単元構想し、学習評価をする。このサイクルを多く回している実践者は、経験年数に関係なく、指導と評価の一体化を常に考え、資質・能力と向き合い、日々の授業が確実に変化し、子供達の学びが充実していくことが明確になってきている。

これは、あくまでも一部であり、どれも、異なる単元、複数の授業者が行っている学習評価である。研究授業だから行うのではなく、普段からの取組みが広がり、各教科等を合わせた指導の知的障害の特性に応じた学びとして効果的である瞬間が、学習評価から確実に見えてきた。これらの人一人の授業者の確かな学習評価の結果から、「各教科等を合わせた指導ありき」の教育課程ではなく、学校の創意工夫として効果的に取り扱う指導形態として各教科等を合わせた指導を行うことを次年度の教育課程に明記することとした。私たちの日々の学習評価がカリキュラム・マネジメントへつながっていることを実感している。

今後も相馬支援学校として、知的障害のある子供たちの力を最大限伸ばしていくよう、「何が身に付いたのか」「何ができるようになったのか」観点別学習状況の評価に愚直に向き合いながら、資質・能力が育成できるように励んでいきたい。

(執筆担当：協力機関F校)

ホームページに掲載した単元研究会で学習評価の様子

## 【日々の研修コラム～単元研究会～】

7月21日(木)に、初任者研修の単元研究会を行いました。

本校の単元研究会は

- ①授業での学びの姿を見取る → 学びの質を捉える
- ②学習評価及び授業改善の実施 → 指導と評価の一体化
- ③単元の構想の改善及び教科等横断的な視点に立った資質・能力の評価・改善  
→ 単元のまとまり、枠を越えた力を深める



という流れで行い

「本時の授業力の向上」 「単元全体の構成力の向上」  
「枠を越えた力の指導力向上」

を短時間で効率的に考え、参加者も含めて次の授業力につなげたり、日々の単元から「教育活動の質の向上」を図ったりすることを目的としています。



【学びの姿を見取っている場面】

①では、学びの記録という授業の中での生徒や教師の言動について、目標を意識しながら、どのような姿が見られたかを読み取っています。その際、“黙読タイム”をとり、一人一人の先生方の学習評価する視点を高めながら、②において事実に基づく多面的な学習評価を実施しています。「何が身に付いたのか」をまず明確にすることで、授業改善の議論やその後の議論がブレないようになり、多くのアイディアが出て、授業者だけでなく参加者にとっても学ぶ時間となりました。



【授業者の声】

- 授業を、そして生徒の学びを客観的にみていただいて、新しい気付きや自分偏った見方に気づきました。今後の授業づくりで気を付けていきます。
- 単元で取り組んだ「体つくり運動」を今回で終わるのではなく、他教科ともつなげて、「継続」して伝えていくことが大切だと感じました。



## ⑥ 実践に関する考察

### ア 児童生徒の実態と学習指導要領を踏まえた単元づくり

#### (ア) 児童生徒の実態と単元の目標設定

F校では、12年間を見通した年間指導計画及び単元配列表等を活用し、一人一人の習得状況（学びの履歴）に応じて単元を設定している。日々の授業づくりにおいては単元案を充実させ、学習指導要領で示されている単元づくりで押さえるべき点を考慮しながら、単元を構想している。そして、着実な学習評価を行うため、単元の目標となる育成すべき資質・能力を明確化し、授業実践につなげている。単元案では、教科等横断的な視点に立った資質・能力についても明確化され、意図的に育成を目指すようになっている。これらの取組は、先進的な取組であり、大変参考になると言える。また、教科別の指導もしくは各教科等を合わせた指導の指導形態について、教科会で検討し、合わせた方が効果的である指導内容などが学校として説明できる体制となっていることについても、教職員一人一人の意識の高さと組織力が表れている。

#### (イ) 学習指導要領と評価規準の設定

F校の単元案には、学校教育目標と各学部目標を常に明記し、令和2年4月文部科学省から示された「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」に基づいて、単元で育む資質・能力の具体的な評価規準を設定している。つまり、学習指導要領の「(2) 内容」の記載を単元目標とし、単元目標に準拠した評価規準を作成していることが基本となっている。また、各教科等を合わせた指導においても教科別に育成を目指す資質・能力を明確にし、評価規準を設定し、学習評価を行っている。F校の単元案は、単元のまとまりを見通した単元研究を積み重ねながら蓄積されており、その活用方法については、個別の指導計画と連動するなど校内の業務短縮にもつながり、大きな成果がある。

### イ 考察

F校は、3年間行う研究の前年度に、新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチームを立ち上げ、育成を目指す資質・能力と学校教育目標の可視化を行い、教職員及び保護者等へ周知を図ってきた。これにより、管理職を中心に学校が目指すべき方向性が示されたと言える。

3年間の研究の出発点の一つとして、資質・能力に向き合った日々の授業作りに取り組み、単元のまとまりを見通した単元研究に力を入れてきた。単元研究を通して、教職員の中から、「自分の授業をよくしたい」など、学校として何をすれば授業力が向上するのかを主体的に考え、議論し、気付き始めたことが大きな一歩であったと言える。そこから、さらに一人一人の教職員が主体的・対話的で深い学びを重ねたことで、様々な改善や開発、研修を行い、成果へとつながったと考える。

実践事例にある取組は日常的に行われ、学習評価及び授業改善の実施を通し、指導と評価

の一体化が図られてきた。日々の授業改善は教育活動の質の向上につながっており、単元で必要な要素を全てシンプルに押さえた単元案の活用が多く教職員へと広がっている。学習評価においては、実践事例にあるように、子供たちの言動やワークシート等を活用して学びを見取ることを基本としている。同時に、単元研究会で教職員同士が学び合うなど、学びの質を捉える力も高めてきた。

このような普段の授業の学習評価が、カリキュラム・マネジメントの実現と教職員が自信を持って授業に臨む姿に反映されている。引き続き、学習評価に向き合う時間の確保や持続可能な継続性、どの学校でも取り組める再現性の工夫について、全国へ発信していくことが期待される。学習指導要領の着実な実施に向けた取組を組織として推進することができている学校であると言える。

(執筆担当者 嶋野隆文)

## 7. 事例研究に関する考察

本報告書で示した事例を、単元作成プロセスモデル（表IV-7-1）と学習評価方法は表IV-7-2のように整理することができる。

表IV-7-1 単元作成プロセスモデル

教科別の指導単元作成プロセスモデルⅠ（教科別モデルⅠ）	取り扱う内容の段階が一つのモデル
教科別の指導単元作成プロセスモデルⅡ（教科別モデルⅡ）	取り扱う内容の段階が複数のモデル
教科等を合わせた指導単元作成プロセスモデルⅠ（合わせた指導モデルⅠ）	取り扱う各教科等の内容の段階が一つずつのモデル
教科等を合わせた指導単元作成プロセスモデルⅡ（合わせた指導モデルⅡ）	取り扱う各教科等の内容の段階が複数のモデル
教科等を合わせた指導単元作成プロセスモデルⅢ（合わせた指導モデルⅢ）	取り扱う各教科等の内容を踏まえて「指導目標」として設定するモデル

研究協力機関の事例研究の学習評価では、教科別の指導、教科等を合わせた指導とともに、評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫と、評価規準に対して、個別に評価につながる具体的な様子を端的な文章で記述し、文章で評価を記述する工夫の二つの方法がとられていた。

知的障害のある児童生徒の学習の達成状況は、ペーパーテストなどで判断することが難しい場合が多く、児童生徒の普段の様子を踏まえて、どのような姿の場合に学習目標が達成されるかを想定することが求められる。そのため、事前に達成の度合いにレベルを設けたり、個々に評価につながる具体的な様子を想定したりするという工夫が考えられる。

合わせた指導においても、学習評価は教科の資質能力を元に行うこととなるため、基本的には、同様の方法がとられている。

各事例における単元作成プロセスと学習評価方法を踏まえると、児童生徒の学習状況の把握の上で、取り扱う内容に適した題材を選定し、その学習においての児童生徒の学習の様子を想定した上で単元作成が行われている。例え同じ段階にいる児童生徒であっても、個々の知的障害の状態は様々であることから、評価規準の設定のみではなく、細やかな評価が可能な工夫が行われていることが分かる。

表IV-7-2 各事例の単元作成プロセスモデルと学習評価方法の整理

教科別の指導事例		
	モデル	学習評価方法
(1) 国語科で、段階別に評価規準を設定し、生徒の自己評価も含めた学習評価をした事例（令和3年度）	教科別モデルⅡ	評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫 特記する内容を文章で記述
(2) 国語科で、取り扱う内容の段階が一つの集団に共通の評価規準を設定し、A B Cの評語で評価レベルを分けて学習評価をした事例（令和4年度）	教科別モデルⅠ	評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫
(3) 国語科で、取り扱う内容の段階が1つの集団に共通の評価規準を設定し、想定される学習状況を記述した評価レベルを設定して学習評価をした事例（令和4年度）	教科別モデルⅠ	評価規準毎にレベルを設けて、評語で記録できるような工夫 特記する内容を文章で記述
(4) 算数科で、取り扱う内容の段階が一つの集団に共通の評価規準を設定し、A B Cの評語で評価レベルに分けて学習評価をした事例（令和3年度）	教科別モデルⅠ	評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫
(5) 社会科で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し、個別に指導目標を立て学習評価をした事例（令和4年度）	教科別モデルⅡ	評価規準に対して、個別に評価につながる具体的な様子を端的な文章で記述し、文章で評価を記述
(6) 体育科で、取り扱う内容の段階が1つの集団に共通の評価規準を設定し、想定される学習状況を記述した評価レベルを設定して学習評価をした事例（令和3年度）	教科別モデルⅠ	評価規準毎にレベルを設けて、評語で記録できるような工夫 特記する内容を文章で記述
(7) 音楽科で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準と個別の目標を設定して学習評価をした事例（令和4年度）	教科別モデルⅡ	生活年齢段階に応じた目標・規準に対して、個別の目標毎に文章で評価を記述
各教科等を合わせた指導における単元作成と学習評価		
(1) 作業学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し、個別に指導目標を立て学習評価をした事例（令和3年度）	合わせた指導モデルⅡ	共通の目標・規準に対して、個別の目標毎に文章で評価を記述
(2) 生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準を設定し個別に達成状況を評価した事例（令和4年度）	合わせた指導モデルⅢ	評価につながる具体的な様子を端的な文章で記述 評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫

(3)遊びの指導で、重複障害のある児童に共通の評価規準を設定し個別に達成状況を評価した事例（令和4年度）	合わせた指導モデルⅢ	評価につながる具体的な様子を端的な文章で記述 評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫
(4)作業学習で、段階別に評価規準を設定し、生徒の自己評価も含めた学習評価をした事例（令和4年度）	合わせた指導モデルⅡ	評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫 特記する内容を文章で記述
(5)生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に共通の評価規準と個別の目標を設定して学習評価をした事例（令和4年度）	合わせた指導モデルⅢ	評価につながる具体的な様子を端的な文章で記述 評価規準毎に、レベルを設けて、評語で記録できるような工夫
(6)生活単元学習で、取り扱う内容の段階が複数の集団に生活年齢に応じた共通の評価規準を設定した上で、段階別の評価規準を用いて学習評価をした事例（令和4年度）	合わせた指導モデルⅡ	共通の目標・規準に対して、個別の目標毎に文章で評価を記述